Canon

EOS 6D

EOS 6D (WG)

使用説明書

はじめに

EOS 6D (WG) は、有効画素数約2020万画素・約35.8×23.9mmフルサイズCMOSセンサー、DIGIC 5+、高精度・高速11点AF、最高約4.5コマ/秒連続撮影、ライブビュー撮影、フルハイビジョン（Full HD）動画撮影機能、Wi-Fi機能、GPS機能を搭載した、高性能デジタル一眼レフカメラです。

本機は、いつでもすぐに撮影できる優れた機動性、高度な撮影に最適対応する豊富な撮影機能、撮影領域をさらに拡大する幅広いシステム拡張性など、さまざまな特長を備えています。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

デジタルカメラは、撮影した結果をその場ですぐに見ることができます。本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

なお、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（16、17ページ）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

使用できるカードについて

カードの容量に関係なく、下記のカードが使用できます。
・SDメモリーカード
・SDHCメモリーカード*
・SDXCメモリーカード*
 * UHS-Iカード対応

動画が記録できるカードについて

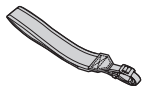
動画を撮影するときは、書き込み/読み取り速度が下表の速度以上で、大容量のカードを使用してください。

圧縮方式（p.216）	カード
IPB	6MB/秒以上
ALL-I（I-only）	20MB/秒以上

- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影中に静止画を撮影するときは、さらに高速なカードが必要です。
- カードの書き込み / 読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

本書では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。
※ 画像を記録する**カードは付属していません**。別途ご購入ください。

カメラと主な付属品

　使用する前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

※ 使用説明書とCD-ROMについては、次ページを参照してください。
※ レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
※ レンズキットの種類により、レンズの使用説明書が入っていることがあります。
※ 付属品は、なくさないように注意してください。

使用説明書とCD-ROMについて

　使用説明書は、冊子とCD-ROMに収録されている電子マニュアル（PDF形式）があります。

カメラ使用説明書
（本書）

Wi-Fi機能（基本編）**/**
GPS機能 使用説明書

Wi-Fi/GPS機能規制に関するご注意

ポケットガイド
基本的なカメラの機能設定と、撮影、再生方法を簡単に説明しています。

お客様ご相談窓口、修理受付窓口一覧／安全上のご注意

カメラ使用説明書CD-ROM
下記の電子マニュアル（PDF形式）が収録されています。
・カメラ使用説明書（本書と同じ内容）
・Wi-Fi機能 使用説明書（詳細版）

ソフトウェア使用説明書CD-ROM
ソフトウェアCD-ROMに収録されているソフトウェアの電子マニュアル（PDF形式）が収録されています。

*使用説明書CD-ROMの見かたについては、388、395ページを参照してください。

ソフトウェアCD-ROM（EOS DIGITAL Solution Disk）
画像編集などのソフトウェアが収録されています。ソフトウェアの概要やパソコンへのインストール方法は、392～394ページを参照してください。

本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字について

〈 〉 ：メイン電子ダイヤルを示しています。

〈 〉 ：サブ電子ダイヤルを示しています。

〈 〉〈▲▼〉〈◀▶〉 ：マルチコントローラーと、マルチコントローラーを押す方向を示しています。

〈SET〉 ：設定ボタンを示しています。

4／6／10／16 ：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ4秒／6秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

MENU ：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用 ：ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン（p.24）限定で使用できる機能であることを示しています。

（p.＊＊）：参照ページを示しています。

：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

：補足説明や補足事項を記載しています。

：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

？ ：困ったときの手助けになる事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈ON〉、〈LOCK▶〉スイッチが左側（マルチ電子ロック解除）になっていることを前提に説明しています（p.34、47）。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF50mm F1.4 USMレンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方は、1章、2章までの説明で、このカメラの基本的な操作・撮影方法がわかるようになっています。

目　次

はじめに　2

1　撮影前の準備と操作の基本　27

2 かんたん撮影 65

3 AF ／ドライブの設定 91

4 画像に関する設定 101

機能目次

露出調整

ストロボ

ライブビュー撮影

動画撮影

再生

画像加工

印刷

カスタマイズ

センサークリーニング／ダスト除去

Wi-Fi／GPS

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などでミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らないでください。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

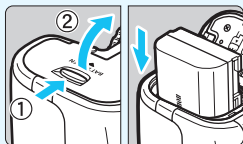
レンズについて

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

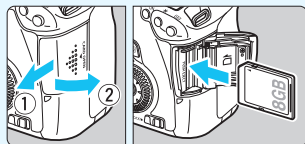
長時間使用時のご注意

連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがありますので、ご注意ください。

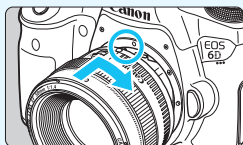
すぐ撮影するには

1

電池（バッテリー）を入れる（p.30）

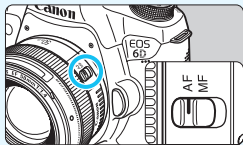
- 電池の充電方法については 28 ページを参照してください。

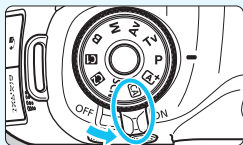
2

カードを入れる（p.31）

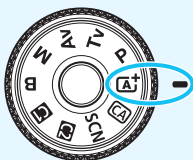
- カードの表を、カメラの背面側にして差し込みます。

3

レンズを取り付ける（p.39）

- 赤い指標に合わせて取り付けます。

4

レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.39）

5

電源スイッチを〈ON〉にする（p.34）

- 液晶モニターに日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、36ページを参照してください。

モードダイヤルの中央を押しながら、〈A+〉（シーンインテリジェントオート）にする（p.66）

- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

7

ピントを合わせる（p.44）

- ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

撮影する（p.44）

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9

撮影した画像を確認する（p.55）

- 撮影した画像が液晶モニターに２秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.236）。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、『ライブビュー撮影』（p.179）を参照してください。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.236）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.267）を参照してください。

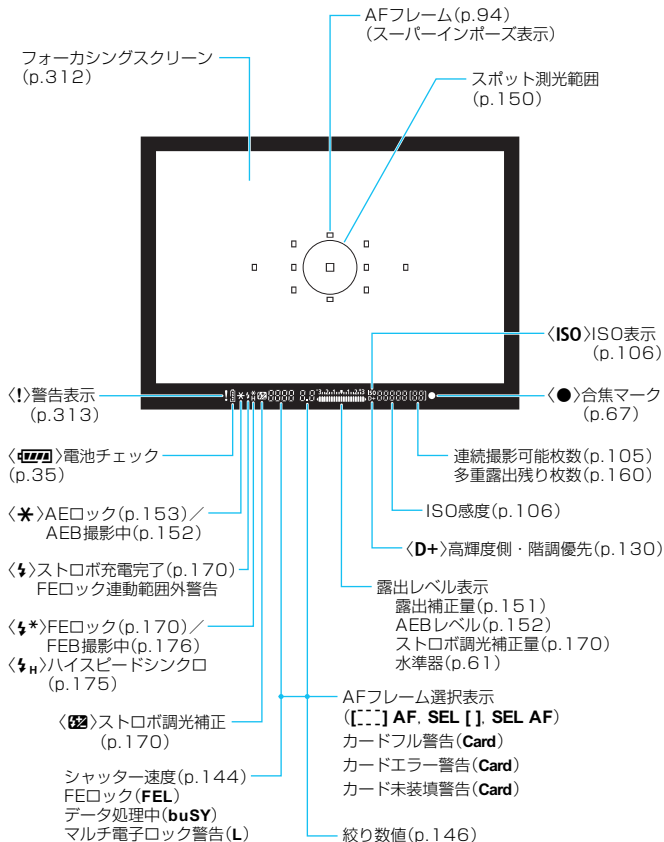
各部の名称

表示パネル(p.22)
〈ISO〉ISO感度設定ボタン(p.106)
〈測光モード〉測光モード選択ボタン(p.149)
〈表示パネル照明〉表示パネル照明ボタン(p.48)
〈メイン電子ダイヤル〉メイン電子ダイヤル(p.45)
シャッターボタン(p.44)
セルフタイマーランプ(p.100)
リモコン受信部(p.167)
グリップ(電池室)
DCカプラーコード通し部(p.338)
絞り込みボタン(p.147)
ミラー(p.165、283)
〈DRIVE〉ドライブモード選択ボタン(p.98)
〈AF〉AF動作選択ボタン(p.92)
レンズ取り付け指標(p.39)
シンクロ接点
アクセサリーシュー(p.170)
モードダイヤルロック解除ボタン(p.45)
モードダイヤル(p.24)
ストラップ取り付け部(p.27)
スピーカー(p.253)
マイク(p.219)
レンズロック解除ボタン(p.40)
レンズロックピン
レンズマウント
接点(p.17)
Canon
EOS 6D
〈A/V OUT / DIGITAL〉映像/音声出力・デジタル端子(p.264 / 286、390)
〈リモコン〉リモコン端子(N3タイプ)(p.167)
〈MIC〉外部マイク入力端子(p.219)
〈HDMI OUT〉HDMIミニ出力端子(p.261)
A/V OUT
DIGITAL
HDMI OUT
MIC
ボディキャップ(p.39)

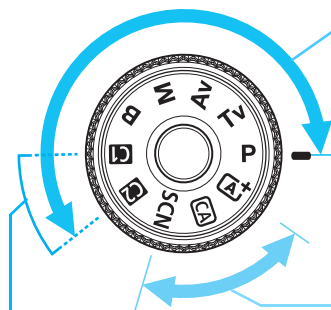
〈⊖〉撮像面マーク
〈📷／🎥〉ライブビュー撮影／動画撮影スイッチ（p.179／203）
〈START/STOP〉スタート・ストップボタン（p.180、204）
視度調整つまみ（p.43）
アイカップ（p.166）
ファインダー接眼部
電源スイッチ（p.34）
〈MENU〉メニューボタン（p.51）
〈INFO.〉インフォボタン（p.48、60、64、182、210、236、332）
液晶モニター（p.51、269）
三脚ねじ穴
〈Q〉インデックス／拡大／縮小ボタン（p.242／244）
〈▶〉再生ボタン（p.236）
〈✥〉マルチコントローラー（p.47）
〈🗑〉消去ボタン（p.267）
〈AF-ON〉AFスタートボタン（p.44、181、211）
〈✱〉AEロック／FEロックボタン（p.153／170）
〈⊞〉AFフレーム選択ボタン（p.94）
〈Q〉クイック設定ボタン（p.49）
ストラップ取り付け部（p.27）
カードスロットカバー（p.31）
電池室ふた開放レバー（p.30）
電池室ふた（p.30）
アクセスランプ（p.33）
マルチ電子ロックスイッチ（p.47）
〈SET〉設定ボタン（p.51）
〈◎〉サブ電子ダイヤル（p.46）
カードスロット（p.31）
Canon
CARD OPEN
LOCK
START/STOP
PUSH EJECT

表示パネル

状況に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示

状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

　モードダイヤルの中央（モードダイヤルロック解除ボタン）を押しながら回します。

応用撮影ゾーン

　思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P　：プログラムAE（p.142）
Tv：シャッター優先AE（p.144）
Av：絞り優先AE（p.146）
M　：マニュアル露出（p.148）
B　：バルブ（p.154）

かんたん撮影ゾーン

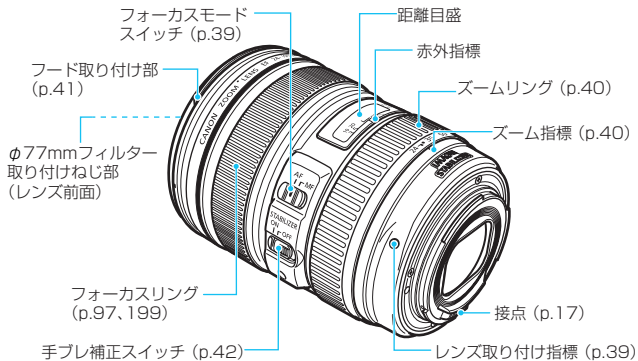
　基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます。

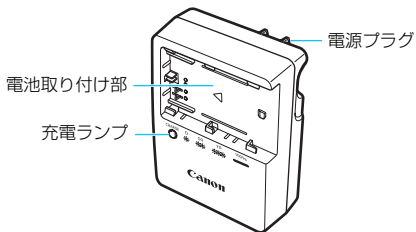
A+：**シーンインテリジェントオート**（p.66）
CA：**クリエイティブオート**（p.71）
SCN：**スペシャルシーン**（p.74）
　：ポートレート（p.75）
　：風景（p.76）
　：クローズアップ（p.77）
　：スポーツ（p.78）
　：夜景ポートレート（p.79）
　：手持ち夜景（p.80）
　：HDR逆光補正（p.81）

カスタム撮影モード

　撮影モード（**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**）やAF動作、メニュー機能などを、C1、C2に登録して撮影することができます（p.328）。

レンズ

EF24-105mm F4L IS USM

バッテリーチャージャー LC-E6

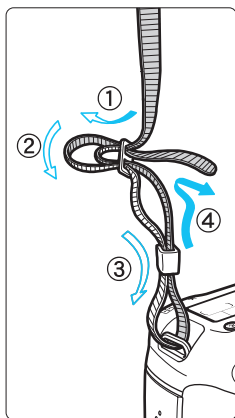
バッテリーパック LP-E6の充電器です（p.28）。

注意

指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。
使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

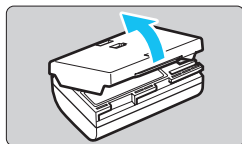
1

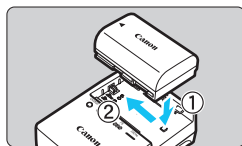
撮影前の準備と操作の基本

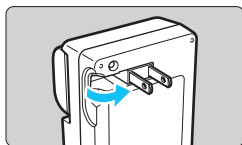
　この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。

ストラップ（吊りひも）の取り付け方

　ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています（p.166）。

電池を充電する

1 保護カバーを外す

- 付属の保護カバーを外します。

2 電池を取り付ける

- 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。

3 電源プラグを起こす

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。

4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点滅します。

充電状態	充電ランプ	
	色	表示
0～49%	オレンジ	1回／秒：点滅
50～74%		2回／秒：点滅
75%以上		3回／秒：点滅
充電完了	緑	点灯

- **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間30分です。なお、充電時間は、周囲の温度や残容量によって大きく異なります。**
- 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では、充電時間が長くなります（最長約4時間）。

電池と充電器の上手な使い方

- **購入時、電池はフル充電されていません**
  充電してからお使いください。

- **充電は、使用する当日か前日にする**
  充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

- **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

- **保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする**
  充電済みの電池に付属の保護カバーを取り付けるときは、電池の青いシールに保護カバーの窓〈□〉が重なるようにします。使用済みの電池のときは、180度回して取り付けます。

- **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**
  電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。電池の保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

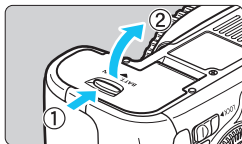
- **充電器は海外でも使うことができる**
  充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

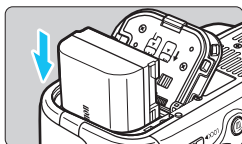
- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**
  電池の劣化度（p.334）を確認した上で、新しい電池をお買い求めください。

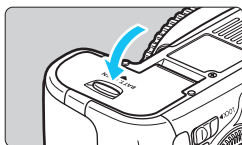
- 充電器をコンセントから取り外したときは、約3秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- バッテリー残容量（p.334）が94%以上のときは、充電は行われません。
- 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E6以外は充電できません。

電池を入れる／取り出す

充電したバッテリーパック LP-E6をカメラに入れます。

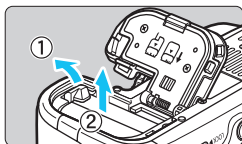
入れ方

1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。

2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押して閉じます。

バッテリーパック LP-E6以外は使用できません。

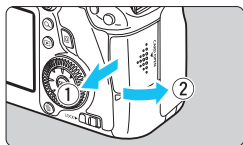
取り出し方

ふたを開けて、電池を取り出す

- 電池ロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に付属の保護カバー（p.28）を取り付けてください。

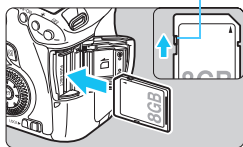
カードを入れる／取り出す

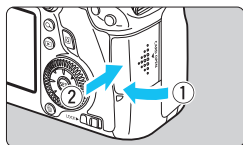
カード（別売）は、SD/SDHC/SDXCメモリーカードが使えます。また、UHS-I 対応のSDHC/SDXCメモリーカードも使えます。撮影した画像は、カードに記録されます。

カードの書き込み禁止スイッチが上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

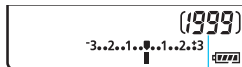
入れ方

1 カバーを開ける

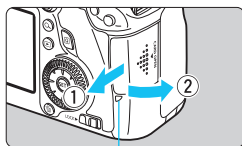
- カバーを矢印の方向にスライドさせてから開きます。

書き込み禁止スイッチ

2 カードを入れる

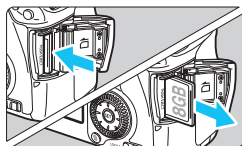
- **図のようにカードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。**

撮影可能枚数

3 カバーを閉める

- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。
- 電源スイッチを〈ON〉にすると、液晶モニターに撮影可能枚数（p.35）が表示されます。

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- ［**1：カードなしレリーズ**］を［**しない**］に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（p.346）。

取り出し方

アクセスランプ

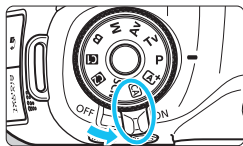
1 カバーを開ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- **アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。**
- ［**書き込み中 …**］と表示されたときは、カバーを閉じてください。

2 カードを取り出す

- カードを軽く押し込んで離すと、出てきます。
- カードをまっすぐ取り出して、カバーを閉じます。

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になりますので、絶対に行わないでください。**
  ・カードを取り出す
  ・電池を取り出す
  ・カメラ本体に振動や衝撃を与える
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から始まらないことがあります（p.136）。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください（p.53）。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの接点に、指や金属が触れないように注意してください。

電源を入れる

電源スイッチを入れたときに、**日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、36ページを参照して日付/時刻/エリアを設定してください。**

〈ON〉：カメラが作動します。
〈OFF〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

撮像素子の自動清掃について

- 電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、液晶モニターに〈〉が表示されます。
- 清掃中でもシャッターボタンを半押し（p.44）すると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈〉が表示されないことがありますが、故障ではありません。

MENU オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押し（p.44）すると、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、［**2：オートパワーオフ**］で変更することができます（p.55）。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、［**書き込み中...**］が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池チェックについて

電池の残量は、電源スイッチを〈ON〉にしたときに、6段階で表示されます。電池マークが点滅（ ）したときは、もうすぐ電池切れになります。

表示						
残量（%）	100~70	69~50	49~20	19~10	9~1	0

撮影可能枚数の目安

［約・枚］

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能枚数	1090	980

- フル充電のバッテリーパック LP-E6使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- バッテリーグリップ BG-E13使用時の撮影可能枚数
  - ・LP-E6×2個使用時：カメラ単体時の約2倍
  - ・単3形アルカリ乾電池使用時（常温+23℃）：約480枚

- 下記の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - ・シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - ・AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使用する
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、181ページを参照してください。
- ［**4：バッテリー情報**］で、電池の状態を詳しく確認することができます（p.334）。
- バッテリーグリップ BG-E13に単3形電池を使用したときは、4段階表示になります（［ / ］は表示されません）。

MENU 日付／時刻／エリアを設定する

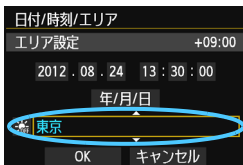
初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、電源を入れると、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されますので、以下の操作手順に従って、エリアから設定してください。住んでいるエリア（地域）を設定しておくと、他の地域に旅行したときは、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日時に自動的に変更されます。

撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

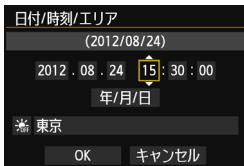
1 メニューを表示する

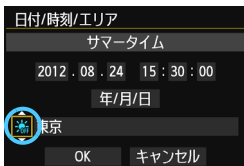
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

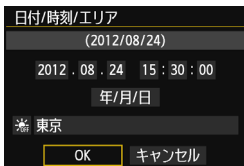
2 ［¥2］タブの［日付/時刻/エリア］を選ぶ

- 〈◄►〉を押して［¥2］タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して［**日付/時刻/エリア**］を選び、〈SET〉を押します。

3 エリアを設定する

- **初期状態では［ロンドン］に設定されています。**
- 〈◄►〉を押してエリアの欄を選びます。
- 〈SET〉を押して、〈⬦〉の状態にします。
- 〈▲▼〉を押してエリアを選び、〈SET〉を押します（〈▭〉の状態に戻ります）。

- メニュー機能の設定操作は、51、52ページを参照してください。
- 画面の右上に表示される時間は、協定世界時との時差です。設定したいエリアがないときは、時差を参考にエリアを選択してください。

4 日付/時刻を設定する

- 〈◀▶〉を押して項目を選びます。
- 〈SET〉を押して、〈⇕〉の状態にします。
- 〈▲▼〉を押して設定し、〈SET〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。

5 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◀▶〉を押して［☀OFF］を選びます。
- 〈SET〉を押して、〈⇕〉の状態にします。
- 〈▲▼〉を押して［☀］を選び、〈SET〉を押します。
- サマータイムを［☀］にすると、手順4で設定した時刻が、1 時間進みます。［☀OFF］にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。

6 設定を終了する

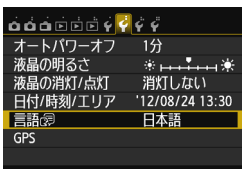
- 〈◀▶〉を押して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 日付/時刻/エリア、サマータイムが設定され、メニューに戻ります。

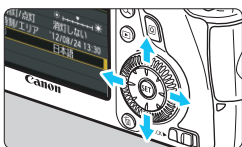
カメラから電池を取り出して保管したり、カメラの電池残量がなくなったときは、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。

- 設定した日付/時刻のカウントは、手順6で〈SET〉を押したときに始まります。
- エリア設定を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。

MENU 表示言語を選ぶ

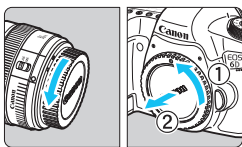
1 メニューを表示する

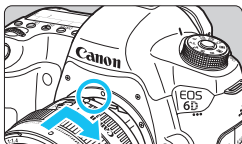
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 [¥2] タブの [言語] を選ぶ

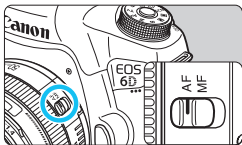
- 〈◄►〉を押して [¥2] タブを選びます。
- 〈▲▼〉を押して、[言語] を選び、〈SET〉を押します。

3 言語を設定する

- 〈▲▼〉を押して言語を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示言語が切り換わります。

レンズを取り付ける／取り外す

すべてのEFレンズを使用することができます。なお、**EF-S、EF-Mレンズは使用できません。**

1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2 レンズを取り付ける

- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

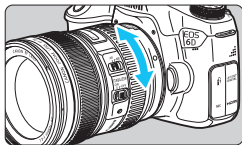
- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせの略です。
- 〈**MF**〉（Manual Focus：手動ピント合わせ）になっていると、自動ピント合わせができません。

4 レンズキャップを外す

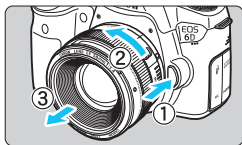
ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

ズーム操作について

ズーム操作は、レンズのズームリングを手で回します。

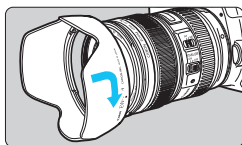
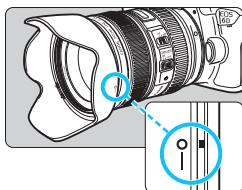
ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

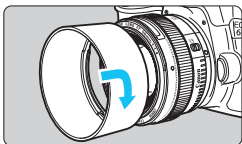
- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

フードの取り付け方

レンズフードを取り付けると、有害な光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズの前面を保護することができます。なお、レンズをバッグなどに収納するときは、フードを逆向きに取り付けることもできます。

フードとレンズに取り付け指標が「ある」場合

1 フードの赤いマークと、レンズ先端の赤い指標を合わせ、矢印の方向に回す

2 図の位置まで回す

- フードを時計方向に回して確実に取り付けます。

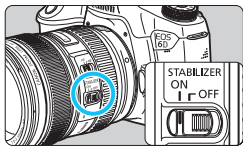
フードとレンズに取り付け指標が「ない」場合

フードを取り付ける

- フードを矢印の方向に回して、確実に取り付けます。

- 取り付け指標があるレンズのときは、フードが正しく取り付けられていないと、フードにより画面の周囲がケラレて暗くなることがあります。
- フードの取り付け／取り外しを行うときは、フードの根元を持って回してください。フードの先の方を持つと変形して回らなくなることがあります。

レンズの手ブレ補正機能について

手ブレ補正機能を内蔵したレンズを使用すると、撮影するときのわずかなカメラの動き（手の揺れ）を補正して、鮮明な写真を撮ることができます。EF24-105mm F4L IS USMレンズを例にして、手ブレ補正機能の説明をします。

＊ ISは、Image Stabilizer（イメージスタビライザー）の略で、手ブレ補正機能のことです。

1 手ブレ補正スイッチを〈ON〉にする

- カメラの電源スイッチも〈ON〉にしておきます。

2 シャッターボタンを半押しする

➡ 手ブレ補正機能が働きます。

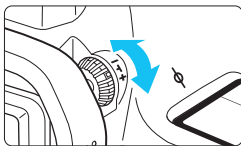
3 撮影する

- ファインダー像が安定したことを確認してから、シャッターボタンを全押しして撮影します。

- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
- バルブ撮影時は、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にしてください。〈ON〉で撮影すると、手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
- 大きく揺れ動く乗り物などから撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- EF24-105mm F4L IS USMで流し撮りを行うと、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。

- 手ブレ補正機能は、レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉〈MF〉のどちらでも働きます。
- 三脚使用時に手ブレ補正スイッチが〈ON〉でも問題なく撮影できますが、電池の消耗を防ぐため、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 一脚を使用した撮影でも、手ブレ補正効果が得られます。

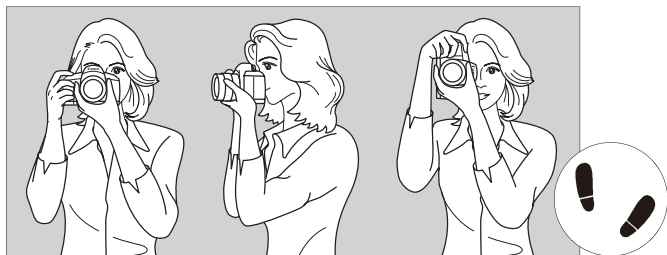
撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する

視度調整つまみを回す

- ファインダー内の AF フレームが最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- つまみが回しにくいときは、アイカップを取り外します（p.166）。

視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えないときは、別売の視度補正レンズE（10種）の使用をおすすめします。

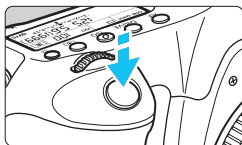
カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

横位置　　縦位置

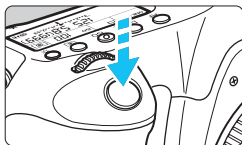
①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
⑥カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

液晶モニターを見ながら撮影するときは、179ページを参照してください。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、ファインダー内と表示パネルに表示されます（⏱4）。

全押し

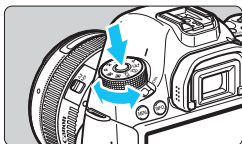
シャッターが切れて撮影されます。

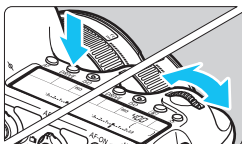
手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

- 前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

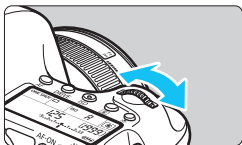
- 応用撮影ゾーンでは、〈AF-ON〉ボタンで半押しと同じ操作ができます。
- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

モードダイヤル

ダイヤル中央のロック解除ボタンを押しながら回す

メイン電子ダイヤル

(1) ボタンを押したあと〈〉を回す

〈AF〉〈DRIVE〉〈ISO〉ボタンなどを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈〉を回します。

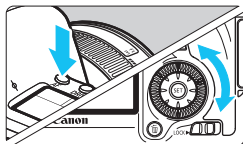
タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AF動作、ドライブモード、ISO感度、測光モード、AFフレームの選択・設定などに使用します。

(2) 〈〉のみを回す

ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈〉を回します。

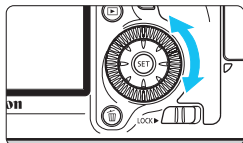
- シャッター速度や絞り数値の設定などに使用します。

（1）の操作は、〈LOCK▶〉スイッチが右側（マルチ電子ロック／p.47）でも行うことができます。

◎ サブ電子ダイヤル

(1) ボタンを押したあと〈◎〉を回す

〈AF〉〈DRIVE〉〈ISO〉ボタンなどを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈◎〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

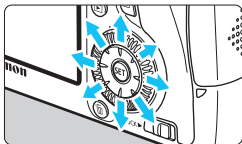
- AF動作、ドライブモード、ISO感度、測光モード、AFフレームの選択・設定などに使用します。

(2) 〈◎〉のみを回す

ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

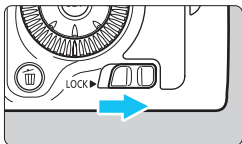
- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

（1）の操作は、〈LOCK▶〉スイッチが右側（マルチ電子ロック／p.47）でも行うことができます。

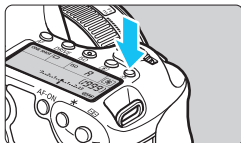
⁂ マルチコントローラー操作

〈⁂〉は8方向キーの構造になっています。

- AF フレーム選択、ホワイトバランス補正、ライブビュー撮影時におけるAFフレーム/拡大表示枠の移動、再生時における拡大表示位置の移動は、8方向に動かすことができます。
- メニューやクイック設定の操作では、〈▲▼〉〈◄►〉方向のみで、斜め方向に動かすことはできません。

LOCK▶ マルチ電子ロック

［.C.Fn III -3：マルチ電子ロック］を設定し（p.313）、〈LOCK▶〉スイッチを右側にすると、メイン電子ダイヤルやサブ電子ダイヤル、マルチコントローラーが不用意に動いて、設定が変わることを防止することができます。

〈LOCK▶〉スイッチ左側：ロック解除
〈LOCK▶〉スイッチ右側：ロック

〈LOCK▶〉スイッチが右側の状態で、禁止した操作部材を操作すると、ファインダーと表示パネルに〈**L**〉、撮影機能の設定状態（p.48）の画面に［**LOCK**］が表示されます。

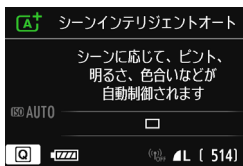
表示パネル照明

表示パネルの照明は、〈〉ボタンを押すたびに点灯（6）／消灯します。なお、バルブ撮影時は、シャッターボタンを全押しすると照明が消えます。

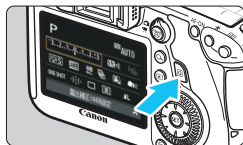
撮影機能の設定状態を表示する

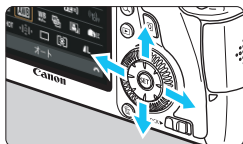
〈INFO.〉ボタンを何回か押すと、撮影機能の設定状態が表示されます。

表示された状態でモードダイヤルを回すと、各撮影モードの設定状態を確認することができます（p.333）。

〈Q〉ボタンを押すと、撮影機能をクイック設定することができます（p.49）。

もう一度〈INFO.〉ボタンを押すと、表示が消えます。

Q 撮影機能のクイック設定

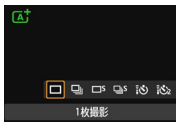
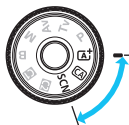
液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この操作を「クイック設定」といいます。

1 〈Q〉ボタンを押す

➡ クイック設定の状態になります（⏱10）。

2 機能を設定する

● 〈▲▼〉〈◀▶〉を押して機能を選びます。

➡ 選んだ機能の内容が画面に表示されます。

● 〈⌇〉または〈◎〉を回して設定を変更します。

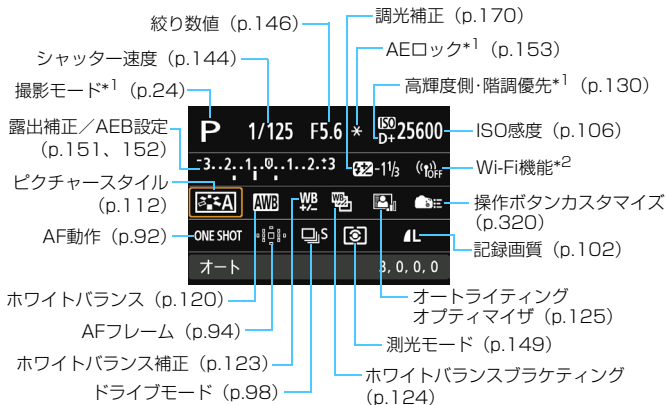
かんたん撮影ゾーン

応用撮影ゾーン

3 撮影する

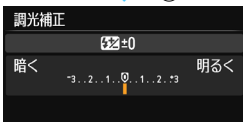
● シャッターボタンを押して撮影します。

➡ 撮影した画像が表示されます。

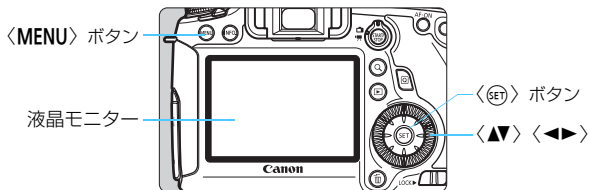
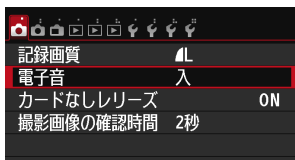
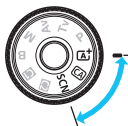
かんたん撮影ゾーンで設定できる機能と設定方法については、83ページを参照してください。

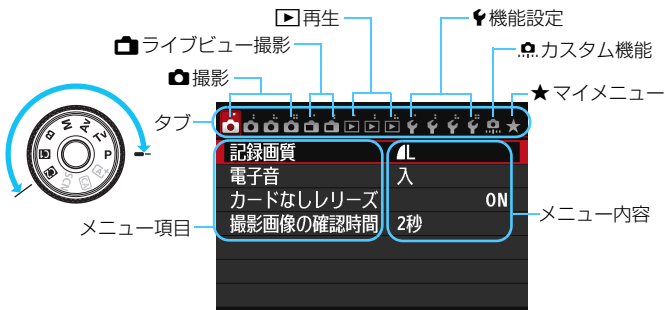
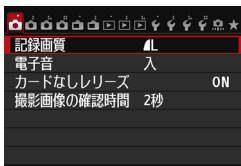
クイック設定の画面例

*1 これらの機能は、クイック設定できません。
*2 Wi-Fi機能の設定については、Wi-Fi機能 使用説明書を参照してください。

設定画面について

〈SET〉

- 機能を選び〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます。
- 〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉を回して設定を変更します。〈◀▶〉を押して変更できる設定もあります。さらに〈INFO.〉ボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈SET〉を押すと設定され、元の画面に戻ります。
- 〈操作ボタンカスタマイズ〉（操作ボタンカスタマイズ／p.320）と〈AFフレーム〉（AFフレーム／p.94）を選んだときは、〈MENU〉ボタンを押すと、撮影機能の設定状態に戻ります。

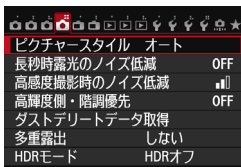
MENU メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。メニュー機能の操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈▲▼〉〈◀▶〉、〈SET〉ボタンを使って行います。

かんたん撮影ゾーンのメニュー画面

* かんたん撮影ゾーンでは、表示されないタブやメニュー項目があります。

応用撮影ゾーンのメニュー画面

メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

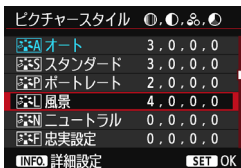
2 タブを選ぶ

- 〈◀▶〉を押してタブ（系統）を選びます。
- 例えば、本文中の［撮影4］タブは、撮影（撮影）タブの左から4番目〔撮影4〕を選んでいる画面のことです。

3 項目を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈(SET)〉を押します。

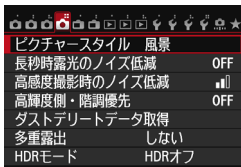
ピクチャースタイル
A オート 3,0,0,0
S スタンダード 3,0,0,0
P ポートレート 2,0,0,0
L 風景 4,0,0,0
N ニュートラル 0,0,0,0
F 忠実設定 0,0,0,0
INFO. 詳細設定 SET OK

4 内容を選ぶ

- 〈▲▼〉または〈◀▶〉で内容を選びます（〈▲▼〉で選ぶ内容と、〈◀▶〉で選ぶ内容があります）。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。

5 内容を設定する

- 〈(SET)〉を押すと設定されます。

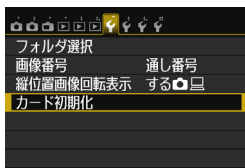
6 設定を終了する

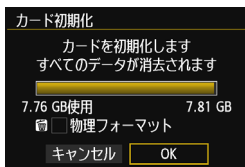
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影機能の設定状態表示に戻ります。

- 手順2は〈メイン電子ダイヤル〉を回して行うこともできます。手順4は内容により、〈サブ電子ダイヤル〉を回して行うこともできます。
- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。
- メニュー機能の内容は、346ページを参照してください。

使い始める前の準備

MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで正しく記録できるように、初期化（フォーマット）を行ってください。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

1 ［カード初期化］を選ぶ

- ［1］タブの［**カード初期化**］を選び、〈SET〉を押します。

2 初期化する

- ［OK］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ カードが初期化されます。
- ➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。

- 物理フォーマットを行うときは、〈🗑〉ボタンを押して、［**物理フォーマット**］の横に〈✓〉が付いた状態で［OK］を選びます。

こんなときに［カード初期化］を行います

- **新しく買ってきたカードを使うとき**
- **他のカメラやパソコンで初期化されたカードを使うとき**
- **カードの中が画像やデータでいっぱいになったとき**
- **カードに関するエラーが表示されたとき**（p.370）

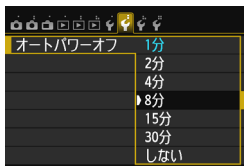
物理フォーマットについて

- 物理フォーマットは、カードへの記録／読み出し速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりもやや時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［**キャンセル**］を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

- 容量が128GBまでのカードはFAT形式、128GBを超えるカードはexFAT形式でフォーマットされます。なお、このカメラで初期化した128GBを超えるカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され、使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSの種類やカードリーダーにより、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。
- **新しいEye-Fiカードを使用するときは、カード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラでカードを初期化してください。**

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、Microsoftからライセンスされた exFAT技術を搭載しています。

MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

カメラを操作しない状態で放置したときに、節電のために電源が自動的に切れるまでの時間を変更することができます。自動的に切れないようにするときは、［**しない**］に設定します。電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと、電源が入ります。

1 ［オートパワーオフ］を選ぶ

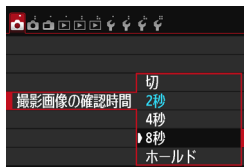
- ［ 2］タブの［**オートパワーオフ**］を選び、〈SET〉を押します。

2 時間を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。

［**しない**］に設定しても、節電のため30分で液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないようにするときは［**切**］に設定します。

1 ［撮影画像の確認時間］を選ぶ

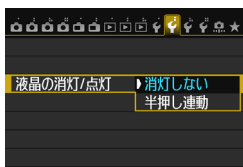
- ［ 1］タブの［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈SET〉を押します。

2 時間を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。

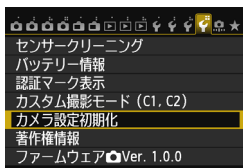
［**ホールド**］に設定すると、オートパワーオフの設定時間まで画像が表示されます。

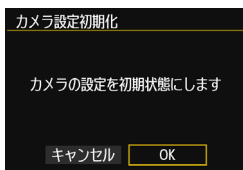
MENU 液晶モニターの消灯／点灯の設定

撮影機能の設定状態（p.48）の表示が、シャッターボタンの半押しに連動して、消えたり点いたりしないようにすることができます。

［2］タブの［**液晶の消灯/点灯**］を選び、〈SET〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈SET〉を押します。

- ［**消灯しない**］：半押ししても表示は消えません。消したいときは、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- ［**半押し連動**］：半押しすると表示が消え、指を離すと表示されます。

MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

1 ［カメラ設定初期化］を選ぶ

- ［4］タブの［**カメラ設定初期化**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［OK］を選ぶ

- ［OK］を選び〈SET〉を押します。

➡ ［**カメラ設定初期化**］を行うと、カメラの設定が次のようになります。

撮影機能

AF動作	ワンショットAF
AFフレーム選択	自動選択
測光モード	（評価測光）
ISO感度	オート
ISO感度設定範囲	下限値：100 上限値：25600
ISOオートの範囲	下限値：100 上限値：12800
ISOオート低速限界	オート

ドライブモード	（1枚撮影）
露出補正／AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
多重露出	しない
HDRモード	HDRオフ
ミラーアップ撮影	しない
カスタム機能	そのまま
ストロボ機能設定	そのまま

画像記録

記録画質	◢L
ピクチャースタイル	オート
オートライティングオプティマイザ	標準
周辺光量補正	する／登録レンズ保持
色収差補正	する／登録レンズ保持
ホワイトバランス	AWB（オート）
MWB画像選択	解除
WB補正	解除
WB-BKT	解除
色空間	sRGB
長秒時露光のノイズ低減	しない
高感度撮影時のノイズ低減	標準
高輝度側・階調優先	しない
画像番号	通し番号
自動クリーニング	する
ダストデリートデータ	消去

カメラ設定

オートパワーオフ	1分
電子音	入
カードなしレリーズ	する
撮影画像の確認時間	2秒
ハイライト警告表示	しない
AFフレーム表示	しない
再生時のグリッド	表示しない
ヒストグラム	輝度
拡大倍率設定（約）	2倍
HDMI機器制御	切
ダイヤルでの画像送り	10枚送り（10枚）
縦位置画像回転表示	する カメラ モニター
液晶の明るさ	中央
液晶の消灯/点灯	消灯しない
日付/時刻/エリア	そのまま
言語	そのまま
ビデオ出力方式	そのまま
機能ガイド	表示する
INFO.ボタンで表示する内容	全項目選択
カスタム撮影モード	そのまま
著作権情報	そのまま
Eye-Fi通信	しない
マイメニューの内容	そのまま
マイメニューから表示	しない
GPS	使わない
Wi-Fi	使わない

Wi-Fi、GPS機能の設定については、各機能の使用説明書を参照してください。

ライブビュー撮影

ライブビュー撮影	する
AF方式	ライブ1点AF
グリッド	表示しない
アスペクト比	3：2
露出Simulation	する
LV静音撮影	モード1
測光タイマー	16秒

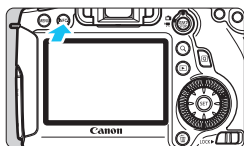
動画撮影

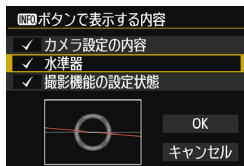
AF方式	ライブ1点AF
LV静音撮影	モード1
測光タイマー	16秒
グリッド	表示しない
動画記録サイズ	1920×1080/IPB
録音	オート
タイムコード	
カウントアップ	そのまま
スタート時間設定	そのまま
動画記録カウント	そのまま
動画再生カウント	そのまま
ドロップフレーム	そのまま
ビデオスナップ	撮影しない

水準器を表示する

カメラの傾き補正に有効な水準器を、液晶モニターとファインダー内、表示パネルに表示することができます。なお、傾きの確認は、ともに水平方向のみです（前後方向の傾きは表示されません）。

液晶モニターに水準器を表示する

1 〈INFO.〉ボタンを押す

- 〈INFO.〉ボタンを押すたびに表示が変わります。
- 水準器を表示します。

- 水準器が表示されないときは、［🔧3：INFO. ボタンで表示する内容］で、水準器が表示されるように設定します（p.332）。

水平方向

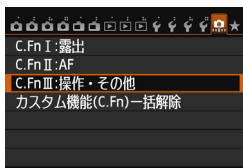
2 カメラの傾きを確認する

- 水平方向の傾きが1°きざみで表示されます。
- 赤い線が緑色に変わると、傾きがほぼ補正された状態です。

- 傾きがほぼ補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。
- カメラが大きく傾いているときは、水準器の誤差が大きくなります。

ライブビュー撮影時、動画撮影開始前に、同じ操作で水準器を表示することができます（p.182、210）。なお、動画撮影中に水準器を表示することはできません（水準器を表示した状態で動画撮影を開始すると、水準器が消えます）。

ファインダー内に水準器を表示する

ファインダー内と表示パネルの水準器表示は、露出レベル表示を利用して行います。なお、水準器は横位置撮影時にのみ表示され、縦位置撮影時には表示されません。

1 カスタム機能C.Fn IIIを選ぶ

- ［◘］タブの［C.Fn III：操作・その他］を選び、〈SET〉を押します。

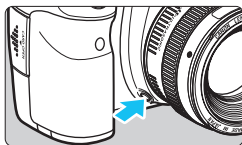
2 C.Fn III -5［操作ボタンカスタマイズ］を選ぶ

- 〈◄►〉を押して［5：操作ボタンカスタマイズ］を選び、〈SET〉を押します。

3 ［◘］を選ぶ

- ［◘：絞り込みボタン］を選び〈SET〉を押します。

4 ［-◘-］を選ぶ

- ［-◘-：ファインダー内水準器表示］を選び〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押して、メニュー機能を終了します。

5 水準器を表示する

- 絞り込みボタンを押します。
- ➡ ファインダー内と表示パネルの露出レベル表示に、水平方向の傾きが1°ステップ±9°の範囲で表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると、露出レベルが表示されます。

右4° 傾き

左4° 傾き

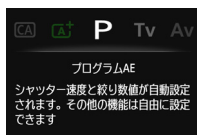
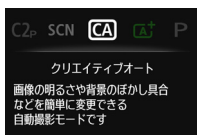
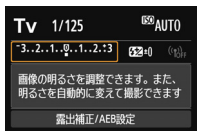
- 傾きがほぼ補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。
- カメラが大きく傾いているときは、水準器の誤差が大きくなります。
- 絞り込みボタンに、［**ファインダー内水準器表示**］機能を割り当てているときは、レンズの絞り込み操作はできません。

機能ガイドとヘルプについて

操作時に、機能の説明を画面に表示することができます。

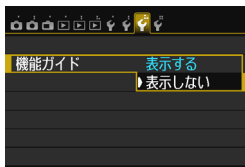
機能ガイド

撮影モードを変更したときや、撮影機能、ライブビュー撮影、動画撮影、再生時のクイック設定時に、撮影モードや機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）が画面に表示されます。クイック設定のときは、機能・項目を選ぶと説明が表示されます。表示中に操作を行うと説明は消えます。

● **撮影モード**（例）

● **クイック設定**（例）

撮影機能

ライブビュー撮影

再生

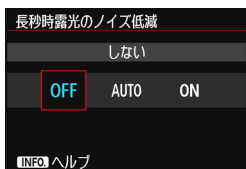
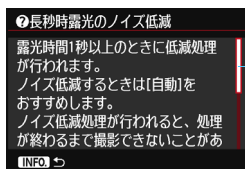
MENU 機能ガイドを表示しないようにする

[機能ガイド] を選ぶ

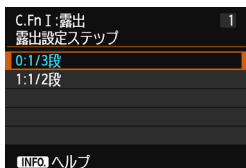
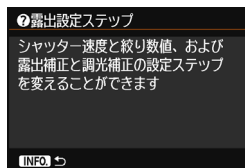
● [3] タブの [**機能ガイド**] を選び、〈SET〉を押します。

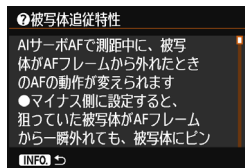
● [**表示しない**] を選び〈SET〉を押します。

? ヘルプ

メニュー画面の下に［INFO. ヘルプ］が表示されているときは、〈INFO.〉ボタンを押すと機能の説明（ヘルプ）を表示することができます。ヘルプが1ページを超えるときは、画面の右側にスクロールバーが表示されます。そのときは、〈◎〉を回すと続きを確認できます。

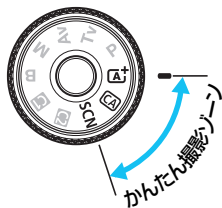
● ［📷4：長秒時露光のノイズ低減］の例

INFO. →

スクロールバー

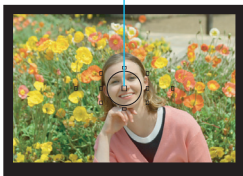
● ［.📷.C.Fn I -1：露出設定ステップ］の例

INFO. →

● ［.📷.C.Fn II -1：被写体追従特性］の例

INFO. →

2

かんたん撮影

　この章では、モードダイヤルのかんたん撮影ゾーンを使って上手に撮影する方法を説明しています。

　かんたん撮影ゾーンでは、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます（p.83、p.342）。また、誤操作による失敗を防ぐため、主要な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。

〈A+〉全自動で撮る（シーンインテリジェントオート）

〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に自動でピントを合わせることができます（p.69）。

1 モードダイヤルを〈A+〉にする

- モードダイヤルの中央を押しながら回します。

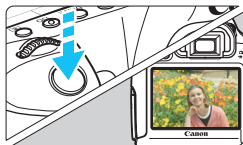
AFフレーム

2 被写体（写したいもの）にAFフレームを合わせる

- すべてのAFフレームを使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントを合わせます。
- 中央のAFフレームを被写体に重ね合わせると、ピントが合いやすくなります。

合焦マーク

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が2秒間表示されます。

〈A+〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮ると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、応用撮影ゾーンで、〈A〉以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（p.112）。

? こんなときは

合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない

明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.44）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

複数のAFフレームが同時に光る

赤く光ったすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも光っているときは、そのまま撮影してください。

電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）

動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。動いている被写体にピントの合った写真を撮ることができます。

なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影（p.69）はできません。

シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない

レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈AF〉（自動ピント合わせ）にしてください。

- **シャッター速度（数字）が点滅している**

　光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、別売のEXシリーズスピードライト（p.170）を使用して撮影することをおすすめします。

- **外部ストロボを使用したのに、画面の下側が不自然に暗くなった**

　レンズにフードが付いていると、ストロボの光がフードで遮られます。写したいものが近くにあるときは、フードを取り外してストロボ撮影してください。

かんたん撮影ゾーン（〈〉モード除く）では、暗い場所や逆光状態で撮影するときに、別売のEXシリーズスピードライトを使用すると、手ブレを抑えて被写体を明るく写したり、逆光状態の影を和らげることができます。

〈A+〉全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）

構図を変えて撮影する

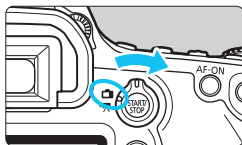
シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

〈A+〉モードでは、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。かんたん撮影ゾーンの他のモードでもフォーカスロック撮影ができます（〈スポーツ〉スポーツを除く）。

動いているものを撮影する

〈A+〉モードでは、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます（電子音が小さく鳴り続けます）。被写体がAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

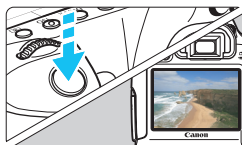
ライブビュー撮影について

液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。詳しくは、179ページを参照してください。

1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈〉にする

2 液晶モニターに映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

3 ピントを合わせる

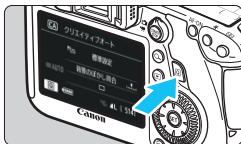
- 画面中央のAFフレーム〈□〉を被写体に合わせます。
- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈START/STOP〉ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

CA クリエイティブオートで撮る

〈CA〉モードでは、ピントが合う範囲やドライブモードを簡単な操作で変えることができます。また、どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを、選んで撮影することができます。なお、初期状態の設定は、〈A+〉モードと同じです。

＊ CAは、Creative Auto（クリエイティブオート）の略です。

1 モードダイヤルを〈CA〉にする

2 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ クイック設定の状態になります。

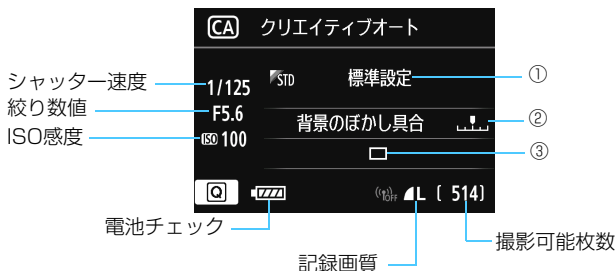
3 機能を設定する

- 〈▲▼〉を押して機能を選びます。

➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.63）が画面に表示されます。

- 機能の設定方法と内容については、72、73ページを参照してください。

4 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。

〈Q〉ボタンを押すと、次の設定ができるようになります。

①雰囲気を選んで撮影

どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを選んで撮影することができます。〈⚙〉または〈◎〉で選びます。〈SET〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。詳しくは、84ページを参照してください。

②背景をぼかす／くっきりさせる

カーソルを左に動かして撮影すると、被写体の背景がぼけた写真になります。右に動かして撮影すると、被写体の背景がくっきりした写真になります。背景をぼかしたいときは、75ページの『人物を写す』を参考にして撮影します。〈◀▶〉を押して設定します。〈⚙〉または〈◎〉で設定することもできます。

なお、使用レンズや撮影条件によっては、ぼけた写真にならないことがあります。

③ **ドライブモード**：〈◀▶〉を押して選びます。〈〉または〈〉で選ぶこともできます。〈SET〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。

〈□〉**1枚撮影**：

1枚だけ撮影します。

〈〉**連続撮影**：

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。1秒間に最高約4.5コマの連続撮影を行うことができます。

〈□S〉**静音1枚撮影**：

作動音が〈□〉よりも静かな1枚撮影です。

〈S〉**静音連続撮影**：

作動音が〈〉よりも静かな連続撮影（最高約3.0コマ／秒）です。

〈〉**セルフタイマー：10秒/リモコン**：

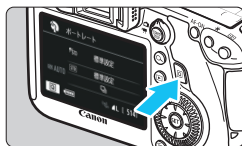
〈2〉**セルフタイマー：2秒/リモコン**：

シャッターボタンを押すと、10秒後／2秒後に撮影されます。リモコン撮影も可能です。

セルフタイマー撮影については、100ページの（ノート）を参考に撮影してください。

SCN: スペシャルシーンモードで撮る

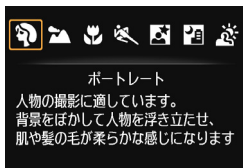
撮りたいシーンに撮影モードを設定すると、カメラがシーンに適した設定を自動的に行います。

1 モードダイヤルを〈SCN〉にする

2 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ クイック設定の状態になります。

3 撮影モードを選ぶ

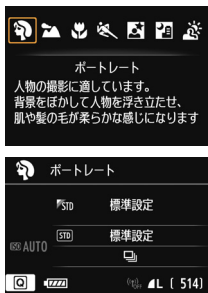
- 〈▲▼〉を押して撮影モードの欄を選びます。
- 〈⚙〉または〈◎〉を回して、撮影モードを選びます。

- 撮影モードの欄を選び、〈SET〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。

〈SCN〉 モードで設定できる撮影モード

撮影モード		参照頁
	ポートレート	p.75
	風景	p.76
	クローズアップ	p.77
	スポーツ	p.78

撮影モード		参照頁
	夜景ポートレート	p.79
	手持ち夜景	p.80
	HDR 逆光補正	p.81

人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、〈〉（ポートレート）を使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。

撮影のポイント

- **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**

　人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

- **望遠レンズを使用する**

　ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

- **顔にピントを合わせる**

　ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが光ったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、目に合わせると効果的です。

初期設定では、〈〉（連続撮影）が設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続撮影（最高約4.5コマ／秒）して表情やポーズの変化を写すことができます。

風景を写す

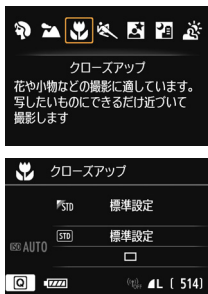
広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、〈〉（風景）を使用します。空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。

撮影のポイント

- **ズームレンズは広角側にする**
  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

- **夜景を撮影するときは**
  手持ちで夜景を撮影すると手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

🌷 花や小物を大きく写す

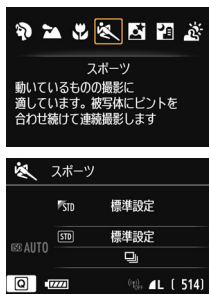
花や小物などに近づいて大きく写したいときは、〈🌷〉（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。

撮影のポイント

- **すっきりした背景を選ぶ**
  背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。

- **写したいものにできるだけ近づく**
  最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、〈🌷**0.25m/0.8ft**〉というように書かれているものもあります。なお、最短撮影距離は、カメラの左肩に刻印されている〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎると合焦マーク〈●〉が点滅します。

- **ズームレンズは望遠側にする**
  ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

動きのあるものを写す

子どもの走っている姿や乗り物など、動いているものにピントの合った写真を撮りたいときは、〈〉（スポーツ）を使用します。

撮影のポイント

● **望遠レンズを使用する**

遠くからでも撮影できるように、できるだけ望遠レンズを使用します。

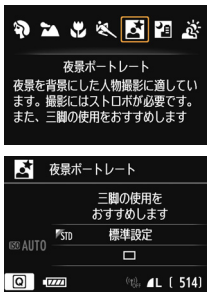
● **中央のAFフレームでピントを合わせる**

ファインダー中央のAFフレームを写したいものに合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。

初期設定では、〈〉（連続撮影）が設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影（最高約4.5コマ／秒）して動きの変化を写すことができます。

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー左下の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。

夜景と人物を写す（三脚を使う）

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、〈 〉（夜景ポートレート）を使用します。撮影には、ストロボが必要です。また三脚の使用をおすすめします。

撮影のポイント

- **広角レンズとストロボ、三脚を使用する**

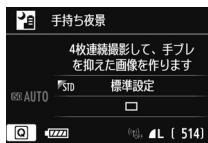
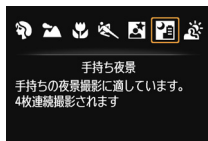
  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

- **ほかの撮影モードでも撮影しておく**

  ブレた写真になりやすいので、〈A+〉と〈 〉でも撮影しておくことをおすすめします。

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- セルフタイマー併用時に、ストロボが発光するときは、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。
- ライブビュー撮影時、夜景など、点状の光源ではピントが合いにくい場合があります。このような場合は、AF方式を［**クイックAF**］に設定して撮影することをおすすめします。それでもピントが合いにくい場合は、フォーカスモードを［MF］にして手動でピントを合わせてください。

夜景を写す（手持ち撮影）

通常、夜景は三脚を使用してカメラを固定した方がきれいに撮影できますが、〈 〉（手持ち夜景）を使用すると、カメラを手に持ったまま夜景を撮影することができます。この撮影モードでは、１回の撮影で４枚連続撮影し、手ブレを抑えた明るい画像が１枚記録されます。

撮影のポイント

カメラをしっかり構える

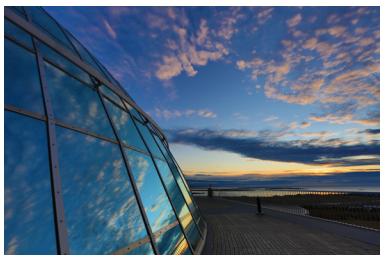
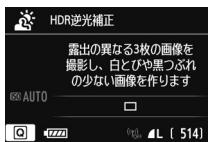
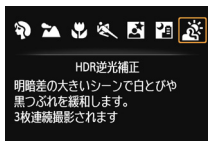
撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正確に行われないことがあります。

人物も一緒に撮るときは

ストロボを使うと、手持ち撮影で人物と背景の夜景も一緒に撮影することができます。人物もきれいに写るよう、初めの１枚目がストロボ撮影になります。４枚撮影し終わるまで人物が動かないように注意してください。

注意事項は、82ページを参照してください。

逆光シーンを写す

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを写すときは、〈〉（HDR逆光補正）を使用します。１回の撮影で明るさの異なる３枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が１枚記録されます。

撮影のポイント

● **カメラをしっかり構える**

撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正確に行われないことがあります。

- 外部ストロボを取り付けても、ストロボ撮影はできません。
- 注意事項は、82ページを参照してください。

HDRは、High Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。

〈[icon]〉（手持ち夜景）の注意事項

- ライブビュー撮影時、夜景など、点状の光源ではピントが合いにくい場合があります。このような場合は、AF方式を［**クイックAF**］に設定して撮影することをおすすめします。それでもピントが合いにくい場合は、フォーカスモードを［MF］にして手動でピントを合わせてください。
- ストロボ撮影時に、被写体が近いとかなり明るい写真（露出オーバー）になることがあります。
- ストロボ撮影時に、「明かりが少ない夜景を撮影するとき」、「人物と背景が近く、背景にもストロボ光が当たっているとき」は、画像の位置合わせが正確に行われず、ブレた写真になることがあります。
- ストロボの照射角について
  - ・照射角が自動切り換えできるストロボでは、レンズのズーム位置に関係なく、ストロボのズーム位置がワイド（広角）端に固定されます。
  - ・照射角を手動で切り換えるストロボでは、発光部をワイド（広角）側にして撮影してください。

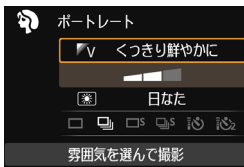
〈[icon]〉（HDR逆光補正）の注意事項

- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、補正効果が十分に得られないことがあります。

〈[icon]〉（手持ち夜景）と〈[icon]〉（HDR逆光補正）の共通注意事項

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW、RAW+JPEGは選択できません。他の撮影モードで、RAW画質が設定されていたときは、◢**L**の画質で記録されます。また、RAW+JPEG画質が設定されていたときは、設定されていたJPEG画質で記録されます。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正確に行われないことがあります。
- 通常の撮影よりも、カードに画像が記録されるまでの時間が長くなります。画像処理中はファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 撮影モードが〈[icon]〉または〈[icon]〉に設定されていると、ダイレクトプリントできません。他の撮影モードに変更してから、ダイレクトプリントをしてください。

Q クイック設定について

例：ポートレートモード

かんたん撮影ゾーンで、撮影機能の設定状態が表示されているときに、〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定状態になり、表に示した項目が設定できるようになります。

1 モードダイヤルをかんたん撮影ゾーンにする

2 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ クイック設定の状態になります。

3 機能を設定する

- 〈▲▼〉を押して機能を選びます（A+ではこの操作は不要）。

➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.63）が画面に表示されます。

- 〈ダイヤル〉または〈ダイヤル〉で設定することもできます。

かんたん撮影ゾーンで設定できる機能

●：初期設定　○：選択可能　□：選択不可

項目			A+	CA	SCN（ポートレート）	SCN（風景）	SCN（クローズアップ）	SCN（スポーツ）	SCN（夜景ポートレート）	SCN（手持ち夜景）	SCN（HDR逆光補正）
ドライブモード（p.98）	□：1枚撮影		●	●	○	●	●	○	●	●	●
	連続撮影		○	○	●	○	○	●	○	○	○
	□S：静音1枚撮影		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	S：静音連続撮影		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	セルフタイマー（p.100）	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
雰囲気を選んで撮影（p.84）				○	○	○	○	○	○	○	
明かりや状況にあわせて撮影（p.87）					○	○	○	○			
背景：ぼかす/くっきり（p.72）				○							

* 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、初期設定に戻ります（セルフタイマーの設定を除く）。

雰囲気を選んで撮影する

かんたん撮影ゾーンの〈A+〉〈 〉を除く撮影モードでは、どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを、選んで撮影することができます。

雰囲気	CA	SCN						雰囲気の効果
STD 標準設定	○	○	○	○	○	○	○	設定なし
V くっきり鮮やかに	○	○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
S ふんわりやわらかく	○	○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
W 暖かくやさしく	○	○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
I しっとり深みのある	○	○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
C ほの暗くひっそりと	○	○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
B 明るく	○	○	○	○	○	○	○	少し／もう少し／さらに
D 暗く	○	○	○	○	○	○	○	少し／もう少し／さらに
M モノクロ	○	○	○	○	○	○	○	青／白黒／セピア

1 撮影モードを〈CA〉または〈SCN〉のいずれかにする

● 〈SCN〉のときは、〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉のいずれかに設定します。

2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈 〉にする

3 ライブビュー映像を表示する

● 〈START/STOP〉ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します。

➡ 雰囲気の効果を画面で確認することができます。

4 クイック設定で雰囲気を選ぶ

● 〈Q〉ボタンを押します（⏱10）。

● 〈▲▼〉を押して、［STD 標準設定］を選び、画面に［**雰囲気を選んで撮影**］が表示された状態にします。

● 〈◀▶〉を押して雰囲気を選びます。

➡ 選んだ雰囲気の仕上がりイメージが表示されます。

5 雰囲気の効果を設定する

- 〈▲▼〉を押して項目を選び、画面の下側に［**雰囲気の効果**］が表示された状態にします。
- 〈◀▶〉を押して、効果の度合い・内容を選びます。

6 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影を行うときは、〈START/STOP〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。
- 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、［STD **標準設定**］に戻ります。

- ライブビュー映像で表示される雰囲気の仕上がりイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。
- ストロボ撮影のときは、雰囲気の効果が小さくなることがあります。
- 明るい屋外で見るライブビュー映像は、実際に撮影される明るさや雰囲気と異なることがあります。［**2：液晶の明るさ**］で液晶モニターの明るさを目盛4の位置にして、周りの光の影響を受けないようにして、ライブビュー映像を見てください。

設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順1のあと〈Q〉ボタンを押します。〈Q〉ボタンを押すとクイック設定の状態になり、［**雰囲気を選んで撮影**］と［**雰囲気の効果**］を設定してファインダー 撮影を行うことができます。

各雰囲気の画像特性について

STD 標準設定

各撮影モードの標準的な画像特性です。なお、〈 〉は人物撮影、〈 〉は風景撮影に適した画像特性になります。各雰囲気は、それぞれの撮影モードの標準設定をベースに画像特性が変わります。

V くっきり鮮やかに

被写体をくっきりさせる印象的な特性で、くっきり鮮やかな雰囲気の写真になります。[STD **標準設定**]よりも印象的な写真にしたいときに効果的です。

S ふんわりやわらかく

被写体の強調感を抑えた特性で、ふんわりやわらかな雰囲気の写真になります。人物やペット、花などを撮影するときに効果的です。

W 暖かくやさしく

被写体の強調感を抑えた暖色系の特性で、暖かみのある、やさしい雰囲気の写真になります。人物やペットなどを暖かみのある雰囲気で撮影するときに効果的です。

I しっとり深みのある

全体的な明るさを少し抑えながら被写体を強調した特性で、しっとり深みのある雰囲気の写真になります。人や生き物を存在感ある雰囲気で撮影するときに効果的です。

C ほの暗くひっそりと

全体的な明るさを少し抑えた寒色系の特性で、ほの暗くひっそりとした雰囲気の写真になります。影の中にある被写体を、静かで印象的な雰囲気で撮影したいときに効果的です。

B 明るく

明るめの写真になります。

D 暗く

暗めの写真になります。

M モノクロ

モノクロ写真になります。モノクロの色は、白黒、セピア、青の3色から選択することができます。なお、[**モノクロ**]選択時は、ファインダー内の左下に〈**!**〉を表示することができます（p.313）。

明かりや状況にあわせて撮影する

かんたん撮影ゾーンの〈〉〈〉〈〉〈〉では、明かりや状況にあわせた設定で撮影することができます。通常は［STD 標準設定］で十分ですが、明かりや状況にあわせた設定にすることで、見た目の印象（記憶した色）に近い写真にできることがあります。

ライブビュー撮影時に、［**雰囲気を選んで撮影**］（p.84）と組み合わせるときは、先に［**明かりや状況にあわせて撮影**］の設定をしておくと、液晶モニターで仕上がりのイメージが確認しやすくなります。

明かりや状況	SCN			
STD 標準設定	○	○	○	○
日なた	○	○	○	○
日かげ	○	○	○	○
くもり	○	○	○	○
電球	○		○	○
蛍光灯	○		○	○
夕焼け	○	○	○	○

1 撮影モードを〈SCN〉にする

- 〈〉〈〉〈〉〈〉のいずれかに設定します。

2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈〉にする

3 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します。

➡ 仕上がりのイメージを画面で確認することができます。

4 クイック設定で明かりや状況を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します（⏱10）。
- 〈▲▼〉を押して、［STD **標準設定**］を選び、画面に［**明かりや状況にあわせて撮影**］が表示された状態にします。
- 〈◀▶〉を押して、明かりや状況を選びます。

➡ 選んだ明かりや状況の仕上がりイメージが表示されます。

5 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影を行うときは、〈START/STOP〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。
- 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、［STD **標準設定**］に戻ります。

- ストロボ撮影のときは、［STD **標準設定**］に切り換わります（ただし、撮影情報は設定した明かりや状況が表示されます）。
- ［**雰囲気を選んで撮影**］と組み合わせるときは、設定した雰囲気の効果が活かせる適切な「明かりや状況」を設定してください。特に［**夕焼け**］は、暖かみのある色あいになりますので、設定した雰囲気の効果が活かせないことがあります。

設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順1のあと〈Q〉ボタンを押します。〈Q〉ボタンを押すとクイック設定の状態になり、［**明かりや状況にあわせて撮影**］を設定してファインダー撮影を行うことができます。

各設定の効果について

[STD] 標準設定

標準的な設定です。

日なた

日なたにある被写体を撮影するときに設定します。青空や緑をより自然に写したいときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

日かげ

日かげにある被写体を撮影するときに設定します。肌が青白く写るときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

くもり

くもり空の下で撮影するときに設定します。肌や風景の色が実際よりもくすんで写るときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

電球

白熱電球下で撮影するときに設定します。白熱電球の赤色を抑えたいときに効果的です。

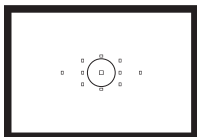
蛍光灯

蛍光灯下で撮影するときに設定します。蛍光灯の種類に関係なく対応しています。

夕焼け

夕焼けの印象的な色を残して撮影したいときに設定します。

3

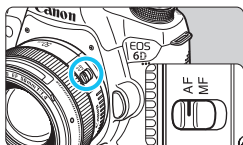
AF／ドライブの設定

ファインダー内には、11点のAFフレームが配置されています。適切なAFフレームを任意に選択することにより、構図優先のAF撮影を行うことができます。

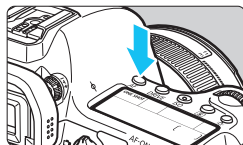
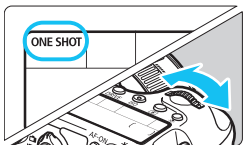
また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

- ページタイトル右の応用は、応用撮影ゾーン（**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**）限定の機能であることを示しています。
- かんたん撮影ゾーンでは、AF動作、AFフレームが自動設定されます。

〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

AF：AF動作の選択 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAF動作が自動設定されます。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

2 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする

3 〈AF〉ボタンを押す（⏱6）

4 AF動作を選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉または〈◎〉を回します。

ONE SHOT：ワンショットAF
AI FOCUS：AIフォーカスAF
AI SERVO：AIサーボAF

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行った AF フレームが赤く光り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が表示されます。
- 評価測光のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

- ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体』（p.96）を参照してください。
- ［**1：電子音**］を［**切**］に設定すると、ピントが合ったときに、合焦音が鳴らないようになります。
- ワンショットAFでピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法を「フォーカスロック撮影」といいます。AFフレームに入らない、画面の端に被写体があるときなどに有効です。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF

撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- AF フレーム選択（p.94）が、自動選択のときは、初めに中央の AF フレームで被写体をとらえます。AF を行っているときに被写体が中央のAFフレームから外れても、他のAFフレームのいずれかで被写体をとらえていれば、継続してピント合わせが行われます。

AIサーボAFでは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

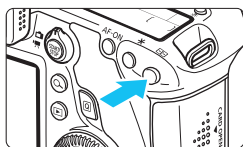
AF動作を自動的に切り換える：AIフォーカスAF

被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。

- ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AIフォーカスAFのサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴り続けます。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影はできません。

〈⊡〉 AFフレームの選択 応用

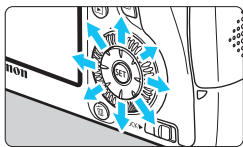
11点のAFフレームの中から、ピント合わせに使うAFフレームを選びます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、AFフレーム自動選択が自動設定されますので、AFフレームの任意選択はできません。

1 〈⊡〉ボタンを押す（⏱6）

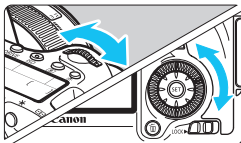
➡ 現在選択されているAFフレームが、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

- ファインダー内のすべての AF フレームが点灯しているときは、自動選択です。

2 AFフレームを選択する

- 〈✣〉を操作して選択する方法と、〈⚙〉または〈◎〉を回して選択する方法があります。

マルチコントローラーによる選択

- 〈✣〉を操作すると、AFフレームを選択することができます。
- すべての AF フレームが点灯しているときは、自動選択になります。
- 〈SET〉を押すと、中央の AF フレームと自動選択が交互に切り換わります。

電子ダイヤルによる選択

- 〈 〉で横方向、〈 〉で縦方向の AF フレームを選択することができます。
- すべての AF フレームが点灯しているときは、自動選択になります。

- 〈 〉ボタンを押したときに、表示パネルに表示される内容は、次の通りです。
  - ・自動選択AF：**[ ] AF**
  - ・任意選択AF：**SEL [ ]**（中央）／**SEL AF**（中央以外）
- EOS 用外部ストロボ使用時に AF 補助光でピントが合わないときは、中央の AFフレームを選択してください。

使用レンズの明るさとAF測距について

レンズの開放絞り数値：F3.2～F5.6

中央のAFフレームで十字測距（縦横線同時検出）を行うことができます。その他のAFフレームは縦線検出、または横線検出によるAF測距になります。

レンズの開放絞り数値：F1.0～F2.8

中央のAFフレームでは、十字測距（縦横線同時検出）に加え、より高精度な縦線検出*によるAF測距を行うことができます。その他のAFフレームは縦線検出、または横線検出によるAF測距になります。

* EF28-80mm F2.8-4L USM、EF50mmF2.5コンパクトマクロを除く。

エクステンダー（別売）を組み合わせたときの開放絞り数値が、F5.6よりも大きい場合は、AF撮影できません（ライブビュー撮影時の［**ライブ1点AF**］［**ライブAF**］を除く）。詳しくは、エクステンダーの使用説明書を参照してください。

AFの苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

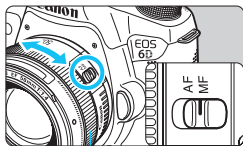
- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  （例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
  （例：反射光の強い車のボディ）
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合（例：おりの中の動物）
- 繰り返し模様の被写体
  （例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する（p.69）。

（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う（p.97）。

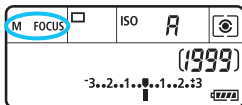
ライブビュー撮影時の［**ライブ1点AF**］［**ライブAF**］でピントが合いにくい撮影条件については、196ページを参照してください。

MF: 手動ピント合わせ(マニュアルフォーカス)

フォーカスリング

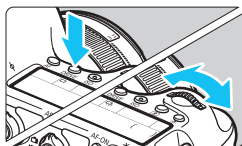
1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

➡ 表示パネルに〈M FOCUS〉が表示されます。

2 ピントを合わせる

● ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ファインダー内にピントが合ったAFフレームと合焦マーク〈●〉が点灯します。

ドライブモードの選択

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。

1 〈DRIVE〉ボタンを押す（6）

2 ドライブモードを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈〉または〈〉を回します。

□ ： **1枚撮影**
シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

： **連続撮影**（最高約4.5コマ／秒）
シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続して撮影します。

□S ： **静音1枚撮影**
作動音が〈□〉よりも静かな1枚撮影です。

S ： **静音連続撮影**（最高約3.0コマ／秒）
作動音が〈〉よりも静かな連続撮影です。

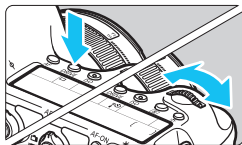
： **セルフタイマー 10秒/リモコン撮影**

2 ： **セルフタイマー 2秒/リモコン撮影**
セルフタイマー撮影については100ページ、リモコン撮影については167ページを参照してください。

- 〈□S〉〈⧉S〉設定時は、シャッターボタンを全押ししてからシャッターが切れるまでのタイムラグが通常よりも長くなります。
- 電池の残量が少なくなると、連続撮影速度が若干低下することがあります。
- AIサーボAF時は、被写体条件や使用レンズによって連続撮影速度が若干低下することがあります。
- ⧉：最高約4.5コマ/秒は、シャッター速度：1/500秒以上、絞り開放（レンズの種類により異なる）の条件*で連続撮影したときの最高速度です。連続撮影速度は、シャッター速度や絞り数値、被写体条件、明るさ、レンズの種類、ストロボ使用などにより低下することがあります。

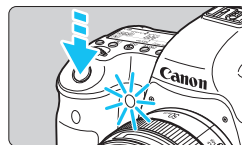
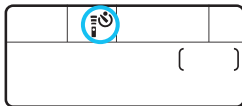
  * EF300mm F4L IS USM、EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM、EF75-300mm F4-5.6 IS USM、EF100-400mm F4.5-5.6L IS USMは、ワンショットAF、手ブレ補正機能OFFで使用時

セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。

2 セルフタイマーを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈 〉または〈 〉を回して選びます。

  ：10秒後に撮影

  ：2秒後に撮影

3 撮影する

- ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ セルフタイマーランプと電子音、表示パネルに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。
- ➡ 撮影2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください（p.166）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

- 〈 〉は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラぶれ防止）に使用します。
- セルフタイマー撮影した画像はその場で再生し、ピントや露出を確認することをおすすめします（p.236）。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（p.69）。
- セルフタイマー撮影を開始してから途中で中止するときは、〈DRIVE〉ボタンを押します。

4

画像に関する設定

　この章では、記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザ、周辺光量補正、色収差補正など、画像に関係する機能設定について説明しています。

- かんたん撮影ゾーンでは、この章の中の、記録画質の設定、レンズの周辺光量／色収差を補正する、フォルダの作成と選択、画像番号の付け方のみ設定が行えます。
- ページタイトル右の応用は、応用撮影ゾーン（**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**）のときに使用できる機能であることを示しています。

MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と画質を選ぶことができます。JPEGの記録画質は、◢L、▟L、◢M、▟M、◢S1、▟S1、S2、S3の8種類です。RAWの記録画質は、RAW、M RAW、S RAWの3種類です（p.104）。

1 ［記録画質］を選ぶ

- ［◘1］タブの［**記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。

2 記録画質を設定する

- RAWの記録画質は〈◎〉を回して、JPEGの記録画質は〈◀▶〉を押して選びます。
- 画面の数字「***M（百万画素）****×****」は記録画素数、［***］は撮影可能枚数（9999まで表示）を示しています。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

記録画質の設定例

◢Lのみ

RAWのみ

RAW＋◢L

S RAW＋◢M

- RAWとJPEGの設定を両方［－］にしたときは、◢Lに設定されます。
- 表示パネルに表示される撮影可能枚数は、1999までです。

記録画質を選ぶときの目安（約）

記録画質		記録画素数	印刷サイズ	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
JPEG	◢L	20M	A2	6.0	1250	73（1250）
	◢L			3.1	2380	2380（2380）
	◢M	8.9M	A3	3.2	2300	2300（2300）
	◢M			1.7	4240	4240（4240）
	◢S1	5.0M	A4	2.1	3450	3450（3450）
	◢S1			1.1	6370	6370（6370）
	S2*1	2.5M	L判	1.2	6130	6130（6130）
	S3*2	0.3M	—	0.3	23070	23070（23070）
RAW	RAW	20M	A2	23.5	300	14（17）
	M RAW	11M	A3	18.5	380	8（10）
	S RAW	5.0M	A4	13.0	550	12（17）
RAW+JPEG	RAW ◢L	20M 20M	A2 A2	23.5+6.0	240	7（8）
	M RAW ◢L	11M 20M	A3 A2	18.5+6.0	290	8（9）
	S RAW ◢L	5.0M 20M	A4 A2	13.0+6.0	380	10（12）

*1：S2は、市販のデジタルフォトフレームでの再生にも適しています。

*2：S3は、電子メールで画像を送るときや、ホームページでの使用などに適しています。

- S2、S3は、どちらも◢（ファイン）の画質です。
- ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準8GBカードを使用し、当社試験基準（アスペクト比3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、アスペクト比、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**
- 連続撮影可能枚数の（　）内の数値は、当社試験基準 UHS-I 対応、8GBカード使用時の枚数です。

- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で、設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は、同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR2）で記録されます。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、M RAW（ミドルロウ）、S RAW（スモールロウ）、JPEG（ジェイペグ）、◢（ファイン）、▟（ノーマル）、L（ラージ）、M（ミドル）、S（スモール）です。

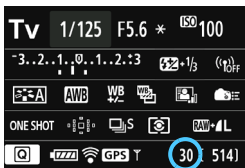
RAWについて

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」で、RAW、M RAW、S RAWから選ぶことができます。

RAWで撮影した画像は、［▶1：RAW現像］（p.272）で現像処理を行い、JPEG画像として保存することができます（M RAW、S RAWはカメラで現像処理できません）。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

また、すべてのRAW画像は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.392）で、使用目的に応じたさまざまな画像調整を行ったあと、その調整を反映させたJPEG画像、TIFF画像などを生成することができます。

パソコンでRAW画像を表示する際は、付属ソフトウェアの使用をおすすめします。市販のソフトウェアでは、RAW画像を表示できないことがありますので、本機で撮影したRAW画像の対応状況については、お使いのソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）

ファインダー内、または撮影機能の設定状態の画面の右下の数値で、連続撮影できる枚数の目安が確認できます。

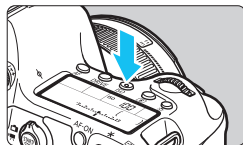
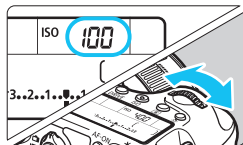
「99」と表示されているときは、連続して99枚以上撮影できることを示しています。

連続撮影可能枚数は、カードが入っていないときにも表示されますので、カードが入っていることを確認してから撮影してください。

- 連続撮影可能枚数が、「**99**」と表示されているときは、99 枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、表示されている数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると、数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、103ページの表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。
- UHS-I 対応のカードを使用しても、連続撮影可能枚数の表示は変わりませんが、103ページの表の(　)内に示した枚数の連続撮影ができます。

ISO：ISO感度を設定する 応用

　ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンでは、ISO感度が自動設定されます（p.108）。

　なお、動画撮影時のISO感度については、206、209ページを参照してください。

1 〈ISO〉ボタンを押す（⏱6）

2 ISO感度を設定する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈⚙〉または〈◎〉を回します。
- ISO100～25600の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。
- 「**A**」は「ISO オート」を表しています。ISO感度が自動設定されます（p.108）。〈**INFO.**〉ボタンを押して、「**A**（AUTO）」に設定することもできます。

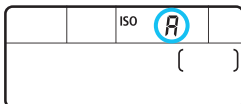
ISO感度を選ぶときの目安

ISO感度	撮影シーン（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
L、100～400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります。
400～1600	曇り空、夕方	
1600～25600、H1、H2	暗い屋内、夜景	

* ISO感度の数値が大きい（高ISO感度）ほど、画像のザラツキ感が増します。

- ［**4：高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定すると、「**L**」（ISO50相当）、ISO100/125/160、「**H1**」（ISO51200相当）、「**H2**」（ISO102400相当）は選択できなくなります（p.130）。
- 高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長秒時露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- H1（ISO51200相当）、H2（ISO102400相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- ［**ISO 感度設定範囲**］の［**上限値：25600**］設定時に、ISO16000/20000/25600に設定した状態で動画撮影にすると、ISO12800に切り換わります（動画マニュアル露出撮影時）。そのあと静止画撮影にしても、元の感度には戻りません。
- ①L（50）、②H1（51200），H2（102400）設定時に動画撮影にすると、ISO 感度が①ISO100、②H（25600）に切り換わります（動画マニュアル露出撮影時）。そのあと静止画撮影にしても、元の感度には戻りません。

- ［**3：ISO 感度に関する設定**］の［**ISO 感度設定範囲**］で、ISO 感度の設定範囲をISO50相当（L）～ISO102400相当（H2）まで拡張することができます（p.109）。
- 拡張ISO感度（L, H1, H2）を設定したときに、ファインダー内に〈**!**〉を表示することができます（p.313）。

ISOオートについて

ISO 感度の設定が「A」(AUTO)のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度が表示されます。

ISO感度は、撮影モードに応じて下記のように自動設定されます。

撮影モード	ISO感度設定
A+/CA/…/…/…/…/…	ISO100～12800自動設定
…	ISO100～1600自動設定
…	ISO100～25600自動設定
P/Tv/Av/M	ISO100～25600*1自動設定
B	ISO400*1
ストロボ撮影時	ISO400*1*2*3*4

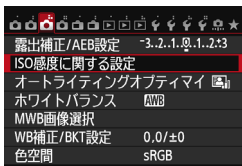
*1：［**ISOオートの範囲**］の［**下限値**］［**上限値**］による

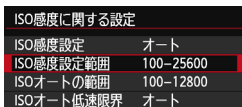
*2：日中シンクロで露出オーバーになる場合は、最低ISO100となる

*3：A+/…/…を除く

*4：CA/…/…/…/…および〈**P**〉モードで、外部ストロボをバウンスしたときは、ISO400～1600の範囲で自動設定

MENU ISO感度の範囲を設定する

手動で設定できるISO 感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。下限値はL（ISO50）～H1（ISO51200）、上限値はISO100～H2（ISO102400）の範囲で設定することができます。

1 [ISO感度に関する設定] を選ぶ

- [📷3] タブの [ISO 感度に関する設定] を選び、〈SET〉を押します。

2 [ISO感度設定範囲] を選ぶ

- [ISO感度設定範囲] を選び、〈SET〉を押します。

3 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び、〈SET〉を押します。
- 〈▲▼〉を押して ISO 感度を選び、〈SET〉を押します。

4 上限値を設定する

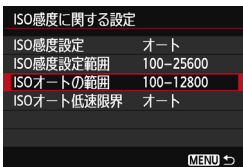
- 上限値の枠を選び、〈SET〉を押します。
- 〈▲▼〉を押して ISO 感度を選び、〈SET〉を押します。

5 設定を終了する

- 〈◀▶〉を押して [OK] を選び、〈SET〉を押します。

➡ メニューに戻ります。

MENU ISOオート時の自動設定範囲を設定する

ISOオート時に自動設定される感度を、ISO100～25600の範囲で設定することができます。下限値はISO100 ～ 12800 の範囲、上限値はISO200～25600の範囲で、1段ステップで設定することができます。

1 ［ISOオートの範囲］を選ぶ

- ［ISOオートの範囲］を選び、〈SET〉を押します。

2 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び、〈SET〉を押します。
- 〈▲▼〉を押して ISO 感度を選び、〈SET〉を押します。

3 上限値を設定する

- 上限値の枠を選び、〈SET〉を押します。
- 〈▲▼〉を押して ISO 感度を選び、〈SET〉を押します。

4 設定を終了する

- 〈◄►〉を押して［OK］を選び、〈SET〉を押します。

➡ メニューに戻ります。

［下限値］［上限値］は、ISO感度でセイフティシフト（p.306）が行われたときの下限/上限感度も兼ねています。

MENU ISOオート時のシャッター速度の低速限界を設定する

ISOオート設定時に、シャッター速度が自動的に遅くならないように、低速限界（下限速度）を1/250秒～1秒の範囲で設定することができます。

この機能は〈**P**〉〈**Av**〉モードで、広角レンズを使用して、動いている被写体を撮影するときに効果的です。手ブレを抑えながら、被写体ブレも軽減することができます。

1 [ISOオート低速限界] を選ぶ

- [**ISO オート低速限界**] を選び、〈SET〉を押します。

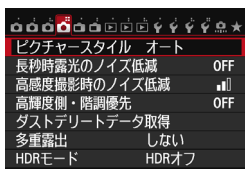
2 低速限界を設定する

- 〈◄►〉を押してシャッター速度を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ メニューに戻ります。

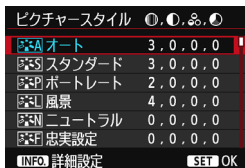
- [**ISOオートの範囲**] で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、[**ISOオート低速限界**] で設定した速度よりも遅いシャッター速度が設定されます。
- ストロボ撮影時は、[**ISOオート低速限界**] は機能しません。

ピクチャースタイルを選択する 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

かんたん撮影ゾーンでは、〈A〉（オート）に自動設定されます。

1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

● ［4］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイル選択画面が表示されます。

2 スタイルを選ぶ

● 〈▲▼〉を押してスタイルを選び〈SET〉を押します。

➡ スタイルが設定され、撮影準備状態に戻ります。

各スタイルの画像特性について

A オート

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

［**オート**］で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

S スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

P ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

115ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

忠実設定

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

モノクロ

白黒写真になります。

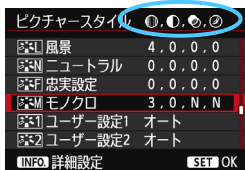
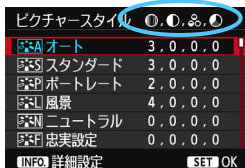
JPEG画質で撮影した画像を、カラー写真に戻すことはできません。[**モノクロ**] に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。

[**モノクロ**] 設定時に、ファインダー内に〈**!**〉を表示することができます (p.313)。

ユーザー設定1～3

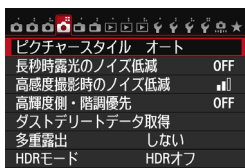
[**ポートレート**] や [**風景**]、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.118）。登録されていないときは、[**オート**] の初期設定と同じ特性で撮影されます。

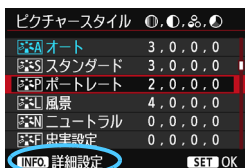
記号について

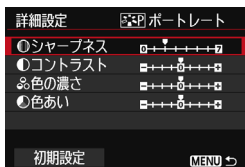
スタイル選択画面の記号は、［**シャープネス**］［**コントラスト**］などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている［**シャープネス**］［**コントラスト**］などの設定値を示しています。

記号の意味

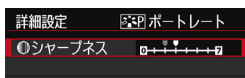
	シャープネス
	コントラスト
	色の濃さ
	色あい
	フィルター効果（モノクロ）
	調色（モノクロ）

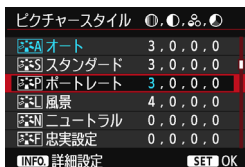
ピクチャースタイルを調整する 応用

それぞれのピクチャースタイルは、好みにあわせて設定内容（[**シャープネス**]［**コントラスト**］など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。[**モノクロ**］の調整については、117ページを参照してください。

1 [ピクチャースタイル］を選ぶ

- ［4］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイル選択画面が表示されます。

2 スタイルを選ぶ

- スタイルを選び〈**INFO.**〉ボタンを押します。

3 項目を選ぶ

- ［**シャープネス**］などの項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を設定する

- 〈◀▶〉を押して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容とその効果

シャープネス	0：輪郭強調・控えめ	+7：輪郭強調・強め
コントラスト	-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
色の濃さ	-4：薄い	+4：濃い
色あい	-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

- 手順３で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

モノクロの調整

前のページで説明した［**シャープネス**］と［**コントラスト**］の他に、［**フィルター効果**］［**調色**］を設定することができます。

フィルター効果

フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N ：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R ：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G ：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色

調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

ピクチャースタイルを登録する 応用

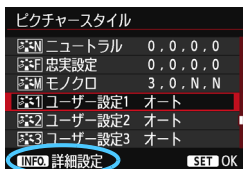
［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。

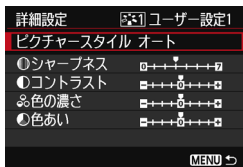
シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。

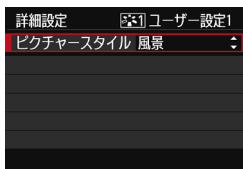
また、付属ソフトウェアのEOS Utility（p.392）からカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

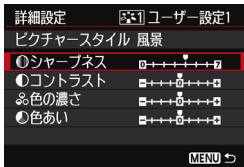
1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

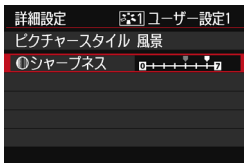
- ［4］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈SET〉を押します。

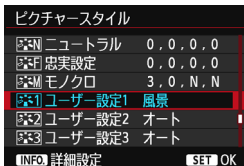
➡ スタイル選択画面が表示されます。

2 ［ユーザー設定］を選ぶ

- ［**ユーザー設定＊**］を選び〈**INFO.**〉ボタンを押します。

3 〈SET〉を押す

- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈SET〉を押します。

4 基本にするスタイルを選ぶ

- 〈▲▼〉を押して基本にするスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- 付属ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

5 項目を選ぶ

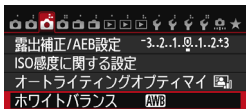
- ［**シャープネス**］などの項目を選び、〈SET〉を押します。

6 内容を設定する

- 〈◀▶〉を押して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
  詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』（p.115～117）を参照してください。
- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ ［**ユーザー設定＊**］の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
- ➡ ［**ユーザー設定＊**］に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

- ［**ユーザー設定＊**］にスタイルがすでに登録されているときは、手順4で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- ［**カメラ設定初期化**］（p.56）を行うと、［**ユーザー設定＊**］に設定した内容はすべて初期状態に戻ります。なお、付属のソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルは、設定した内容のみ初期化されます。

- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した［**ユーザー設定＊**］を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility使用説明書（p.395）を参照してください。

MENU ホワイトバランスの設定 応用

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常は〈AWB〉（オート）で適切なホワイトバランスが得られます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

かんたん撮影ゾーンでは、〈AWB〉に自動設定されます。

1 ［ホワイトバランス］を選ぶ

- ［📷3］タブの［**ホワイトバランス**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ホワイトバランスを選ぶ

- 内容を選び〈SET〉を押します。

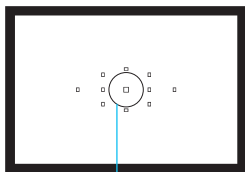
表示	モード	色温度（約・K：ケルビン）
AWB	オート	3000～7000
☀	太陽光	5200
日陰	日陰	7000
くもり	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
白熱電球	白熱電球	3200
白色蛍光灯	白色蛍光灯	4000
ストロボ	ストロボ使用	自動設定*
マニュアル	マニュアル（p.121）	2000～10000
K	色温度（p.122）	2500～10000

* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

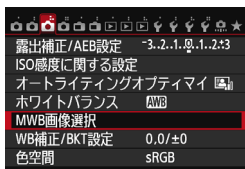
ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、ソフトウェア的に色温度を調整して、色の基準となる白を決め、白を基準に色の補正が行われます。これにより、自然な色あいで撮影することができます。

マニュアルホワイトバランス

　マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを厳密に設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

スポット測光範囲

1 白い被写体を撮影する

- スポット測光範囲の領域全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。

2 ［MWB画像選択］を選ぶ

- ［3］タブの［MWB 画像選択］を選び、〈SET〉を押します。

➡ MWB画像選択画面が表示されます。

3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 〈〉を回して手順１で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。

➡ 表示されるメッセージ画面で［OK］を選ぶとデータが取り込まれます。

- メニューに戻ったら、〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。

4 ［ホワイトバランス］を選ぶ

- ［3］タブの［ホワイトバランス］を選び、〈SET〉を押します。

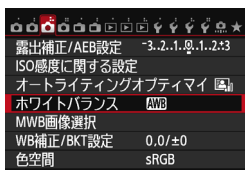
5 マニュアルWBを選ぶ

- ［］を選び〈SET〉を押します。

- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像、多重露出画像、他のカメラで撮影した画像は、手順3で選択できません。

- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。
- 付属のソフトウェアから登録するカスタムホワイトバランスは、［ ］に登録されます。なお、手順3の操作を行うと、登録したカスタムホワイトバランスのデータは消去されます。

K 色温度を直接設定する

色温度指定は、ホワイトバランスの色温度を数値で設定する、上級者向けの機能です。

1 ［ホワイトバランス］を選ぶ

- ［ 3］タブの［**ホワイトバランス**］を選び、〈SET〉を押します。

2 色温度を設定する

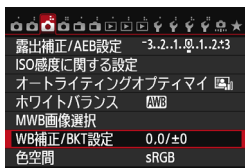
- ［K］を選びます。
- 〈 〉を回して色温度を設定し、〈SET〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。

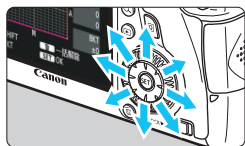
- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じて WB 補正（マゼンタ／グリーン寄り）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度数値を［K］に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

MENU ホワイトバランスを補正する 応用

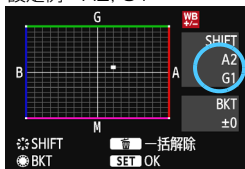
設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

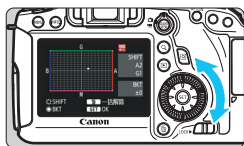
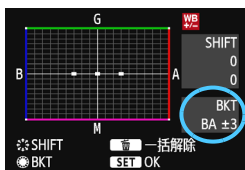
ホワイトバランス補正

1 [WB補正/BKT設定] を選ぶ

- [3] タブの [WB補正/BKT設定] を選び、〈SET〉を押します。

2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✣〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと [WB補正/BKT設定] の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了し、メニューに戻ります。

設定例：A2, G1

- WB補正時に、ファインダー内の左下に〈!〉を表示することができます(p.313)。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。この機能をホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ±3段です。

B/A方向±3段のとき

補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈◎〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。
  右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
  ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと［WB補正/BKT設定］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了し、メニューに戻ります。

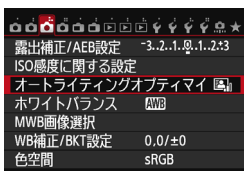
記録される順番について

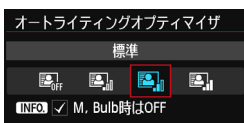
①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなり、撮影可能枚数も約1/3になります。
- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。
- WBブラケティング時の記録枚数を変更することができます（p.305）。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

MENU 明るさ・コントラストを自動補正する 応用

撮影結果が暗いときやコントラストが低いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。この機能を「オートライティングオプティマイザ」といいます。初期状態では、［**標準**］に設定されています。JPEG画像は撮影時に補正されます。

かんたん撮影ゾーンでは、［**標準**］に自動設定されます。

1 ［オートライティングオプティマイザ］を選ぶ

- ［3］タブの［**オートライティングオプティマイザ**］を選び、〈SET〉を押します。

2 補正内容を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。

3 撮影する

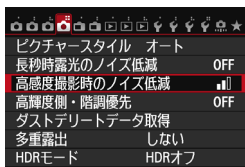
- 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

- ［4：**高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定すると、オートライティングオプティマイザが［**しない**］に自動設定され、設定変更ができなくなります。
- 撮影条件により、ノイズが増えることがあります。
- ［**しない**］以外の設定では、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めにする設定を行っても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、［**しない**］に設定してください。
- HDRモード（p.155）、多重露出撮影（p.158）設定時は、オートライティングオプティマイザが自動的に［**しない**］になります。HDRモードと多重露出撮影を解除すると、元の設定に戻ります。

手順2で〈**INFO.**〉ボタンを押して［**M, Bulb時はOFF**］の〈**✓**〉を外すと、〈**M**〉〈**B**〉モードでもオートライティングオプティマイザ機能が設定できるようになります。

MENU ノイズ低減機能の設定 応用

高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。

1 ［高感度撮影時のノイズ低減］を選ぶ

- ［4］タブの［**高感度撮影時のノイズ低減**］を選び、〈SET〉を押します。

2 レベルを設定する

- 低減レベルを選び〈SET〉を押します。
- ➡ 設定が終了し、メニューに戻ります。

- ［**NR：マルチショットノイズ低減機能**］

［**強め**］より、高画質なノイズ低減処理が行われます。１回の撮影で４枚連続撮影し、自動的に画像合成を行い、１枚のJPEG画質が記録されます。

3 撮影する

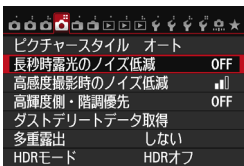
- ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

［マルチショットノイズ低減機能］設定時について

- AEB、WBブラケティング、［**4：長秒時露光のノイズ低減**］、［**4：HDRモード**］、［**4：多重露出撮影**］、RAW画像は設定できません。また、これらがすでに設定されているときは［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません。
- ストロボ撮影はできません。なお、AF補助光は、［**C.Fn II -5：AF補助光の投光**］の設定により、投光します。
- バルブ撮影時は、［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません。
- 電源を切ったり、撮影モードを、かんたん撮影ゾーンまたは動画やバルブ撮影に変更すると、設定が［**標準**］に変更されます。
- 手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいときや、動いている被写体を撮影したときは、ノイズ低減効果が小さくなることがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。手ブレを防ぐには三脚の使用をおすすめします。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 通常の撮影よりも、カードに画像が記録されるまでの時間が長くなります。画像処理中はファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ［**4：ダストデリートデータ取得**］は設定できません。
- ［**マルチショットノイズ低減機能**］が設定されていると、ダイレクトプリントできません。［**マルチショットノイズ低減機能**］以外に設定してから、ダイレクトプリントしてください。

RAW 画像をカメラで再生、またはダイレクトプリントすると、高感度撮影時のノイズ低減効果が小さくなる場合があります。ノイズ低減効果の確認とノイズ低減画像の印刷は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.392）で行ってください。

長秒時露光のノイズ低減

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、ノイズを低減することができます。

1 ［長秒時露光のノイズ低減］を選ぶ

- ［4］タブの［**長秒時露光のノイズ低減**］を選び、〈SET〉を押します。

2 低減内容を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 設定が終了し、メニューに戻ります。

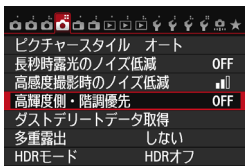
- **［自動］**
  露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この設定で十分な効果が得られます。
- **［する］**
  露光時間１秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

3 撮影する

- ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

- [**自動**][**する**]設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。なお、低減処理中でもファインダー内の連続撮影可能枚数が「1」以上のときは、続けて撮影することができます。
- ISO1600以上の感度で撮影すると、[**しない**][**自動**]設定時よりも[**する**]設定時の方が画像のザラつきが多くなることがあります。
- [**する**]設定時に、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**BUSY**」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

MENU 高輝度側・階調優先の設定 応用

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。

1 ［高輝度側・階調優先］を選ぶ

- ［4］タブの［**高輝度側・階調優先**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［する］を選ぶ

- ［**する**］を選び〈SET〉を押します。
- 高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

3 撮影する

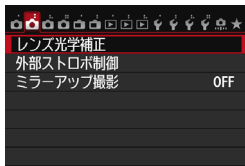
- 高輝度側・階調優先による処理が行われた画像が記録されます。

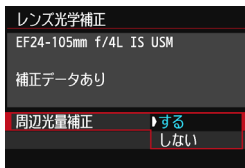
- ［**する**］設定時は、オートライティングオプティマイザ（p.125）が［**しない**］に自動設定され、設定変更ができなくなります。［**高輝度側・階調優先**］を［**しない**］に設定すると、オートライティングオプティマイザが元の設定に戻ります。
- ［**する**］設定時は、［**しない**］設定時よりもノイズ（画像のザラツキ感、縞など）が若干増えることがあります。

［**する**］設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～25600（動画撮影時は12800）になります。また、ファインダー内と表示パネルに、高輝度側・階調優先の設定中を示す〈**D+**〉が表示されます。

MENU レンズの周辺光量／色収差を補正する

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を「周辺光量の低下」、被写体の輪郭部分に現れる色のにじみを「色収差」といいますが、これらの現象を補正することができます。初期状態では、ともに補正［**する**］に設定されています。

周辺光量補正

1 ［レンズ光学補正］を選ぶ

- ［📷2］タブの［**レンズ光学補正**］を選び、〈SET〉を押します。

2 補正内容を設定する

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**周辺光量補正**］を選び〈SET〉を押します。
- ［**する**］を選び〈SET〉を押します。
- ［**補正データなし**］が表示されているときは、133ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。

3 撮影する

- 周辺光量が補正された画像が記録されます。

❗ 撮影条件により、画像周辺部にノイズが発生することがあります。

- 付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.392）で最大補正を行ったときよりもやや控えめに補正されます。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

色収差補正

1 補正内容を設定する

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**色収差補正**］を選び〈SET〉を押します。
- ［**する**］を選び〈SET〉を押します。
- ［**補正データなし**］が表示されているときは、次ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。

2 撮影する

- 色収差が補正された画像が記録されます。

色収差補正を行って撮影したRAW画像を再生すると、補正されていない状態で表示されます。色収差補正の確認は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.392）で行ってください。

レンズの補正データについて

カメラにはあらかじめ、周辺光量補正、色収差補正を行うためのデータがレンズ約25本分登録されています。補正［**する**］を選んでおくと、補正データが登録されているレンズを装着したときに、自動的に周辺光量補正、色収差補正が行われます。

付属ソフトウェアのEOS Utilityを使用すると、登録されているレンズの種類が確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）のEOS Utility使用説明書（p.395）を参照してください。

周辺光量補正、色収差補正の共通事項

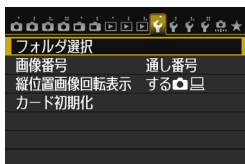
- 撮影したJPEG画像の周辺光量、色収差を、後から補正することはできません。
- 他社製のレンズ使用時は、［**補正データあり**］と表示されていても、補正［**しない**］に設定することをおすすめします。
- ライブビュー撮影時に拡大表示を行ったときは、周辺光量補正、色収差補正の効果は映像に反映されません。

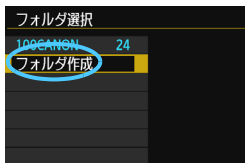
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後、画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります。

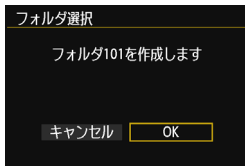
MENU フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダの作成

1 [フォルダ選択] を選ぶ

- [1] タブの [**フォルダ選択**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [フォルダ作成] を選ぶ

- [**フォルダ作成**] を選び〈SET〉を押します。

3 フォルダを作成する

- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 番号が１つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択

- フォルダ選択画面が表示された状態で、フォルダを選び〈SET〉を押します。
- ➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。
- 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

フォルダについて

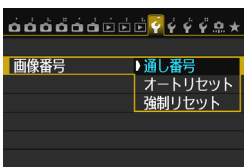
フォルダ名は、「**100CANON**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.137）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときも、カメラがフォルダを認識できません。

MENU 画像番号の付け方を設定する

画像番号は、撮影した順に0001～9999の番号が付けられて、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付け方を変えることができます。

画像番号は、パソコンでは IMG_0001.JPG というような形で表示されます。

1 [画像番号] を選ぶ

- [1] タブの [**画像番号**] を選び、〈SET〉を押します。

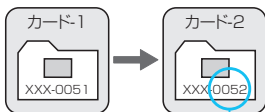
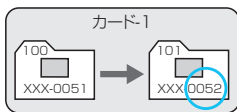
2 画像番号の付け方を選ぶ

- 内容を選び〈SET〉を押します。

通し番号

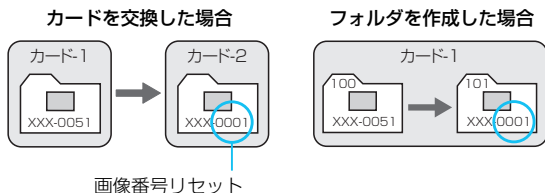
カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

フォルダを作成した場合

オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行って撮影すると、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

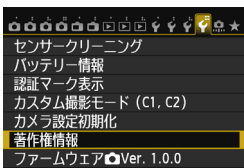
この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります（強制リセットの確認表示は行われません）。

フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

ファイル名の先頭は、JPEG画像、RAW画像はともに「IMG_」、動画は「MVI_」になります。拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR2」、動画は「.MOV」になります。

MENU 著作権情報を設定する 応用

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。

1 [著作権情報] を選ぶ

- [4] タブの [**著作権情報**] を選び、〈SET〉を押します。

2 設定する項目を選ぶ

- [**作成者名入力**] または [**著作権者名入力**] を選び、〈SET〉を押します。

3 文字を入力する

- 〈Q〉ボタンを押すと、文字パレットの枠に色が付き、文字入力ができるようになります。
- 〈▲▼〉〈◄►〉を押して □ を移動し、希望する文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- 最大63文字入力することができます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、1 文字消去されます。

4 設定を終了する

- 文字の入力が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押します。
- ➡ 設定した内容が保存され、手順2の画面に戻ります。

著作権情報の確認

前ページの手順2で［**著作権情報の表示**］を選ぶと、入力した［**作成者**］［**著作権者**］の情報を確認することができます。

著作権情報の消去

手順2で［**著作権情報の消去**］を選ぶと、［**作成者**］［**著作権者**］の情報が消去されます。

付属ソフトウェアのEOS Utility（p.392）から、著作権情報を設定・確認することもできます。

MENU 色空間を設定する 応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを、色空間といいます。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときは、sRGBをおすすめします。

かんたん撮影ゾーンでは、sRGBに自動設定されます。

1 ［色空間］を選ぶ

- ［📷3］タブの［**色空間**］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

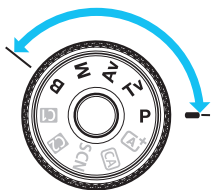
- ［**sRGB**］または［**Adobe RGB**］を選び、〈SET〉を押します。

Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21以上）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21以上）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM／p.395）を参照してください。

5

撮影目的にあわせた応用撮影

応用撮影ゾーンでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の応用は、応用撮影ゾーン（**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**）のときに使用できる機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、ファインダー内と表示パネルに露出値が４秒間（⏱4）表示されます。
- 各撮影モードで設定できる機能は、342ページを参照してください。

あらかじめ〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてください。

P: プログラムAE撮影

　被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

＊〈P〉は、Program（プログラム）の略です。

＊ AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1 モードダイヤルを〈P〉にする

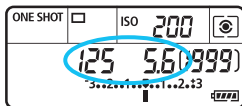
2 ピントを合わせる

● ファインダーをのぞいて、選択した AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

➡ ピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが赤く光り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF時）。

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

3 表示を確認する

● シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、標準露出です。

4 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

- シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
  ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。

- シャッター速度の「**4000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
  ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

〈**P**〉と〈A+〉モードの違いについて

〈A+〉モードでは、失敗を防ぐために、AF動作や測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈**P**〉モードでは、自動的に設定されるのはシャッター速度と絞り数値だけで、AF動作や測光モードなどの機能を自由に設定することができます（p.342）。

プログラムシフトについて

- プログラムAEのときは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈ダイヤル〉を回します。
- プログラムシフトは、撮影すると自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

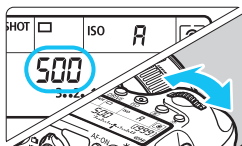
Tv：シャッター速度を決めて撮る

　シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッター速度を遅くすると、流動感を表現することができます。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

流動感のある写真
（遅いシャッター速度：1/30秒）

動きを止めた写真
（速いシャッター速度：1/2000秒）

1 モードダイヤルを〈Tv〉にする

2 シャッター速度を設定する

● 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。
➡ 絞り数値が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

● 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。

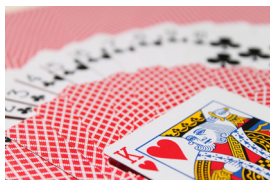
- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。

- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

シャッター速度の表示
「**4000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

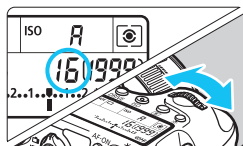
Av：絞り数値を決めて撮る

　絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。

背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）

背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）

---

1 モードダイヤルを〈Av〉にする

2 絞り数値を設定する

- 表示パネルを見ながら〈〉を回します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

➡ シャッター速度が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

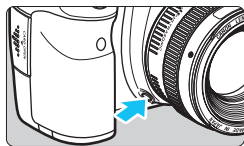
- シャッター速度が点滅していなければ標準露出です。

- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。

- シャッター速度の「**4000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

絞り数値の表示
数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

ピントの合う範囲を確認する 応用

レンズの絞りは、撮影する瞬間だけ絞りの大きさ（開口量）が変わり、撮影しない状態では、絞りが開いた状態になっています。そのため、ファインダーやライブビュー映像で見えるピントの合う範囲は、常に狭く（浅く）なっています。

絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

- 絞り数値が大きいほど、ピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーは暗くなります。
- ライブビュー映像を見ながら絞り数値を変えて、絞り込みボタンを押すと、被写界深度の効果がよくわかります（p.180）。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M: 露出を自分で決めて撮る

自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊〈**M**〉は、Manual（マニュアル）の略です。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 ISO感度を設定する（p.106）

3 シャッター速度と絞り数値を設定する

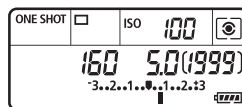
- シャッター速度は、〈〉を回して設定します。
- 絞り数値は、〈〉を回して設定します。
- 設定できないときは、〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてから〈〉または〈〉を回します。

標準露出指標

200 6.3 -3..2..1..0..1..2..+3 ISO 100 [26]

露出レベルマーク

4 ピントを合わせる

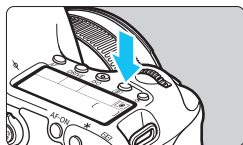
- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

5 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉の表示になります。

ISOオート設定時は、設定したシャッター速度と絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。

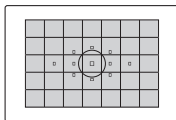
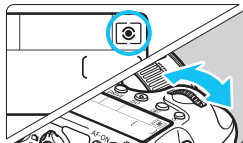
- ［3：オートライティングオプティマイザ］で［M, Bulb時はOFF］の〈✓〉を外すと、〈M〉〈B〉モードでもオートライティングオプティマイザ機能が設定できるようになります（p.125）。
- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示（p.22、23）で確認することができます。

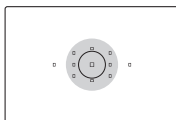
測光モードの選択 応用

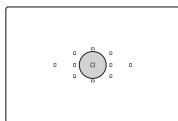
被写体の明るさを測る機能の特性を４種類の中から選ぶことができます。かんたん撮影ゾーンでは、評価測光に自動設定されます。

1 〈〉ボタンを押す（6）

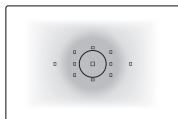
2 測光モードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈〉または〈〉を回します。

  ：**評価測光**
  ：**部分測光**
  ：**スポット測光**
  ：**中央部重点平均測光**

評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。ファインダー中央部の約8.0%の範囲を測光します。

スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約3.5%の範囲を測光します。

中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

- （評価測光）は、シャッターボタン半押しでピントが合うと露出値が固定されます。（部分測光）/（スポット測光）/（中央部重点平均測光）は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。
- 〈〉設定時に、ファインダー内の左下に〈!〉を表示することができます（p.313）。

自分の好みに露出を補正する 応用

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを露出補正といいます。

P/**Tv**/**Av** モードのときに露出補正を行うことができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±5段ですが、ファインダー内と表示パネルの露出補正表示は±３段までです。±３段を超える設定は、クイック設定（p.49）、または次ページの［**3：露出補正／AEB設定**］で行ってください。

1 露出表示を確認する

- シャッターボタンを半押しして（4）、露出レベル表示を確認します。

明るく（プラス）補正

2 補正量を設定する

- ファインダー内、または表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。
- 設定できないときは、〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてから〈◎〉を回します。

暗く（マイナス）補正

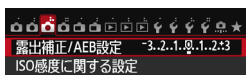
3 撮影する

- 露出補正を解除するときは、補正量の設定を〈0〉の位置に戻します。

［**3：オートライティングオプティマイザ**］（p.125）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めにする露出補正を行っても、明るく撮影されることがあります。

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 補正量を設定してから〈LOCK▶〉スイッチを右側にすると、補正量が不用意に変わることを防止することができます。
- 露出補正量が±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉表示になります。

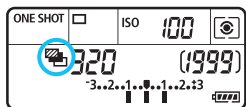
露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 応用

1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これをAEB撮影といいます。＊AEBは、Auto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。

1 ［露出補正／AEB設定］を選ぶ

- ［3］タブの［露出補正／AEB設定］を選び、〈SET〉を押します。

AEBレベル

2 AEBレベルを設定する

- 〈〉を回してAEBレベルを設定します。〈◀▶〉を押すと露出補正量が設定できます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。
- ➡ メニューを終了すると、表示パネルに〈〉とAEBレベルが表示されます。

3 撮影する

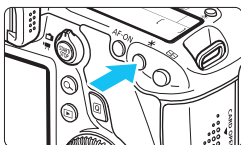
- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBレベルの表示を消します。

- AEB撮影中は、ファインダー内の〈✱〉と表示パネルの〈〉が点滅します。
- ドライブモードが〈□〉〈□S〉のときは、3回撮影してください。〈〉〈S〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈〉〈2〉のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。
- AEBレベルが±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉表示になります。
- バルブ撮影時、［マルチショットノイズ低減機能］設定時、およびストロボ使用時は、AEB撮影できません。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

✱ 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✱〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

2 〈✱〉ボタンを押す（⏱4）

- ➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✱〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

AEロックの効果

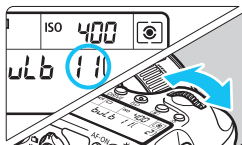
測光モード（p.149）	AFフレーム選択（p.94）	
	自動選択	任意選択
[評価測光]*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
[部分測光] [スポット測光] [中央部重点平均測光]	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

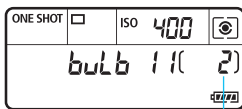
* レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

バルブ撮影時は、AEロックできません。

B：長時間露光（バルブ）撮影

　シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や打ち上げ花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 モードダイヤルを〈B〉にする

2 絞り数値を設定する

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉または〈◎〉を回します。

露光経過時間

3 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。

➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。

- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時は、ISO400になります（p.108）。

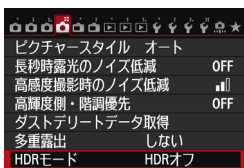
- ［📷4：**長秒時露光のノイズ低減**］を［**自動**］［**する**］に設定すると、長秒露光時に発生するノイズを低減することができます（p.128）。
- バルブ撮影を行うときは、三脚とリモートスイッチ RS-80N3（別売）、またはタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします（p.167）。
- リモコン（別売／ p.167）を使ってバルブ撮影を行うこともできます。リモコンの送信ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、もう一度押すと終了します。

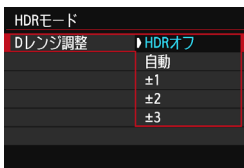
HDR：HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影 応用

明暗差の大きいシーンで、通常は白とびしてしまう部分や、黒くつぶれてしまう部分の描写が補正され、白とびや黒つぶれが緩和された写真を撮影することができます。風景などの静物撮影に適しています。

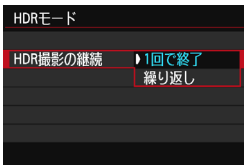
HDR撮影では、1回の撮影で露出の異なる3枚の画像（標準露出／露出アンダー／露出オーバー）を撮影して、自動的に画像合成を行います。撮影したHDR画像は、JPEG画質で記録されます。

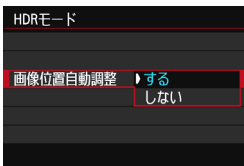
＊ HDRは、High Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。

HDR撮影をする

1 [HDRモード] を選ぶ

- [4] タブの [HDRモード] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ HDRモードの画面が表示されます。

2 [Dレンジ調整] を設定する

- ダイナミックレンジの調整幅を選び、〈SET〉を押します。
- [自動] を選ぶと、撮影画面全体の明暗差に応じて調整幅が自動設定されます。
- 数値が大きいほどダイナミックレンジが広い写真を撮影することができます。
- HDR撮影をやめるときは、[HDRオフ] を選びます。

- 保存される画像は、合成されたHDR画像のみです。合成用に撮影した3枚の画像は保存されません。
- RAW、RAW+JPEGは選択できません。また、RAW、RAW+JPEGが設定されているときは、HDRモードの設定はできません。
- AEB、WBブラケティング、マルチショットノイズ低減機能、多重露出が設定されているときや、バルブ撮影、動画撮影時は、HDRモードの設定はできません。
- HDR撮影時は、ストロボは発光しません。

3 ［HDR撮影の継続］を設定する

- ［**1回で終了**］または［**繰り返し**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**1回で終了**］を選んだときは、撮影が終了すると、HDR撮影が自動的に解除されます。
- ［**繰り返し**］を選んだときは、手順2で［**HDRオフ**］を選ぶまでHDR撮影が続きます。

4 ［画像位置自動調整］を設定する

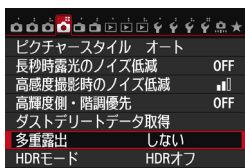
- 手持ち撮影を行うときは［**する**］、三脚などを使用するときは［**しない**］を選び、〈SET〉を押します。

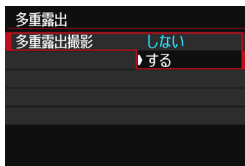
5 撮影する

- ファインダー撮影、ライブビュー撮影で、HDR撮影を行うことができます。
- ➡ 表示パネルに〈**HDR**〉が表示されます。
- シャッターボタンを全押しすると、3枚連続撮影され、HDR画像がカードに記録されます。

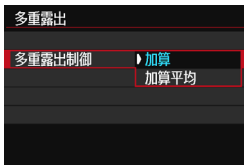
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ります。
- 手ブレを抑えるため、通常よりもISO感度が高く設定されることがあります。
- 拡張ISO感度でHDR撮影を行うことはできません（ISO100～25600の範囲でHDR撮影ができます）。
- ［**画像位置自動調整**］を［**する**］に設定して撮影したときは、AFフレーム表示用の情報（p.240）、およびダストデリートデータ（p.281）は画像に付加されません。
- ［**画像位置自動調整**］を［**する**］に設定して手持ち撮影を行うと、画像の周辺部分がわずかにトリミングされ、解像感が若干低下します。また、手ブレなどにより画像のズレ量が大きいと、自動位置合わせが行われないことがあります。なお、極端に明るい/暗い露出設定で撮影すると、自動位置合わせが適切に行われないことがあります。
- ［**画像位置自動調整**］を［**しない**］に設定して手持ち撮影を行うと、3枚の画像がズレて、HDRの効果が十分に得られないことがあります。その場合は、三脚の使用をおすすめします。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED電球などの光源下でHDR撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- HDR撮影は画像を合成するため、通常の撮影よりもカードに画像が記録されるまでの時間が長くなります。画像処理中は、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- HDRモードを設定したときは、メニュー画面に灰色で表示されている項目は設定できません。なお、HDRモード設定時は、オートライティングオプティマイザ、高輝度側・階調優先、露出Simulationは、［**しない**］設定で撮影されます。

多重露出撮影 応用

複数の画像（2～9枚）を重ね合わせた写真を撮影することができます。ライブビュー撮影（p.179）を併用すると、画像の重なり具合を確認しながら撮影することができます。

1 ［多重露出］を選ぶ

- ［4］タブの［**多重露出**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 多重露出の設定画面が表示されます。

2 ［多重露出撮影］を設定する

- ［**する**］を選び〈SET〉を押します。
- 多重露出撮影をやめるときは、［**しない**］を選びます。

- 連続撮影時は連続撮影速度が大幅に遅くなります。
- WBブラケティング、マルチショットノイズ低減機能、HDRモードが設定されているときや、動画撮影時は、多重露出撮影の設定はできません。
- Wi-Fi機能の使用中は、多重露出撮影の設定はできません。
- オートライティングオプティマイザ、高輝度側・階調優先、周辺光量補正、色収差補正は、［**しない**］設定で撮影されます。
- 記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目と同じ設定で2枚目以降も撮影されます。
- ピクチャースタイルが［**オート**］に設定されているときは、［**スタンダード**］で撮影されます。

3 [多重露出制御] を設定する

- 露出の重ね合わせ方を選び、〈SET〉を押します。

- **加算**

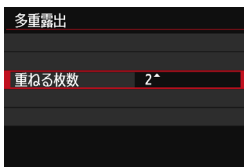
　撮影した画像の露出を加算して重ね合わせます。[**重ねる枚数**] に応じて、マイナス補正を行ってください。露出補正量の目安は以下のとおりです。

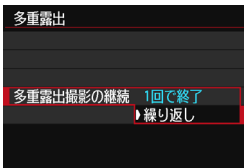
重ねる枚数と露出補正量の目安

「2枚：−1段」「3枚：−1.5段」「4枚：−2段」

> [**加算**] の設定で撮影途中に表示される画像は、ノイズが多い状態で表示されることがありますが、設定した枚数の撮影が終わると、ノイズ低減処理が行われ、撮影途中に表示されたときよりもノイズが少ない状態で多重露出画像が記録されます。

- **加算平均**

　[**重ねる枚数**] に応じて自動的にマイナス補正を行いながら、画像を重ね合わせます。なお、同じ構図で撮影したときは、被写体の背景が標準露出になるように自動露出制御が行われます。1枚ごとに露光量を変えたいときは [**加算**] を選びます。

4 [重ねる枚数] を設定する

- 〈▲▼〉を押して枚数を選び、〈SET〉を押します。
- 2〜9枚の範囲で設定することができます。

5 [多重露出撮影の継続] を設定する

- [**1回で終了**] または [**繰り返し**] を選び、〈SET〉を押します。
- [**1回で終了**] を選んだときは、撮影が終了すると、多重露出撮影が自動的に解除されます。
- [**繰り返し**] を選んだときは、手順2で [**しない**] を選ぶまで多重露出撮影が続きます。

残り撮影枚数

6 1枚目を撮影する

➡ 撮影した画像が表示されます。

➡ 〈▣〉が点滅します。

- 多重露出撮影の残り枚数は、ファインダー内または画面に表示される [ ] 内の数値で確認することができます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、撮影した画像を確認することができます（p.163）。

7 2枚目以降を撮影する

➡ 撮影した画像が重なって表示されます。

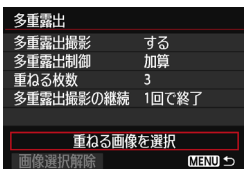
- ライブビュー撮影のときは、そのときまでに撮影した画像が重なって表示されます。〈**INFO.**〉ボタンを押すと、ライブビュー映像だけを表示することができます。
- 設定した枚数を撮影すると、多重露出撮影が終了します。連続撮影時は、シャッターボタンを押し続けると、設定した枚数を連続撮影して停止します。

- 保存される画像は、多重露出画像のみです。手順6、7で撮影した多重露出用の画像は保存されません。
- 多重露出撮影では、重ねる枚数が多いほど、ノイズ、色ムラ、縞が目立つようになります。また、ISO感度が高くなるほどノイズが増えるため、低ISO感度で撮影することをおすすめします。
- ［**加算**］設定時は、多重露出撮影を終了したときに画像処理に時間がかかります（アクセスランプが通常よりも長く点灯します）。
- ［**加算**］の設定でライブビュー撮影を行ったときは、多重露出撮影終了時にライブビュー機能が自動的に終了します。
- 手順 7 でライブビュー撮影時に重なって表示される画像の明るさやノイズなどは、最終的に記録される多重露出画像とは異なります。
- 多重露出の設定を行ったあと、電源スイッチ〈OFF〉、電池交換を行うと、多重露出撮影が解除されます。
- 撮影途中に撮影モードをかんたん撮影ゾーン、または〈C1/C2〉にすると、多重露出撮影が終了します。
- 多重露出を設定したときや、多重露出撮影中は、メニュー画面に灰色で表示されている項目は設定できません。
- カメラにパソコン、またはプリンターを接続しているときは、多重露出撮影はできません。

撮影途中で〈▶〉ボタンを押すと、そのときまでに撮影した画像を確認したり、直前に撮影した画像を消去することができます（p.163）。

カードに記録されている画像に重ね合わせる

カードに記録されている画像を1枚目に指定して、多重露出撮影を行うことができます。選択した画像の元画像はそのまま残ります。

指定できるのはRAW画像のみです。M RAW/S RAW画像、およびJPEG画像は選択できません。

1 ［重ねる画像を選択］を選ぶ

- ［**重ねる画像を選択**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ カード内の画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して、1枚目に設定する画像を選び、〈SET〉を押します。
- ［OK］を選びます。
- ➡ 選択中の画像番号が、画面下に表示されます。

3 撮影する

- 画像を選択すると、残り撮影枚数は［**重ねる枚数**］で設定した枚数よりも1枚少なくなります。例えば、［**重ねる枚数**］が3枚のときは、2枚撮影します。

- 高輝度側・階調優先を［**する**］に設定して撮影した画像、アスペクト比が3：2以外の画像（p.188）は、1枚目に指定できません。
- オートライティングオプティマイザ、周辺光量補正、色収差補正は、1枚目に指定したRAW画像の設定に関わらず、［**しない**］設定で撮影されます。
- ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目に指定したRAW画像と同じ設定で撮影されます。
- 1枚目に指定したRAW画像のピクチャースタイルが［**オート**］のときは、［**スタンダード**］で撮影されます。
- 他のカメラで撮影した画像は選択できません。

- 多重露出撮影を行ったRAW画像を選ぶこともできます。
- ［**画像選択解除**］を選ぶと、指定が解除されます。

撮影途中の画像確認と画像消去について

設定した枚数の撮影が完了する前に〈▶〉ボタンを押すと、撮影途中の（多重）画像が表示され、重なり具合や、露出などを確認することができます。

この状態で〈🗑〉ボタンを押すと、撮影途中に操作できる項目が表示されます。

項目	内容
前の画面に戻る	項目を消して〈🗑〉ボタンを押す前の画面に戻ります。
1枚戻る	直前に撮影した画像を消去します（撮影のやり直し）。残り撮影枚数が1枚増えます。
保存して終了	途中まで撮影した画像を多重露出画像として保存して終了します。
保存しないで終了	撮影した画像を保存しないで終了します。

多重露出撮影中は、多重露出画像以外の再生はできません。

こんなときは

記録画質に制限はありますか？

JPEGは全記録画質を選択できます。M RAW/S RAWのときは、多重露出画像はRAWで記録されます。

記録画質設定	多重露出画像
JPEG	JPEG
RAW	RAW
M RAW/S RAW	RAW
RAW+JPEG	RAW+JPEG
M RAW/S RAW+JPEG	RAW+JPEG

カードに記録されている画像に重ね合わせたい

［**重ねる画像を選択**］で、多重露出1枚目の画像を選択することができます（p.162）。なお、カードに記録されている画像どうしを重ね合わせることはできません。

ライブビュー撮影でも多重露出ができますか？

ライブビュー撮影でも多重露出を行うことができます（p.179）。ただし、［**1：アスペクト比**］は［**3：2**］に固定されます。

多重露出撮影中にオートパワーオフ機能は作動しますか？

［**2：オートパワーオフ**］が［**しない**］以外に設定されているときは、オートパワーオフで電源が自動的に切れるまでの時間が30分になります。オートパワーオフが働くと多重露出撮影が終了し、多重露出の設定も解除されます。

なお、多重露出撮影を始める前は、カメラで設定した時間通りにオートパワーオフが働き、多重露出の設定が解除されます。

ミラーアップ撮影 応用

セルフタイマー撮影や、リモートスイッチを使用した撮影でも、カメラブレ防止に十分な効果がありますが、超望遠レンズを使用した撮影のときや、近接（マクロ）撮影のときに、機械的な振動（ミラーショック）が気になるときは、ミラーアップ撮影という方法を使います。

---

1 ［ミラーアップ撮影］を［する］に設定する

- ［2］タブの［**ミラーアップ撮影**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**する**］を選び〈SET〉を押します。

2 ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーが上がります。

3 もう一度シャッターボタンを全押しする

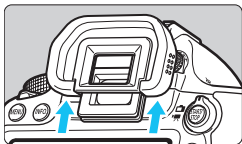
➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

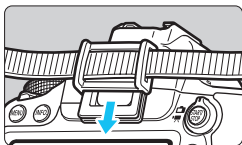
- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（タイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。タイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。
- ミラーアップ中は、撮影機能の設定、メニュー操作などはできません。

- ドライブモードが連続撮影に設定されていても、1枚撮影になります。
- セルフタイマーを併用することもできます。
- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- ミラーアップ撮影を行うときは、三脚とリモートスイッチ RS-80N3（別売）、またはタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします（p.167）。
- リモートコントローラー（別売／p.167）を併用することもできます。リモートコントローラーのスイッチを「2秒後」に設定することをおすすめします。

アイピースカバーの使い方

セルフタイマー撮影やバルブ撮影、リモートスイッチを使った撮影など、ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバー（p.27）を使います。

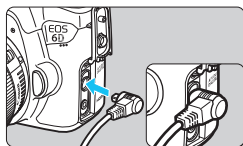
なお、ライブビュー撮影と動画撮影のときは、アイピースカバーを取り付ける必要はありません。

1 アイカップを取り外す

- アイカップの下側を押して取り外します。

2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。
- 撮影が終わったら、アイピースカバーを取り外し、アイカップをファインダー接眼部の溝に沿って取り付けます。

リモートスイッチ撮影

リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）など、N3タイプの端子を備えたEOS用アクセサリーをカメラに取り付けて撮影することができます（p.354）。

アクセサリーの操作方法については、各アクセサリーの使用説明書を参照してください。

1 端子カバーを開ける

2 リモコン端子にプラグを取り付ける

- 図のように取り付けます。
- 取り外すときは、プラグの銀色の部分をつまんで引き抜きます。

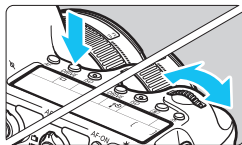
リモコン撮影

リモートコントローラー RC-6（別売）を使用すると、カメラから最大約5m離れてリモコン撮影することができます。「すぐに撮影」と「2秒後撮影」ができます。

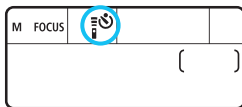
リモートコントローラー RC-1 とRC-5を使用することもできます。

1 ピントを合わせる

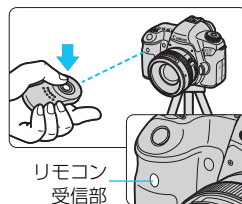
2 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

- 〈AF〉で撮影することもできます。

3 〈DRIVE〉ボタンを押す（⏱6）

4 セルフタイマーを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回して、〈セルフタイマー〉または〈セルフタイマー2〉を選びます。

5 リモコンの送信ボタンを押す

- リモコンの送信部をカメラの受信部に向けて、送信ボタンを押します。

➡ セルフタイマーランプが点灯して撮影されます。

蛍光灯やLED電球などが近くにあると、光源の影響でカメラが誤作動して、意図せずにシャッターが切れることがあります。できるだけカメラを光源から離してください。

リモートレリーズ機能を備えたEXシリーズスピードライトでも、リモコン撮影を行うことができます。

6

ストロボ撮影

この章では、EOS用のEXスピードライト（別売）や、汎用ストロボを使った撮影方法、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定する方法について説明しています。

ストロボを使った撮影

EOS用EXシリーズスピードライト

EXスピードライト（別売）を使用すると、ストロボなしの撮影と同じ感覚で、簡単にストロボ撮影を行うことができます。

操作方法については、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXスピードライトの全機能が使用できる、Aタイプカメラに属しています。

カメラのメニュー画面から、ストロボの機能や、ストロボのカスタム機能を設定する方法については、172～177ページを参照してください。

クリップオンタイプストロボ　　　　マクロストロボ

- **FEロック**

  被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体をファインダーの中央に置いて、カメラの〈✱〉ボタンを押してから撮影します。

- **ストロボ調光補正**

  露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

  クイック設定（p.49）、または［**2：外部ストロボ制御**］の［**ストロボ機能設定**］で設定します。シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に〈〉が表示されます。

［**3：オートライティングオプティマイザ**］（p.125）が［**しない**］以外に設定されているときは、暗めにする調光補正を行っても、明るく撮影されることがあります。

AF でピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS 用外部ストロボからAF補助光が自動投光されます。

EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

- **EZ/E/EG/ML/TL スピードライトをA-TTL またはTTL 自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**
  カメラの撮影モードを〈**M**〉（マニュアル露出）、または〈**Av**〉（絞り優先AE）に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボを使った撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/180秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なるため、1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

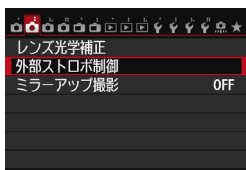
ライブビュー撮影時の注意

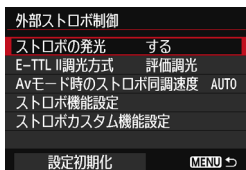
汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、［**2：LV静音撮影**］を［**しない**］設定にしてください（p.190）。［**モード1**］［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

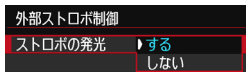
MENU ストロボの機能を設定する 応用

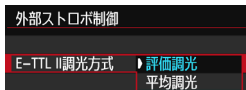
ストロボ機能設定に対応したEXシリーズスピードライトを使用すると、カメラのメニュー画面から、ストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。**設定を行う前に、ストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。**

ストロボの機能については、各スピードライトの使用説明書を参照してください。

1 ［外部ストロボ制御］を選ぶ

- ［2］タブの［**外部ストロボ制御**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 外部ストロボ制御画面が表示されます。

2 項目を選ぶ

- 設定する項目を選び、〈SET〉を押します。

ストロボの発光

ストロボ撮影を行うときは、［**する**］に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、［**しない**］に設定します。

E-TTL II 調光方式

通常は、標準的なストロボ露出が得られる［**評価調光**］に設定します。［**平均調光**］に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

Avモード時のストロボ同調速度

絞り優先AE（**Av**）モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

- **AUTO：自動**

  明るさに応じてシャッター速度が1/180～30秒の範囲で自動設定されます。ハイスピードシンクロを行うこともできます。

- **1/180-1/60A：1/180-1/60秒自動**

  暗い場所でシャッター速度が自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

- **1/180：1/180秒固定**

  シャッター速度が1/180秒に固定されるため、［**1/180-1/60秒自動**］よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では［**1/180-1/60秒自動**］よりも被写体の背景が暗くなります。

［**1/180-1/60秒自動**］［**1/180秒固定**］設定時は、〈**Av**〉モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

ストロボ機能設定

画面に表示される内容や設定できる項目は、ストロボの機種や現在設定されているストロボの発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。

使用するストロボが対応している機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

表示例

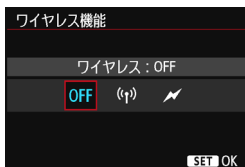
● 発光モード

撮影目的に応じて発光モードを選択します。

［E-TTL II］は、ストロボの自動撮影ができる、EXシリーズスピードライトの標準的なモードです。

［**マニュアル発光**］は、ストロボの［**発光量**］を自分で決めて撮影するモードです。

その他の発光モードについては、その発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

ワイヤレス機能

電波通信、または光通信によるワイヤレス（多灯）ストロボ撮影を行うことができます。詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したスピードライトの使用説明書を参照してください。

ズーム（照射角）

ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。通常は、撮影レンズの焦点距離に応じて照射角をカメラが自動設定する［AUTO］に設定します。

シンクロ設定

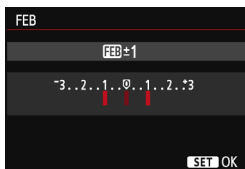
通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。遅いシャッター速度と組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで写すことができます。なお、後幕シンクロでは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回、ストロボが発光します。

［**ハイスピード**］に設定すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。特に日中シンクロによるポートレート撮影を、絞りを優先して行いたいときに有効です。

調光補正

170ページの『ストロボ調光補正』と同じ設定を行うことができます。
詳しくは、ストロボの使用説明書を参照してください。

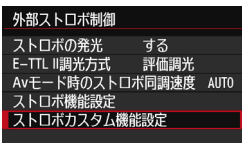
FEB

ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。
詳しくは、FEB（Flash Exposure Bracketing）に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

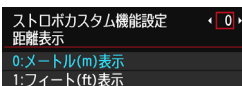
後幕シンクロで撮影するときは、シャッター速度を1/25秒以下の遅い速度に設定してください。1/30秒以上の速い速度のときは、［**後幕シンクロ**］に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、［**ストロボの発光**］［**E-TTL II 調光方式**］、および［**ストロボ機能設定**］の［**調光補正**］のみ設定できます（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）。
- ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません（ストロボ機能設定）。なお、同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

ストロボカスタム機能設定

ストロボのカスタム機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

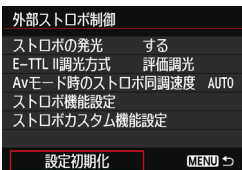
外部ストロボ制御
ストロボの発光　する
E-TTL II調光方式　評価調光
Avモード時のストロボ同調速度　AUTO
ストロボ機能設定
ストロボカスタム機能設定

1 ［ストロボカスタム機能設定］を選ぶ

- ［**ストロボカスタム機能設定**］を選び〈SET〉を押します。

2 機能を設定する

- 〈◄►〉を押して番号を選び、〈SET〉を押します。
- 項目を選び〈SET〉を押します。

設定初期化

1 ［設定初期化］を選ぶ

- ［**2：外部ストロボ制御**］の［**設定初期化**］を選び、〈SET〉を押します。

設定初期化
ストロボ機能設定初期化
ストロボカスタム機能一括解除

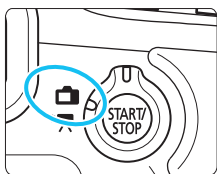
2 初期化する内容を選ぶ

- ［**ストロボ機能設定初期化**］［**ストロボカスタム機能一括解除**］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。
- ［OK］を選ぶとストロボの設定が初期化されます。

EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の［**調光方式**］を［TTL］（自動調光）に設定したときは、常時フル発光します。

［**外部ストロボ制御**］の画面から、ストロボのパーソナル機能（P.Fn）の設定・解除はできません。ストロボを直接操作して設定してください。

7

液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）

カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

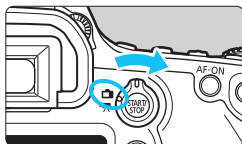
ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にすると、ライブビュー撮影ができるようになります。

ライブビュー撮影は、被写体との距離が変わらない「静物撮影」に有効です。

カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。そのようなときは、三脚などの使用をおすすめします。

リモートライブビュー撮影について

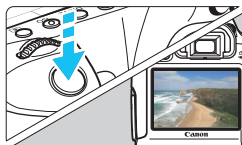
付属ソフトウェアのEOS Utility（p.392）がインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM／p.395）を参照してください。

液晶モニターを見ながら撮影する

1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈 〉にする

2 ライブビュー映像を表示する

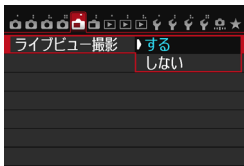
- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式（p.192）でピント合わせが行われます。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈START/STOP〉ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

- 映像の視野率は、約100%（記録画質JPEG ◢L時）です。
- 応用撮影ゾーンでは、絞り込みボタンを押すと、被写界深度を確認することができます。
- 連続撮影時は、1枚目の露出で2枚目以降が撮影されます。
- リモートコントローラー（別売／ p.167）を使ってライブビュー撮影を行うこともできます。

ライブビュー撮影ができないときは

［1：**ライブビュー撮影**］を［**する**］に設定します。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安 ［約・枚］

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能枚数	220	190

- 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E6使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6でライブビュー撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約1時間45分です。

- ライブビュー撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **ライブビュー撮影全般に関する注意事項は、201、202ページにまとめて記載しています。**

- ピント合わせは、〈**AF-ON**〉ボタンで行うこともできます。
- ストロボ撮影時は、シャッターが2回切れたような音がしますが、撮影枚数は1枚です。
- カメラを操作しない状態が続くと、［**2：オートパワーオフ**］の設定時間で電源が自動的に切れます（p.55）。なお、設定が［**しない**］のときは、30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- 付属のステレオAVケーブルや、別売のHDMIケーブルを使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（p.261、264）。

情報表示について

- 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- ヒストグラムは、[1：**露出Simulation：する**]（p.189）のときに表示することができます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、水準器を表示することができます（p.60）。なお、AF方式が[**ライブAF**]のときと、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- 〈Exp.SIM〉が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさでライブビュー映像が表示されています。
- 〈Exp.SIM〉が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が適切な明るさで表示されていないことを示しています。ただし、撮影を行うと、露出設定どおりに記録されます。
- ストロボ使用時、バルブ設定時は、〈Exp.SIM〉とヒストグラムが灰色で（参考）表示されます。なお、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

シーン判別のアイコン一覧

〈A+〉モードでライブビュー撮影するときは、カメラが判別したシーンアイコンが表示され、そのシーンに応じた撮影が行われます。なお、シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

被写体 / 背景	人物*1		人物以外の被写体			背景色
		動いているとき	自然や屋外シーン	動いているとき	近いとき*2	
明るい						灰色
逆光						
青空を含む						水色
逆光						
夕景	*3				*3	オレンジ色
スポットライト						
暗い						紺色
三脚使用時	*4*5	*3	*4*5	*3		

*1：AF方式を［ライブAF］に設定しているときのみ表示されます。それ以外のAF方式を設定しているときは、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されます。
*2：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。
*3：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。
*4：下記の条件が揃ったときに表示されます。
「撮影シーンが暗いとき」、「夜景撮影時」、「三脚などでカメラを固定しているとき」

<→次のページに続く>

*5：下記のレンズ使用時に、表示されます。
- ・EF24mm F2.8 IS USM
- ・EF28mm F2.8 IS USM
- ・EF300mm F2.8L IS II USM
- ・EF400mm F2.8L IS II USM
- ・EF500mm F4L IS II USM
- ・EF600mm F4L IS II USM
- ・2012年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ

*4+*5：*4と*5の条件がすべて揃ったときは、シャッター速度が遅くなります（最長2秒）。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果をライブビュー映像で確認できる機能です。

撮影時にライブビュー映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

ライブビュー撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどの全設定が反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 雰囲気を選んで撮影
- 明かりや状況にあわせて撮影
- 測光モード
- 露出（[**1：露出Simulation：する**］設定時）
- 被写界深度（絞り込みボタンON時）
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 高輝度側・階調優先
- アスペクト比（撮影範囲確認）

撮影機能の設定

Q クイック設定

ライブビュー映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、応用撮影ゾーンでは、**AF方式**／**ドライブモード**／測光モード／**記録画質**／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザの設定を行うことができます。

かんたん撮影ゾーンでは、太字の項目の他に83ページの表に示した設定を行うことができます。

1 〈Q〉ボタンを押す

➡ 設定できる項目が表示されます。

2 機能を選んで設定する

- 〈▲▼〉を押して機能を選びます。

➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.63）が画面に表示されます。

- 〈ダイヤル〉または〈サブダイヤル〉を回して設定を変更します。
- 〈**SCN**〉モード時は、撮影モードの欄を選び〈SET〉を押して撮影モードを選びます。
- 記録画質のRAW画質設定、ピクチャースタイルの詳細設定を行うときは、〈**INFO.**〉ボタンを押します。

3 設定を終了する

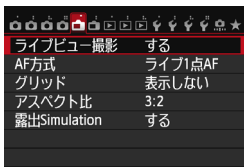
- 〈SET〉を押すと設定され、ライブビュー撮影に戻ります。

AF／DRIVE／ISO／〈測光〉／〈AFエリア選択〉設定

ライブビュー映像が表示された状態で〈AF〉／〈DRIVE〉／〈ISO〉／〈測光〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉を回して撮影機能の設定を行うことができます。
クイックAF設定時に〈AFエリア選択〉ボタンを押すと、AFフレームを選択することができます。操作方法は、ファインダー撮影時と同じです。

- 〈部分測光〉（部分測光）、〈スポット測光〉（スポット測光）設定時は、画面の中央に測光範囲を示す円が表示されます。
- ライブビュー撮影時の露出は、測光モードの設定に関係なく、撮影する瞬間に決まります。

MENU メニュー機能の設定

[📷1] メニュー

ライブビュー撮影特有の機能設定について説明します。メニューの［📷1］［📷2］タブに表示される各項目の内容は、187～191ページのとおりです。かんたん撮影ゾーンでは、［📷1］タブの一部と［📷2］タブは表示されません。

このメニュー画面で設定できる機能は、ライブビュー撮影時のみ有効です。ファインダー撮影時は無効になります。

● ライブビュー撮影

ライブビュー撮影［**する**］［**しない**］を選択することができます。

● AF方式

［**ライブ1点AF**］(p.192)、［**☺ライブAF**］(p.193)、［**クイックAF**］(p.197)が選択できます。

● グリッド

［**9分割** #］または［**24分割** #］で格子線を表示して、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。また、［**9分割+対角** #］では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図で撮影することができます。

アスペクト比 応用

画像のアスペクト比（横縦比率）を［3：2］［4：3］［16：9］［1：1］から選択することができます。［4：3］［16：9］［1：1］のときは、撮影範囲外が黒くマスキングされた状態でライブビュー映像が表示されます。

JPEG画像は、設定したアスペクト比で保存されます。RAW画像は、常に［3：2］のアスペクト比で保存されます。RAW画像には、設定したアスペクト比情報が付加され、カメラや付属ソフトウェアで現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比で画像を生成することができます。

記録画質	アスペクト比と画素数（約）			
	3：2	4：3	16：9	1：1
L / RAW	5472×3648（2000万）	4864× 3648（1770万）	5472×3072*（1680万）	3648×3648（1330万）
M RAW	4104×2736（1100万）	3648×2736（1000万）	4104×2310*（950万）	2736×2736（750万）
M	3648×2432（890万）	3248×2432*（790万）	3648×2048*（750万）	2432×2432（590万）
S1 / S RAW	2736×1824（500万）	2432×1824（440万）	2736×1536*（420万）	1824×1824（330万）
S2	1920×1280（250万）	1696×1280*（220万）	1920×1080（210万）	1280×1280（160万）
S3	720×480（35万）	640×480（31万）	720×408*（29万）	480×480（23万）

- 「*」印の付いた記録画質とアスペクト比は、正確な比率になりません。
- 「*」印が付いたアスペクト比の撮影範囲表示は、実際に撮影される範囲よりもわずかに広い範囲が表示されます。撮影結果を確認しながら撮影してください。
- アスペクト比1：1で撮影した画像を、他のカメラでダイレクトプリントすると、正常に印刷されないことがあります。

露出Simulation 応用

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示する機能です。

- **する（Exp.SIM）**

  実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

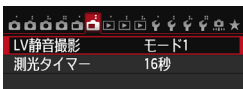
- **絞り込み中**

  通常は、ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。絞り込みボタンを押している間だけ、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。

- **しない（DISP）**

  ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

- ［**ISO 感度設定範囲**］で［**上限値**］を初期設定から拡張すると、より暗い場所でもライブビュー撮影ができるようになります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所ではライブビュー映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（ライブビュー映像と撮影した画像の画質は異なります）。

[2] メニュー

● LV静音撮影 応用

・モード1

通常撮影よりも作動音が静かになります。連続撮影を行うこともできます。なお、〈〉設定時は、最高約4.1コマ/秒の連続撮影を行うことができます。

・モード2

シャッターボタンを全押しすると1枚だけ撮影し、全押しを続けている間、カメラの作動を停止します。半押し状態に戻したときにカメラが作動するため、撮影する瞬間の音を最小限に抑えることができます。なお、連続撮影に設定していても1枚撮影になります。

・しない

TS-Eレンズ（に記載したレンズを除く）を使用して**シフトやティルト**を行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ず[**しない**]に設定してください。[**モード1**][**モード2**]に設定すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

- ストロボ撮影時は、[**LV静音撮影**]の設定に関わらず、静音撮影はできません。
- 汎用ストロボを使用するときは、[**しない**]に設定してください。[**モード1**][**モード2**]に設定されていると、ストロボが発光しません。
- [**モード2**]の設定でリモコン撮影（p.167）を行ったときは、[**モード1**]と同じ動作になります。

TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L II は、[**モード1**][**モード2**]で使用することができます。

● 測光タイマー 応用

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

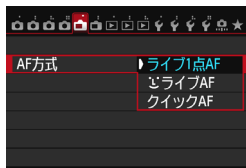
次の操作を行うと、ライブビュー撮影が終了します。操作後にライブビュー撮影をする場合は、再度〈START/STOP〉ボタンを押してください。

- ［**4：ダストデリートデータ取得**］［**4：センサークリーニング**］［**4：カメラ設定初期化**］［**4：ファームウェア**］を選んだとき
- 撮影モードを切り換えたとき（例：かんたん撮影ゾーン⇔応用撮影ゾーン）

AFでピントを合わせる（AF方式）

AF方式を選ぶ

AF方式には、［**ライブ1点AF**］、［**ライブAF**］（顔優先／p.193）、［**クイックAF**］（p.197）があります。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にしたあと、映像を拡大して手動ピント合わせを行ってください（p.199）。

AF方式を選ぶ

- ［1］タブの［**AF方式**］で選びます。
- ライブビュー映像表示中に〈**AF**〉ボタンを押して、表示される設定画面でAF方式を選ぶこともできます。

ライブ1点AF：AF □

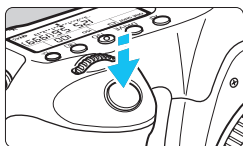
撮像素子を使ってピント合わせを行います。ライブビュー表示のままAFできますが、**クイックAFよりもピント合わせに時間がかかります**。また、クイックAFよりもピントが合いにくいことがあります。

AFフレーム

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ AFフレーム〈□〉が表示されます。

2 AFフレームを動かす

- ピントを合わせたい場所に、〈〉で動かします（画面の一番端までは動きません）。
- 〈SET〉または〈〉ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。

3 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わります。

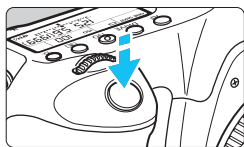
4 撮影する

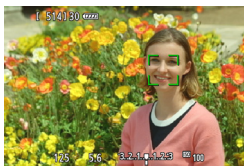
- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.180）。

（顔優先）ライブAF：AF

ライブ1点AFと同じAF方式で、人の顔を検知してピント合わせを行います。写される人は、顔をカメラに向けてください。

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 顔を検知すると、ピント合わせを行う〈 〉が顔の部分に表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは〈 〉が表示されます。〈 〉でピントを合わせたい顔に〈 〉を合わせます。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、〈 〉の顔にピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。
- 顔が検知できないときは、AFフレーム〈 〉が表示され、中央の位置でピント合わせが行われます。

3 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.180）。

- ピントが大きく外れていると、顔を検知できません。レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉のまま手動ピント合わせができるレンズのときは、フォーカスリングを回して、おおまかにピント合わせを行うと、顔を検知して画面に〈 〉が表示されます。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」、「顔が明るすぎる／暗すぎる」、「顔が横や斜めを向いている」、「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈 〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

- 〈SET〉または〈 〉ボタンを押すと、ライブ1点AF（p.192）に切り換わり、〈 〉でAFフレームを移動することができます。再度、〈SET〉または〈 〉ボタンを押すと、 （顔優先）ライブAFに戻ります。
- 画面の端のほうで検知された顔はAFできないため、〈 〉が灰色で表示されます。その状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央のAFフレーム〈 〉でピント合わせが行われます。

ライブ1点AFと（顔優先）ライブAFに関するおことわり

AFの動作について

- ピント合わせには、多少時間がかかります。
- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、再度ピント合わせが行われます。
- AF中とAF後で、映像の明るさが変わることがあります。
- ライブビュー映像表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- ライブ1点AFで〈Q〉ボタンを押すと、AFフレームの部分が拡大表示されますが、拡大表示でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。なお、AFの速度は、通常表示と拡大表示で異なることがあります。
- ライブ1点AFの通常表示でAFを行ったあと、拡大表示すると正確にピントが合っていないことがあります。
- ライブAFのときは、〈Q〉ボタンを押しても拡大表示されません。

- ライブ1点AF、（顔優先）ライブAFで、画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（AFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 外部ストロボからAF補助光は投光されません。ただし、LEDライト付きEXスピードライト（別売）使用時は、ライブ1点AF、（顔優先）ライブAF時に、必要に応じてAF補助用のライトが自動点灯します。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面など、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED電球などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 光を強く反射している被写体
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 近づく、または遠ざかる被写体
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合

以下のレンズでAFを行うときは、［**クイックAF**］をおすすめします。［**ライブ1点AF**］［**ᴗライブAF**］でAFを行うと、ピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

EF28mm F2.8、EF35mm F2、EF50mm F1.4 USM、EF50mm F1.8 II、EF50mm F2.5 Compact Macro、EF135mm F2.8（Softfocus）、EF75-300mm F4-5.6 III、EF75-300mm F4-5.6 III USM

生産終了レンズについては、キヤノンのホームページを参照してください。

クイックAF：AF Quick

ファインダー撮影時と同じAF方式で、専用のAFセンサーを使ってワンショットAF（p.92）でピント合わせを行います。

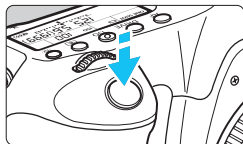
ピントを素早く合わせることができますが、**AF中はライブビュー表示が一時的に中断されます。**

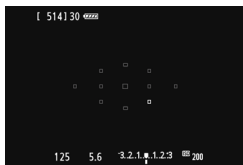
11点のAFフレームでピント合わせができます（自動選択）。また、ピント合わせを行うAFフレームを1つ選び、その枠を合わせたところだけにピントを合わせることができます（任意選択）。なお、かんたん撮影ゾーンでは、AFフレーム自動選択が自動設定されますので、AFフレームの任意選択はできません。

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 小さい枠がAFフレームです。

2 AFフレームを選ぶ 応用

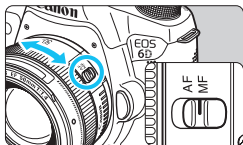
- 〈⊡〉ボタンを押します。
- 〈✣〉を操作して選択する方法と、〈ダイヤル〉または〈◎〉を回して選択する方法があります。
- 〈SET〉を押すと、中央のAFフレームと自動選択が交互に切り換わります。

3 ピントを合わせる

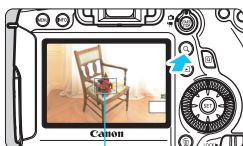
- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ライブビュー映像が消えてミラーが下がり、AF が行われます（撮影は行われません）。
- ➡ ピントが合うと「ピピッ」と電子音が鳴り、ライブビュー表示に戻ります。
- ➡ ピント合わせに使用した AF フレームが緑色で表示されます。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色で点滅します。

4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.180）。

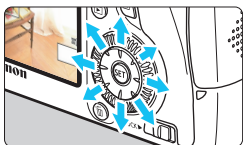
AF中は撮影できません。ライブビュー映像が表示された状態で撮影してください。

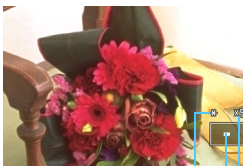
手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。

拡大表示枠

2 拡大表示枠を表示する

- 〈Q〉ボタンを押します。

3 拡大表示枠を移動する

- ピントを合わせたい位置に、〈✣〉で拡大表示枠を移動します。
- 〈SET〉または〈🗑〉ボタンを押すと、画面中央に戻ります。

AEロック

拡大表示位置

拡大率

4 映像を拡大する

- 〈Q〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→5倍 → 10倍 → 通常表示 → 1倍 ─┘

5 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈🔍〉ボタンを押して通常表示にします。

6 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.180）。

ライブビュー撮影全般に関する注意事項

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇にともなう、白い〈〉と赤い〈〉表示について

- ライブビュー撮影を長時間行ったり、高温下でライブビュー撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈〉または赤い〈〉が表示されます。
- 白い〈〉は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
- 赤い〈〉は、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、ライブビュー撮影を一時休止するまたは一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下でライブビュー撮影を長時間行うと、〈〉または〈〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い〈〉が表示される手前でも、カメラ内部の温度が上昇している状態で高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。なお、拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値がオレンジ色で表示されます。なお、拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。
- ［**3：オートライティングオプティマイザ**］（p.125）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めに露出補正／ストロボ調光補正を行っても明るく撮影されることがあります。

ライブビュー撮影全般に関する注意事項

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で［**2：液晶の明るさ**］を明るい設定にすると、ライブビュー映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

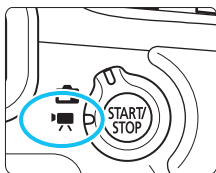
カスタム機能について

- ライブビュー撮影では、設定が無効になるカスタム機能があります（p.303）。

レンズとストロボについて

- 2011年下期 以降に発売されたフォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、ライブビュー撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- 外部ストロボ使用時にFEロック、モデリング発光はできません。

8

動画を撮影する

ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈'■〉にすると、動画を撮影することができます。記録形式はMOV形式です。

- 動画が記録できるカードについては、p.3でご確認ください。

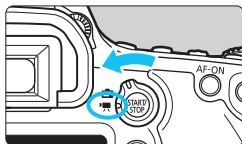
[¥3] タブの [Wi-Fi] が [**使う**] に設定されているときは、動画の撮影はできません。撮影を行う前に、[Wi-Fi] を [**使わない**] に設定してください。

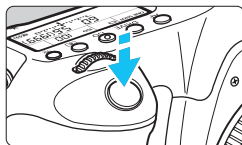
'🎥 動画を撮影する

自動露出撮影

撮影モードが〈M〉以外のときは、明るさに応じて自動露出制御が行われます。

1 撮影モードを設定する

- モードダイヤルを〈M〉以外にします。

2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈'🎥〉にする

➡ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。

3 ピントを合わせる

- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます（p.192～200）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。

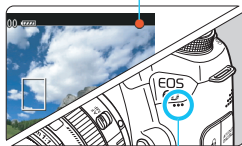
動画撮影中

マイク

4 動画を撮影する

- 〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が始まります。

➡ 動画撮影中は画面右上に「●」が表示されます。

- もう一度〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が終了します。

● 動画撮影全般に関する注意事項は、233、234ページにまとめて記載しています。
● 必要に応じて201、202ページの『ライブビュー撮影全般に関する注意事項』もお読みください。

● かんたん撮影ゾーン時は、〈A+〉モードと同じ撮影結果になります。また、画面の左上にカメラが判別したシーンアイコンが表示されます（p.207）。
● 撮影モードが〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**B**〉のときは、〈**P**〉と同じ設定で撮影されます。
● かんたん撮影ゾーンと応用撮影ゾーンでは、設定できるメニューが異なります（p.353）。
● 応用撮影ゾーン時は、オートライティングオプティマイザを設定することができます。
オートライティングオプティマイザのメニューでは［INFO. ☑ M, Bulb時はOFF］の設定ができますが、撮影モードが〈**B**〉のときの動画撮影は、Bulbではなく自動露出となるため、オートライティングオプティマイザの設定ができるようになっています。
● 応用撮影ゾーン時は、〈✱〉ボタン（p.153）を押すと、露出を固定（AEロック）することができます。露出値の表示時間は［**1：測光タイマー**］の設定時間になります。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈⊞〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます（〈⊞〉ボタンを押すまで保持されます）。
● 応用撮影ゾーン時は、〈LOCK▶〉スイッチを左側にして〈◎〉を回すと、露出補正を行うことができます。
● シャッターボタン半押しで画面下に表示される、シャッター速度、ISO感度は、静止画撮影用の露出値です（p.210）。動画撮影の露出値は表示されません。なお、動画の撮影露出と、静止画の撮影露出は異なることがあります。
● 自動露出で撮影した動画の画像情報（Exif情報）には、シャッター速度と絞り数値は記録されません。

かんたん撮影ゾーン時のISO感度について

- ISO100～12800の範囲で自動設定されます。

応用撮影ゾーン時のISO感度について

- ISO100～12800の範囲で自動設定されます。
- ［**3：ISO感度に関する設定**］の［**ISO感度設定範囲**］の［**上限値**］を［**25600/H**］に設定すると（p.109）、自動設定範囲の上限がH（ISO25600相当）まで拡張されます。なお、［**上限値**］を［**25600**］に設定したときは、上限はISO12800のまま拡張されません。ご注意ください。
- ［**4：高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定したときは（p.130）、ISO感度がISO200～12800になります。
- 動画撮影時は、［**3：ISO感度に関する設定**］の［**ISOオートの範囲**］［**ISOオート低速限界**］は設定できません（p.110、111）。

［**ISO感度設定範囲**］の［**下限値**］が［**L（50）**］、［**上限値**］が［**H1（51200）**］［**H2（102400）**］に設定されている状態で、静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影における自動設定範囲の下限がISO100、上限がH（ISO25600相当）になります。ISO50相当、およびISO51200/102400相当のISO感度拡張はできません。

LEDライト付きEXスピードライト（別売）について

このカメラは、自動露出（**M**モード以外）で動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。**詳しくは、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。**

シーン判別のアイコン一覧

かんたん撮影ゾーンで動画を撮影するときは、カメラが判別したシーンアイコンが表示され、そのシーンに応じた撮影が行われます。なお、シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

被写体 / 背景	人物*1	人物以外の被写体		背景色
		自然や屋外シーン	近いとき*2	
明るい				灰色
逆光				
青空を含む				水色
逆光				
夕景	*3		*3	オレンジ色
スポットライト				紺色
暗い				

*1：AF方式を［ライブAF］に設定しているときのみ表示されます。それ以外のAF方式を設定しているときは、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されます。

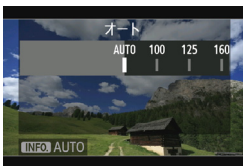
*2：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

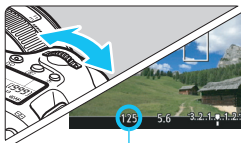
*3：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

マニュアル露出撮影

任意にシャッター速度、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、動画のマニュアル露出撮影は上級者向けの機能です。

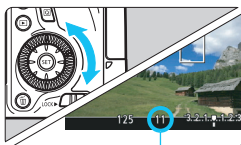
1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈〉にする

3 ISO感度を設定する

- 〈ISO〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに ISO 感度の設定画面が表示されます。
- 〈〉を回してISO感度を設定します。
- ISO感度については、次ページを参照してください。

シャッター速度

絞り数値

4 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッター速度は、〈〉を回して設定します。設定できる速度は、フレームレート〈〉により異なります。
  - ・30 25 24 ：1/4000～1/30秒
  - ・60 50 ：1/4000～1/60秒
- 絞り数値は、〈〉を回して設定します。
- 設定できないときは、〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてから〈〉または〈〉を回します。

5 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順3、4と同じです（p.204）。

マニュアル露出撮影時のISO感度について

- [Auto]（A）のときは、ISO100〜12800の範囲で自動設定されます。なお［3：ISO感度に関する設定］の［ISO感度設定範囲］の［上限値］を［25600/H］に設定すると、上限が拡張されISO100〜Hの範囲で自動設定されます。
- 手動設定のときは、ISO100〜12800の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。［3：ISO感度に関する設定］の［ISO感度設定範囲］の［上限値］を［25600/H］に設定すると、手動設定範囲の上限がH（ISO25600相当）まで拡張されます。なお、［上限値］を［25600］に設定したときは、上限はISO12800のまま拡張されません。ご注意ください。
- ［4：高輝度側・階調優先］を［する］に設定したときは（p.130）、ISO感度がISO200〜12800になります（［ISO感度設定範囲］の設定による）。
- 動画撮影時は、［3：ISO感度に関する設定］の［ISOオートの範囲］［ISOオート低速限界］は設定できません（p.110、111）。

- 動画撮影時のISO16000/20000/25600は、ノイズが多いことがあるため拡張ISO感度になります（「H」表示）。
- ［ISO感度設定範囲］の［下限値］が［L（50）］、［上限値］が［H1（51200）］［H2（102400）］に設定されている状態で、静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影における手動設定範囲の下限がISO100、上限がH（ISO25600相当）になります。ISO50相当、およびISO51200/102400相当のISO感度拡張はできません。
- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/30〜1/125秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED電球などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示（p.22、210）で確認することができます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。

情報表示について

- 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

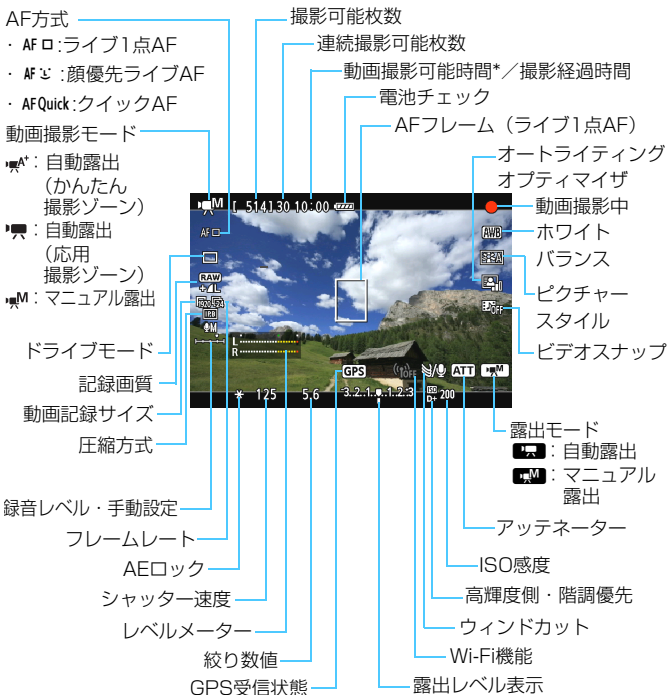
AF方式
・AF□:ライブ1点AF
・AF顔:顔優先ライブAF
・AFQuick:クイックAF

動画撮影モード
自動露出（かんたん撮影ゾーン）
自動露出（応用撮影ゾーン）
M：マニュアル露出

ドライブモード
記録画質
動画記録サイズ
圧縮方式
録音レベル・手動設定
フレームレート
AEロック
シャッター速度
レベルメーター
絞り数値
GPS受信状態

撮影可能枚数
連続撮影可能枚数
動画撮影可能時間*／撮影経過時間
電池チェック
AFフレーム（ライブ1点AF）
オートライティングオプティマイザ
動画撮影中
ホワイトバランス
ピクチャースタイル
ビデオスナップ

露出モード
：自動露出
M：マニュアル露出

アッテネーター
ISO感度
高輝度側・階調優先
ウィンドカット
Wi-Fi機能
露出レベル表示

* 1回の撮影可能時間です。

- 〈INFO.〉ボタンを押すと、水準器を表示することができます（p.60）。
- AF方式が［ライブAF］のときと、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続（p.261）したときは、水準器は表示されません。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

動画撮影時共通事項

- ビデオカメラのように、自動的にピントを合わせ続ける機能は搭載していません。
- 動画撮影中にAFを行うと、一時的にピントが大きくボケたり、露出変化が生じることがあるため、おすすめできません。
- 動画撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 〈AWB〉で動画撮影中に、ISO 感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED電球などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- 動画撮影中にレンズのズーム操作を行うことはおすすめできません。ズーム操作により開放絞り数値が変化するレンズ、変化しないレンズに関わらず、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中に、拡大表示することはできません。
- **動画撮影全般に関する注意事項は、233、234ページにまとめて記載しています。**
- **必要に応じて201、202ページの『ライブビュー撮影全般に関する注意事項』もお読みください。**

- メニューの［1］［2］タブで、動画撮影に関する設定を行うことができます（p.223）。
- 1回撮影するごとに、1ファイルが記録されます。ファイルサイズが4GBを超えるときは、約4GBごとに新たなファイルが作成されます。
- 映像の視野率は、約100％（動画記録サイズ1920時）です。
- 〈AF-ON〉ボタンでピントを合わせることもできます。
- 動画撮影中にピント合わせを行うときは、〈AF-ON〉ボタンを押してください。シャッターボタンでピント合わせはできません。
- 音声は、カメラに内蔵されたマイク（p.204）でモノラル録音されます。
- 外部マイクは、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のステレオマイクであれば、ほとんどが使用できます。外部マイク入力端子（p.20）に外部マイクを接続すると、外部マイクが優先されます。

動画撮影時共通事項

- リモートコントローラー RC-6（別売／p.167）を使用すると、ドライブモードが〈i〉と〈i2〉のときに、動画撮影の開始／停止を行うことができます。撮影タイミングスイッチを〈2〉（2秒後撮影）の位置にして、送信ボタンを押します。〈●〉（すぐに撮影）の位置のときは、静止画撮影になります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6で動画撮影できる時間は、常温（＋23℃）：合計約1時間35分、低温（0℃）：合計約1時間25分です。
- 2011 年下期以降に発売された、パワーフォーカス機能を備えた（超）望遠レンズ使用時は、動画撮影時にパワーフォーカスを行うことができます。

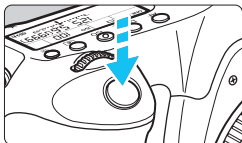
ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果を映像で確認できる機能です。

動画撮影時に映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

動画のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどの全設定が反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 露出
- 被写界深度
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 色収差補正
- 高輝度側・階調優先

静止画を撮影する

シャッターボタンを全押しすると、動画撮影中でも静止画を撮影することができます。

動画時の静止画撮影について

- 動画撮影中に静止画撮影を行うと、動画の中に静止状態の映像が約 1 秒間記録されます。
- 静止画がカードに記録され、ライブビュー映像が表示されると自動的に動画撮影が再開します。
- カードには、動画ファイルと静止画ファイルが別々に記録されます。
- 静止画撮影特有の機能は下記のようになります。その他の機能は動画撮影と同じです。

機能	設定内容
記録画質	［**1：記録画質**］設定のとおり 動画記録サイズ［**1920×1080**］［**1280×720**］設定時は16：9、［**640×480**］設定時は4：3のアスペクト比で撮影
ISO感度*	・自動露出撮影時：100～12800 ・マニュアル露出撮影時：209ページ『マニュアル露出撮影時のISO感度について』参照
露出値	・自動露出撮影時：自動設定されたシャッター速度、絞り数値 ・マニュアル露出撮影時：手動設定したシャッター速度、絞り数値

* 高輝度側・階調優先設定時は、ISO200～となる

- AEB撮影はできません。
- 外部ストロボを使用しても発光しません。
- 動画撮影中に静止画を連続撮影することができますが、連続撮影中は映像が表示されません。なお、静止画の記録画質や、連続撮影する枚数、カードの性能などにより、動画撮影が自動的に停止することがあります。

- 動画撮影中に静止画を連続撮影するときは、高速タイプのカードの使用をおすすめします。また、静止画の記録画質を低くしたり、連続撮影する枚数を少なくすることをおすすめします。
- すべてのドライブモードで撮影できます。
- セルフタイマーは動画撮影開始前に有効です。動画撮影中は1枚撮影に切り換わります。

撮影機能の設定

Q クイック設定

応用撮影ゾーンでは、**AF方式**／**ドライブモード**／**記録画質**／**動画記録サイズ**／録音レベル（［録音：マニュアル］設定時）／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザ／**ビデオスナップ**の設定を行うことができます。

かんたん撮影ゾーンでは、太字の項目の設定を行うことができます。

1 〈Q〉ボタンを押す

➡ 設定できる項目が表示されます。

2 機能を選んで設定する

- 〈▲▼〉を押して機能を選びます。

➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.63）が画面に表示されます。

- 〈◀▶〉を押して設定します。
- 記録画質のRAW画質設定、ピクチャースタイルの詳細設定を行うときは、〈INFO.〉ボタンを押します。

3 設定を終了する

- 〈SET〉を押すと設定され、動画撮影に戻ります。

AF／DRIVE／ISO／⊡設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈AF〉／〈DRIVE〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈⌂〉または〈◎〉を回して撮影機能の設定を行うことができます。

クイックAF設定時に〈⊡〉ボタンを押すと、AFフレームを選択することができます。操作方法は、ファインダー撮影時と同じです。マニュアル露出撮影時（p.208）に〈ISO〉ボタンを押すと、ISO感度を設定することができます。

MENU 動画記録画質の設定

［2：**動画記録サイズ**］で、動画の画像サイズ、フレームレート（1秒間に何コマ記録するか）、圧縮方式を設定することができます。なお、フレームレートは、［3：**ビデオ出力方式**］の設定により、自動的に切り換わります。

● **画像サイズ**

1920 ［1920×1080］：フルハイビジョン（Full HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

1280 ［1280×720］：ハイビジョン（HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

640 ［640×480］：標準画質で記録します。画面の横縦比は4：3です。

● **フレームレート**（fps：frame per second）

30/60：テレビの映像方式が「NTSC」の地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）で設定します。

25/50：テレビの映像方式が「PAL」の地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）で設定します。

24：主に映画関連で使用します。

● **圧縮方式**

IPB IPB：複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。ALL-Iよりもファイルサイズが小さくなるため、撮影できる時間が長くなります。

ALL-I ALL-I（I-only）：1フレーム単位で圧縮して記録します。IPBよりもファイルサイズが大きくなりますが、撮影後の編集作業に適しています。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

動画記録サイズ			総記録時間（約）			ファイルサイズ（約）
			4GBカード	8GBカード	16GBカード	
1920	30 25 24	IPB	16分	32分	1時間4分	235MB/分
	30 25 24	ALL-I	5分	11分	22分	685MB/分
1280	60 50	IPB	18分	37分	1時間14分	205MB/分
	60 50	ALL-I	6分	12分	25分	610MB/分
640	30 25	IPB	48分	1時間37分	3時間14分	78MB/分

● ファイルサイズが4GBを超える動画撮影について

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

動画撮影を開始してから、ファイルサイズが4GBに達する約30秒前になると、動画撮影画面に表示されている撮影経過時間、またはタイムコードが点滅します。そのまま撮影を継続し、4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成され、点灯表示に戻ります。

なお、再生時は、動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

● 撮影時間の制限について

1回に撮影できる時間は、最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

カメラ内部の温度上昇により、上記の表に示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります（p.233）。

Full HD 1080について

Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

MENU 録音の設定

内蔵のモノラルマイク、または市販のステレオマイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。

［2：**録音**］で録音に関する設定を行います。

録音／録音レベル

［**オート**］　：録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

［**マニュアル**］：上級者向けの機能です。録音レベルを64段階で任意に調整することができます。
［**録音レベル**］を選び、レベルメーターを見ながら〈◎〉を回すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（－12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能（3秒間）を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

［**しない**］　：録音は行われません。

ウィンドカット/アッテネーター

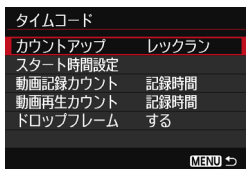
［**ウィンドカット**］：［**入**］に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減することができます。内蔵マイク使用時のみ機能します。
ただし、［**入**］に設定すると、低い音の一部も低減されるため、風の影響を受けない場所では［**切**］に設定することをおすすめします。［**入**］のときよりも自然な音で録音されます。

［**アッテネーター**］：［**録音**］を［**オート**］または［**マニュアル**］に設定して撮影しても、大音響の環境では音割れすることがあります。そのときは［**入**］に設定することをおすすめします。

マイクについて

通常は内蔵マイクでモノラル録音されます。外部マイク入力端子（p.20）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のステレオマイクを接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます。

- かんたん撮影ゾーンのときは、［**録音**］：［**する**／**しない**］になります。なお、［**する**］に設定したときは、録音レベルが自動調整され（［**オート**］と同じ）、ウィンドカットが行われます。
- L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
- L/Rともに、サンプリング周波数48kHz／16bitで記録されます。

MENU タイムコードの設定

タイムコードとは、動画撮影時に映像・音声に同期して自動的に記録される時間軸のことです。「時／分／秒／フレーム」の単位で常時記録されます。主に撮影した動画を編集するときに利用します。

［2：タイムコード］でタイムコードの設定を行います。

カウントアップ

［レックラン］　：動画撮影しているときだけ、タイムコードのカウントが進みます。

［フリーラン］　：動画撮影をしていないときも、タイムコードのカウントが進みます。

スタート時間設定

タイムコードの起点（スタート時間）を設定することができます。

［手動入力設定］　：「時：分：秒：フレーム」を任意に設定することができます。

［リセット］　：［手動入力設定］［カメラ時間に設定］で設定した時間がリセットされ、「00：00：00：00」になります。

［カメラ時間に設定］：カメラに設定されている「時：分：秒」に設定されます。「フレーム」は「00」に設定されます。

動画記録カウント

動画撮影画面に表示する内容を選ぶことができます。

［記録時間］　：動画撮影時に撮影開始からの経過時間が表示されます。

［タイムコード］：動画撮影時にタイムコードが表示されます。

- 動画撮影中に静止画を撮影すると、実時間とタイムコードに差が生じます。
- ［**フリーラン**］設定時に時刻/エリア/サマータイムの設定を変更すると（p.36）、タイムコードに影響が生じます。
- タイムコードは、ビデオスナップ撮影時には記録されません。

タイムコードは、［**動画記録カウント**］の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます。

動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

［**記録時間**］　：動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。
［**タイムコード**］：動画再生時にタイムコードが表示されます。

［タイムコード］設定時

動画撮影時

動画再生時

- ［**2：タイムコード**］の［**動画再生カウント**］と［**3：動画再生カウント**］は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

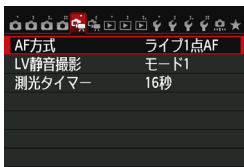
ドロップフレーム

フレームレートが、30（29.97fps）、60（59.94fps）のときに、タイムコードでフレームをカウントすると、実際の時間とタイムコードで差が生じます。この差を自動的に補正することができます。この機能をドロップフレームといいます。

［**する**］　：タイムコードを間引く補正が自動的に行われます。
［**しない**］：補正は行われません。

フレームレートが24（23.976fps）のとき、または［**ビデオ出力方式**］が［**PAL**］に設定されているとき（50/25設定時）は、ドロップフレームは行われません（［**ドロップフレーム**］の項目も表示されません）。

MENU メニュー機能の設定

[動画1] メニュー

ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈動画〉にすると、メニューの［動画1］［動画2］タブが、動画撮影特有の項目として表示されます。各項目の内容は下記のとおりです。

● AF方式

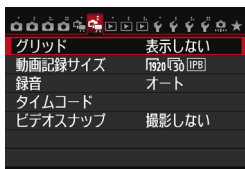
192～198ページで説明しているAF方式と同じです。［**ライブ1点AF**］［**顔ライブAF**］［**クイックAF**］が選択できます。なお、動いているものにピントを合わせ続けることはできません。

なお、AF 方式を［**クイックAF**］に設定していても、動画撮影中は［**ライブ1点AF**］に切り換わります。

● LV静音撮影 応用

静止画撮影用の機能です。詳しくは、190ページを参照してください。

● 測光タイマー 応用

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

[2] メニュー

● **グリッド**

[**9分割** ⧺] または [**24分割** ⧻] で格子線を表示して、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。また、[**9分割+対角**] では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図で撮影することができます。

● **動画記録サイズ**

動画記録画質（画像サイズ、フレームレート、圧縮方式）を設定することができます。詳しくは、216ページを参照してください。

● **録音**

録音に関する設定を行うことができます。詳しくは、218ページを参照してください。

● **タイムコード**

タイムコードを設定することができます。詳しくは、220ページを参照してください。

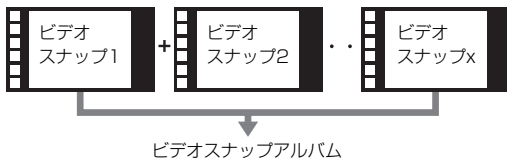
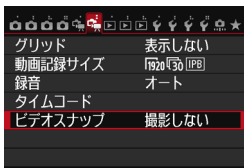
● **ビデオスナップ**

ビデオスナップを撮影することができます。詳しくは、225ページを参照してください。

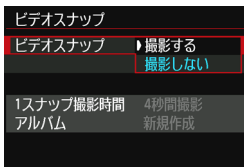
MENU ビデオスナップを撮る

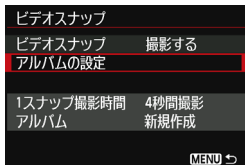
ビデオスナップで、ショートムービーを簡単に作ることができます。

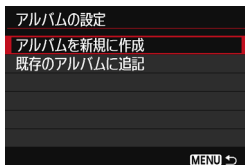
1回に撮影する短い動画（1シーン：約2/4/8秒）を「ビデオスナップ」（以下、スナップ）と言います。このスナップの集合体がビデオスナップアルバム（以下、アルバム）で、1つの動画ファイルとしてカードに記録されます。撮影ごとに、シーンやアングルを変えると、テンポの良い映像になります。

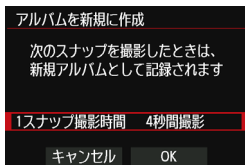
できあがったアルバムは、BGM（音楽）と一緒に再生することもできます（p.230、254）。

1スナップの撮影時間を決める

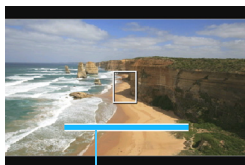
1 [ビデオスナップ] を選ぶ

- [2] タブの [**ビデオスナップ**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [撮影する] を選ぶ

- [**撮影する**] を選び〈SET〉を押します。

3 [アルバムの設定] を選ぶ

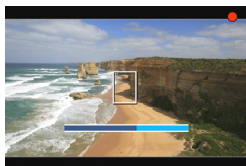
- [アルバムの設定] を選び〈SET〉を押します。
- 既存のアルバムに続けて撮影するときは、『既存のアルバムに追記』に進みます(p.229)。

4 [アルバムを新規に作成] を選ぶ

- [アルバムを新規に作成] を選び〈SET〉を押します。

5 1スナップの撮影時間を選ぶ

- 〈SET〉を押して、〈▲▼〉で1スナップの撮影時間を選び、〈SET〉を押します。

撮影時間

6 [OK] を選ぶ

- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了すると、動画撮影画面に戻ります。このとき、撮影時間を示す青いバーが表示されます。
- 『スナップを撮影してアルバムを作る』に進みます(p.227)。

スナップを撮影してアルバムを作る

7 最初のスナップを撮影する

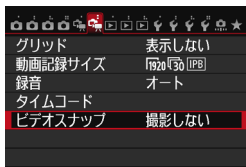
- 〈START/STOP〉ボタンを押して撮影します。
- ➡ 撮影時間を示す青いバーが減っていき、設定時間経過後、自動的に撮影が終了します。
- ➡ 液晶モニターが消灯してアクセスランプが点滅したあと、確認画面が表示されます（p.228）。

8 アルバムとして保存する

- 〈◀▶〉で［**アルバムとして保存**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ アルバムの先頭スナップとして保存されます。

9 続けてスナップを撮影する

- 手順7と同じ操作で、次のスナップを撮影します。
- 〈◀▶〉で［**アルバムに追加する**］を選び、〈SET〉を押します。
- 別のアルバムを作るときは、［**新しいアルバムとして保存**］を選び、［OK］を選びます。

グリッド	表示しない
動画記録サイズ	1920 30 IPB
録音	オート
タイムコード	
ビデオスナップ	撮影しない

10 ビデオスナップ撮影を終了する

- ［**ビデオスナップ**］を［**撮影しない**］に設定します。**通常の動画を撮影するときは、［撮影しない］に設定してください。**
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了すると、通常の動画撮影画面に戻ります。

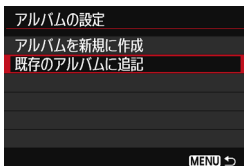
手順8、手順9の画面について

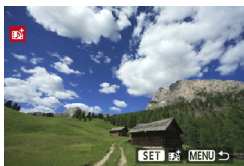
項目	内容
アルバムとして保存（手順8）	アルバムの最初のスナップとして保存されます。
アルバムに追加する（手順9）	いま記録したスナップを、直前に記録したアルバムに追加します。
新しいアルバムとして保存（手順9）	新しいアルバムを作成し、最初のスナップとして保存されます。直前に記録したアルバムとは別ファイルになります。
撮影したスナップを再生する（手順8、手順9）	いま記録したスナップを再生します。再生操作の内容は、下記の表を参照してください。
アルバムとして保存しない（手順8） **アルバムに追加しないで消去**（手順9）	いま記録したスナップをアルバムに保存しないで消去するときは、［OK］を選びます。

［撮影したスナップを再生する］の再生操作

項目	再生内容
▶ **再生**	〈SET〉を押すたびに、いま記録したスナップの再生／停止を繰り返します。
⏮ **先頭フレーム**	アルバムの最初のスナップの先頭画面を表示します。
⏴ **前スキップ***	〈SET〉を押すたびに、数秒前の画面に戻します。
◀II **フレーム戻し**	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると、早戻しします。
II▶ **フレーム送り**	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると、早送りします。
⏵ **次スキップ***	〈SET〉を押すたびに、数秒後の画面に送ります。
⏭ **最終フレーム**	アルバムの最後のスナップの最終画面を表示します。
	再生位置
mm' ss"	再生時間（mm'：分、SS"：秒）
音量	〈ダイヤル〉を回すと、内蔵スピーカー（p.253）の音量を調整することができます。
MENU ⮌	〈MENU〉ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

* ［**前スキップ/次スキップ**］は、撮影時に設定した［**ビデオスナップ**］の時間（約2/4/8秒間撮影）分、画面を戻したり、送ったりします。

既存のアルバムに追記する

1 ［既存のアルバムに追記］を選ぶ

- 226ページの手順4で［**既存のアルバムに追記**］を選び、〈SET〉を押します。

2 既存のアルバムを選ぶ

- 〈◎〉を回して既存のアルバムを選び、〈SET〉を押します。
- メッセージを確認して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 一部の設定が、既存のアルバムの設定に変更されます。
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了すると、動画撮影画面に戻ります。

3 スナップを撮影する

- 『スナップを撮影してアルバムを作る』に進みます（p.227）。

他のカメラで撮影したアルバムは選択できません。

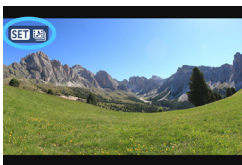
ビデオスナップ撮影全般に関する注意事項

- 1つのアルバムには、同じ撮影時間（約2/4/8秒のいずれか）のスナップしか追加できません。
- スナップ撮影の途中で、以下の操作を行うと、次に撮影するスナップから新規のアルバムになりますので、ご注意ください。
  - ・［**動画記録サイズ**］の変更（p.216）
  - ・［**録音**］の設定を、［**オート/マニュアル**］から［**しない**］、または［**しない**］から［**オート/マニュアル**］に変更（p.218）
  - ・ファームウェアの変更
- スナップ撮影中に静止画は撮影できません。
- 1スナップの撮影時間は目安です。フレームレートとの関係上、再生時に表示される撮影時間と若干ずれが生じる場合があります。

アルバムを再生する

できあがったアルバムの再生方法は、通常の動画再生と同じです（p.253）。

1 動画を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。

2 アルバムを選ぶ

- 〈◎〉を回してアルバムを選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に［SET］が表示されている画像がスナップ撮影した動画です。

3 再生する

- 〈SET〉を押します。
- 表示された動画再生パネルの［▶］（再生）を選び、〈SET〉を押します。

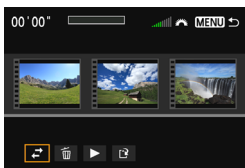
BGMについて

- メモリーカードに取り込んだ音楽は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。十分ご注意ください。
- カメラでアルバムや通常の動画を再生するときや、スライドショーで再生するときに、BGMと一緒に再生することができます（p.254、257）。あらかじめ付属ソフトウェアのEOS Utilityを使って、BGMをカードにコピーしておく必要があります。カードへのコピー方法は、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

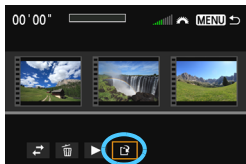
アルバムを編集する

撮影後に、アルバム内のスナップの順序の入れ替えや、削除、再生をすることができます。

1 再生パネルの［✂］（編集）を選ぶ

➡ 編集画面が表示されます。

2 編集内容を選ぶ

- 〈◀▶〉で編集項目を選び〈SET〉を押します。

項目	内容
⇄ スナップ移動	〈◀▶〉で移動したいスナップを選び、〈SET〉を押します。 〈◀▶〉で移動し、〈SET〉を押します。
🗑 スナップ削除	〈◀▶〉で削除したいスナップを選び、〈SET〉を押します。選択したスナップに、［🗑］が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、選択が解除され［🗑］が消えます。
▶ スナップ再生	〈◀▶〉で再生したいスナップを選び、〈SET〉を押します。

3 保存する

- 〈MENU〉ボタンを押して、画面下の編集パネルに戻ります。
- 〈◀▶〉で［］（保存）を選んで〈SET〉を押します。

➡ 保存画面が表示されます。

- 別画像として保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選択して、〈SET〉を押します。

- カードの空き容量が少ないときは、［**新規保存**］は選択できません。
- 電池の残量が少なくなると、アルバムの編集はできません。フル充電した電池を使用してください。

アルバムに関連する付属ソフトウェアの紹介

- **EOS Video Snapshot Task**：アルバムの編集ができます。ImageBrowser EXの追加機能で、インターネットを利用したオートアップデート機能で自動的にインストールされます。

動画撮影全般に関する注意事項

カメラ内部の温度上昇にともなう、白い〈🌡〉と赤い〈🌡〉表示について

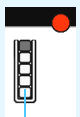
- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈🌡〉または赤い〈🌡〉が表示されます。
- 白い〈🌡〉は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、静止画撮影を一時休止することをおすすめします。なお、動画の画質はほとんど低下しませんので、動画撮影は続けられます。
- 赤い〈🌡〉は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、〈🌡〉または〈🌡〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなったり、撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、市販の外部マイクを使用すると、これらの音を録音しないように（低減）することができます。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- 自動露出で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 暗い場所では映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。

動画撮影全般に関する注意事項

記録と画質について

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
  書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。

インジケーター

動画撮影時の静止画撮影について

- 静止画撮影の画質については、201 ページの『画質について』を参照してください。

再生とテレビ接続について

- カメラとテレビを接続（p.261、264）して動画撮影を行うと、撮影中テレビから音は出ません。ただし、音声は正常に記録されます。

レンズについて

- 2011年下期 以降に発売されたフォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。

9

画像の再生

この章では、撮影した画像や動画をカメラで再生・消去する方法や、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明しています。

他の機器で撮影・記録された画像について

他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

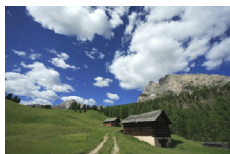
▶ 画像を再生する

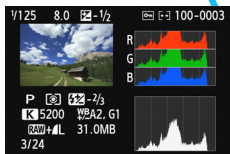
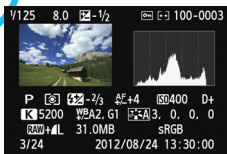
1枚表示

1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

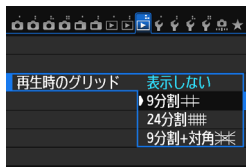
2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

情報表示なし

簡易情報表示

ヒストグラム表示

撮影情報表示

3 再生を終了する

- 〈[▶]〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

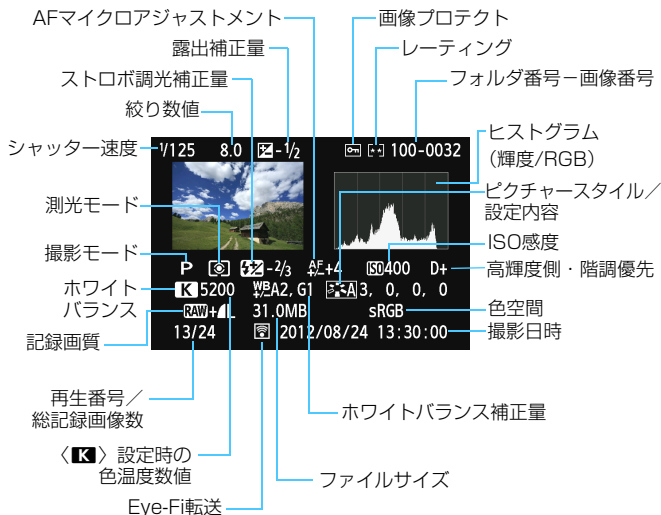
MENU グリッド表示について

1枚表示のときに、再生画像に重ねて格子線を表示することができます。

[[▶]3:**再生時のグリッド**] で [**9分割**] [**24分割**] [**9分割+対角**] から選ぶことができます。

撮影画像の水平、垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

動画再生時にグリッドは表示されません。

INFO.：撮影情報の内容

応用撮影ゾーンで撮影した画像の例

* RAW+JPEGの設定で撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。
* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、〈 〉が表示されます。
* HDRモードで撮影した画像は、〈**HDR**〉とダイナミックレンジの調整幅が表示されます。
* 多重露出で撮影した画像は、〈 〉が表示されます。
* 動画撮影時に撮影した静止画のときは、〈 〉が表示されます。
* RAW現像処理、またはリサイズ処理を行って保存したJPEG画像のときは、〈 〉が表示されます。

かんたん撮影ゾーンで撮影した画像の例

* かんたん撮影ゾーンで撮影した画像は、撮影モードによって表示される内容が異なります。
* 〈CA〉モードで撮影した画像は、［**背景のぼかし具合**］が表示されます。

動画の例

* シャッター速度、絞り数値、ISO感度（任意設定時）は、マニュアル露出で撮影したときに表示されます。
* ビデオスナップ撮影した動画は、〈 〉が表示されます。

● ハイライト警告表示について

［▶3：**ハイライト警告表示**］を［**する**］に設定すると、露出オーバーで白とびした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

● AFフレーム表示について

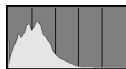
［▶3：**AFフレーム表示**］を［**する**］に設定すると、ピント合わせを行ったAFフレームが赤い枠で表示されます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数同時に表示されることがあります。

● ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、［▶3：**ヒストグラム**］で行います。

［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例

暗い成分が多い

普通の明るさ

明るい成分が多い

[RGB] 表示

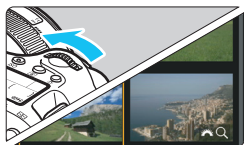
　このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

▶ 見たい画像を素早く探す

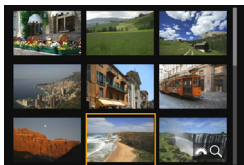
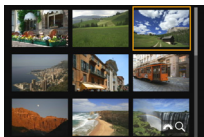
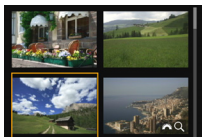
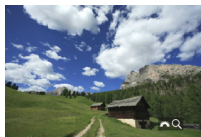
⊞ 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚、または9枚の画像を表示することができます。

1 〈Q〉ボタンを押す

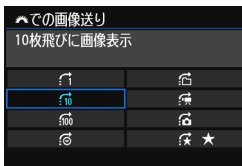
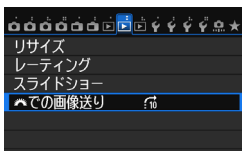
- 画像を再生した状態で、〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 画面右下に［⚙Q］が表示されます。

2 インデックス表示にする

- 〈⚙〉を左に回していきます。
- ➡ 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
- 〈⚙〉をさらに左に回すと、9枚表示になります。〈⚙〉を右に回すと、9枚→4枚→1枚表示になります。

 ➡ ➡

3 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。〈▲▼〉または〈◀▶〉を押して選ぶこともできます。
- 〈Q〉ボタンを押して［⚙Q］の表示を消した状態で〈⚙〉を回すと、1画面分先、または前の画像が表示されます。
- インデックス表示の状態で〈SET〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

1枚表示のときに〈〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示することができます。

での画像送り
10枚飛びに画像表示

1 ［での画像送り］を選ぶ

- ［2］タブの［での画像送り］を選び、〈SET〉を押します。

2 ジャンプ方法を選ぶ

- 〈〉を回して、ジャンプ方法を選び、〈SET〉を押します。

  ：1枚ずつ画像表示
  ：10枚飛びに画像表示
  ：100枚飛びに画像表示
  ：撮影日を切り換えて画像を表示
  ：フォルダを切り換えて画像を表示
  ：動画だけを表示
  ：静止画だけを表示
  ：指定したレーティング（p.247）の画像を表示
  〈〉を回して選びます。

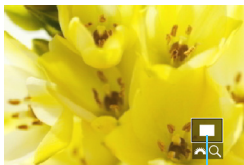
ジャンプ方法
再生位置

3 画像送りをする

- 〈〉ボタンを押して画像を再生します。
- 1枚表示の状態で〈〉を回します。

- ［撮影日］は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- ［フォルダ］は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- ［動画］［静止画］は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。
- ［レーティング］で対象となる画像がないときは、〈〉を回しても画像送りは行われません。

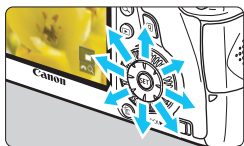
🔍 拡大して見る

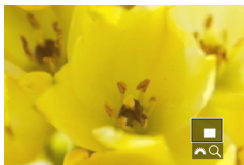
撮影した画像を、約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。

拡大表示位置

1 画像を拡大する

- 画像再生中（1枚表示）、撮影直後の画像表示中、撮影準備状態から拡大することができます。
- 〈🔍〉ボタンを押します。

➡ 拡大表示になります。画面右下に拡大位置と［ 🔍］が表示されます。

- 〈 〉を右に回すごとに拡大します。約10倍まで拡大することができます。
- 〈 〉を左に回すごとに縮小します。さらに回していくと、インデックス表示（p.242）になります。

2 表示位置を移動する

- 〈 〉を操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈🔍〉ボタンまたは〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚表示になります。

- 拡大表示中に〈 〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります。
- 撮影直後に表示された画像は、インデックス表示できません。
- 動画は拡大表示できません。

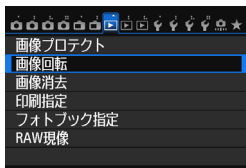
MENU 拡大開始倍率／拡大開始位置を設定する

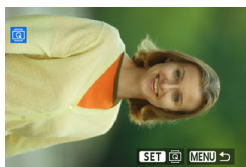
［▶3］タブの［**拡大倍率設定（約）**］を選ぶと、拡大表示を開始したときの、表示倍率、拡大位置を設定することができます。

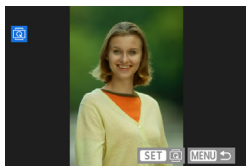
- **1倍（拡大なし）**
  拡大表示は行われません。1枚表示の状態で拡大表示が始まります。
- **2倍／4倍／8倍／10倍（中央から）**
  選択した倍率で画面中央から拡大表示が始まります。
- **等倍（任意選択合焦点から）**
  記録画像の画素を約100%で表示します。合焦したAFフレームの位置から拡大表示が始まります。なお、手動ピント合わせで撮影した画像は、画面中央から拡大表示が始まります。
- **前回と同じ倍率（中央から）**
  前回、〈▶〉〈Q〉ボタンを押して拡大表示を終了したときと同じ倍率で、画面中央から拡大表示が始まります。

［ライブ1点AF］［ライブAF］（p.192）で撮影した画像は、［**等倍**］設定時も画面中央から拡大表示が始まります。

回転させる

画像が表示される向きを変えたいときに、この方法で回転させせます。

1 [画像回転] を選ぶ

- [▶1] タブの [**画像回転**] を選び、〈SET〉を押します。

2 画像を選ぶ

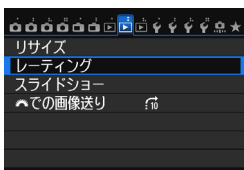
- 〈◎〉を回して回転する画像を選びます。
- インデックス表示 (p.242) にして選ぶこともできます。

3 画像を回転する

- 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転 (90° →270° →0°) します。
- ほかに回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

- [**1:縦位置画像回転表示**] を [**する**] (p.270) に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、[**1:縦位置画像回転表示**] を [**する**] に設定します。
- 動画は回転できません。

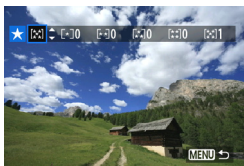
MENU お気に入りのレベルを設定する

撮影した画像（静止画/動画）に、5種類のお気に入りマーク（[*]/[**]/[***]/[****]/[*****]）を付加することができます。この機能をレーティングといいます。

* レーティングは、「評価」や「等級」などの意味です。

1 ［レーティング］を選ぶ

- ［▶2］タブの［**レーティング**］を選び、〈SET〉を押します。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して、お気に入りマークを付ける画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して、〈⚙〉を左に回していくと、3画像表示にして選ぶことができます。〈⚙〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。

3 お気に入り情報を付ける

- 〈▲▼〉を押して、お気に入りマークを選びます。

⇒ お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。

- 他にお気に入りを設定する画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

お気に入りマークの横にある数値は、3桁（999枚）までしか表示されません。1000枚を超えると、[###] と表示されます。

お気に入り情報の利用方法

- [▶2：☆での画像送り] で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。
- [▶2：スライドショー] で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを再生することができます。
- 付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.392）で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを選択することができます（静止画のみ）。
- Windows 7、Windows Vistaでは、ファイルの詳細表示や、標準装備された画像表示機能で再生したときに、「評価」という項目でお気に入りマークを確認することができます（静止画のみ）。

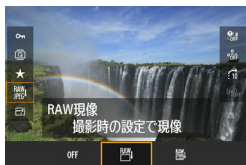
Q 再生時のクイック設定

再生時に〈Q〉ボタンを押すと、再生しながら［**〇ｰ：画像プロテクト**／
回：画像回転／**★：レーティング**／RAW JPEG：RAW現象（RAW画像のみ）／
リサイズ（JPEG画像のみ）／**ハイライト警告表示**／**AFフレーム表示**／**：での画像送り**／((ψ))：Wi-Fi機能*］の設定を行うことができます。

なお、動画のときは、太字の項目のみ設定できます。

* ［ψ3］タブの［Wi-Fi］が［使わない］に設定されているときは選択できません。

1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ クイック設定の項目が表示されます。

2 項目を選んで設定する

- 〈▲▼〉を押して、項目を選びます。
- ➡ 選んだ項目と設定内容が、画面下側に表示されます。
- 〈〉または〈〉を回して設定を変更します。
- RAW現像、リサイズ、Wi-Fi機能は、さらに〈SET〉を押して設定を行います。詳しくは、RAW現像（p.272）とリサイズ（p.277）のページを参照してください。キャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

3 設定を終了する

- 〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定が終了します。

画像回転を行うときは、[1：**縦位置画像回転表示**]を[**する**]に設定してください。[1：**縦位置画像回転表示**]が[**する**][**しない**]に設定されているときは、[**画像回転**]で選んだ内容は画像に記録されますが、カメラで回転表示は行われません。

- インデックス表示中に〈Q〉ボタンを押すと、1画面表示に切り換わり、クイック設定状態になります。再度〈Q〉ボタンを押すと、インデックス表示に戻ります。
- 他のカメラで撮影した画像は、選択できる項目が制限されることがあります。

撮った動画の楽しみ方

撮影した動画は、主に次の3つの方法で再生して楽しむことができます。

テレビに接続して再生する （p.261、264）

付属のAVケーブル、または別売のHDMIケーブルHTC-100でカメラとテレビを接続して、撮影した動画や静止画をテレビで再生することができます。

フルハイビジョン（Full HD：1920×1080）、またはハイビジョン（HD：1280×720）画質で撮影した動画は、HDMIケーブルでハイビジョン対応のテレビに接続すると、より高画質な映像を楽しむことができます。

- ハードディスクレコーダーは、HDMI 入力端子を備えていないため、HDMIケーブルでカメラとレコーダーを接続することはできません。
- カメラとハードディスクレコーダーをケーブルで接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。
- MOV形式の動画ファイルの再生に対応していない機器で、動画を再生することはできません。

カメラの液晶モニターで再生する （p.253～260）

カメラの液晶モニターで動画を再生することができます。また、動画の前後部分をカット（簡易編集）したり、カードに記録されている静止画と動画を、スライドショーで自動再生することもできます。

パソコンで編集した動画をカードに書き戻して、カメラで再生することはできません。ただし、EOS Video Snapshot Task（p.232）で編集したビデオスナップアルバムは、カメラで再生することが可能です。

パソコンで再生・編集する

（p.392）

カードに記録されている動画ファイルをパソコンに取り込んで、付属ソフトウェアのImageBrowser EXで再生することができます。

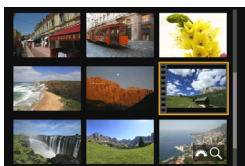
- 撮影した動画をパソコンで滑らかに再生するには、高性能なパソコンが必要です。動作環境については、ImageBrowser EXガイド（PDF）を参照してください。
- 市販のソフトウェアで再生・編集するときは、MOV形式の動画に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

動画を再生する

1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。

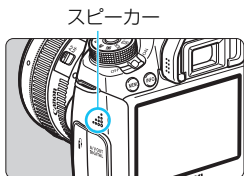
2 動画を選ぶ

- 〈◎〉を回して再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈SET 動画〉が表示されている画像が動画です。ビデオスナップで撮影した動画には〈SET 🎞〉が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、撮影情報表示を切り換えることができます（p.238）。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉を押して1枚表示にします。**

3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す

➡ 画面の下に動画再生パネルが表示されます。

スピーカー

4 動画を再生する

- ［▶］（再生）を選び〈SET〉を押します。
➡ 動画再生が始まります。
- 再生中に〈SET〉を押すと、再生が一時停止します。
- 〈ダイヤル〉を回すと、再生中でも音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

他のカメラで撮影した動画は、このカメラで再生できないことがあります。

動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀▶〉を押すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
◀II フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると、早戻しします。
II▶ フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると、早送りします。
⏭ 最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
♫ BGM選択*	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます（p.260）。
✂ 編集	編集画面を表示します（p.255）。
	再生位置
mm' ss"	再生時間（mm'：分、ss"：秒／［**動画再生カウント：記録時間**］設定時）
hh:mm:ss:ff	タイムコード（hh：時、mm：分、ss：秒、ff：フレーム／［**動画再生カウント：タイムコード**］設定時）
音量	〈ダイヤル〉を回すと、内蔵スピーカー（p.253）の音量を調整することができます。
MENU ⮌	〈MENU〉ボタンを押すと、1枚表示の状態に戻ります。

* BGMを設定すると、動画に録音されている音声は再生されません。

- フル充電のバッテリーパック LP-E6で連続再生できる時間は、常温（+23℃）で約4時間15分です。
- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは（p.261、264）、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈ダイヤル〉を回しても音量は変わりません）。
- 動画撮影中に静止画を撮影した場面では、約1秒間、静止した映像が表示されます。

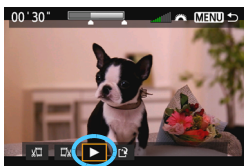
✂ 動画の前後部分をカットする

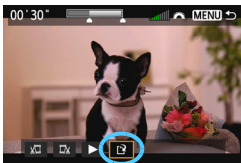
撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。

1 動画再生画面で［✂］を選ぶ

➡ 画面の下に動画編集パネルが表示されます。

2 削除する範囲を指定する

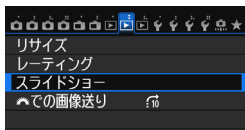
- ［前部を削除アイコン］（前部を削除）か、［後部を削除アイコン］（後部を削除）を選んで〈SET〉を押します。
- 〈◄►〉押し（早送り）、または〈ダイヤル〉を回して（フレーム送り）削除する範囲を指定します。画面上部のバー表示で、削除する方向（オレンジ色の指標）と削除する範囲が確認できます。
- 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。

3 編集内容を確認する

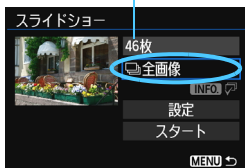
- ［▶］を選んで〈SET〉を押すと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順2の操作を行います。
- 編集を中止するときは、〈MENU〉ボタンを押し、確認画面で［OK］を選びます。

4 保存する

- ［ ］を選んで〈SET〉を押します。
- ➡ 保存画面が表示されます。
- 別画像として保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選択して、〈SET〉を押します。
- 確認画面で［**OK**］を選び〈SET〉を押すと、編集した動画が保存され、動画再生画面に戻ります。

- 約 1 秒単位（画面上部の［✂］が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- カードの空き容量が少ないときは、［**新規保存**］は選択できません。
- 電池の残量が少なくなると、動画の編集はできません。フル充電した電池を使用してください。

MENU 自動再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を自動的に連続再生します。

1 ［スライドショー］を選ぶ

- ［▶2］タブの［**スライドショー**］を選び、〈SET〉を押します。

2 再生する画像を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して図に示した項目を選び、〈SET〉を押します。

［全画像/動画/静止画］

- 〈▲▼〉を押して［**全画像/動画/静止画**］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。

［日付/フォルダ/レーティング］

- 〈▲▼〉を押して［**日付/フォルダ/★レーティング**］のいずれかを選びます。
- 〈INFO.〉が明るく表示された状態で、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- 〈▲▼〉を押して内容を選び、〈SET〉を押します。

［日付］

［フォルダ］

［レーティング］

項目	再生内容
全画像	カード内のすべての静止画、動画を再生します。
日付	選んだ撮影日の静止画、動画を再生します。
フォルダ	選んだフォルダ内にある静止画、動画を再生します。
動画	カード内の動画だけを再生します。
静止画	カード内の静止画だけを再生します。
★レーティング	選んだお気に入りマークが付いた静止画、動画を再生します。

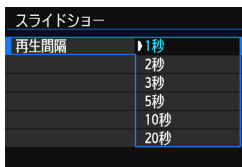
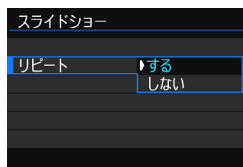
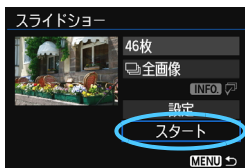
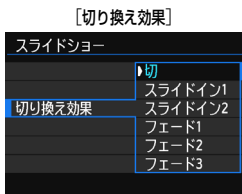
3 ［設定］の内容を設定する

- 〈▲▼〉を押して［**設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- 静止画の［**再生間隔**］と［**リピート**］（繰り返し再生）、［**切り換え効果**］（画像を切り換える際の演出効果）、［**BGM選択**］を設定します。
- BGM選択の設定方法は、260ページを参照してください。
- 設定が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押します。

［**再生間隔**］

スライドショー
再生間隔 1秒
2秒
3秒
5秒
10秒
20秒

［切り換え効果］

［BGM選択］

4 スライドショーを開始する

- 〈▲▼〉を押して［**スタート**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡［**画像読み込み中...**］が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5 スライドショーを終了する

- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

- 一時停止したいときは、〈SET〉を押します。一時停止中は画像の左上に［**II**］が表示されます。再度〈SET〉を押すと、再開します。
- 自動再生中に〈**INFO.**〉ボタンを押すと、静止画の表示形式を切り換えることができます（p.236）。
- 動画再生中に〈メイン電子ダイヤル〉を回すと、音量を調節することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈サブ電子ダイヤル〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフ機能は働きません。
- 画像により表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、261ページを参照してください。

BGMを選択する

1 ［BGM選択］を選ぶ

- ［BGM選択］で［する］を選び、〈SET〉を押します。

2 音楽を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して音楽を選び、〈SET〉を押します。音楽を複数選ぶこともできます。

3 試聴する

- 〈INFO.〉ボタンを押すと、試聴ができます。
- 〈▲▼〉を押すと、曲を切り換えられます。再度〈INFO.〉ボタンを押すと、停止します。
- 〈◎〉を回すと、音量を調節することができます。
- 音楽を削除するときは、〈▲▼〉を押して音楽を選び、〈削除〉ボタンを押します。

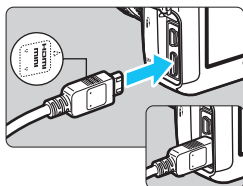
購入時、カメラでBGMの選択はできません。付属ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、BGMをカードにコピーする必要があります。詳しくは、EOS Utility使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

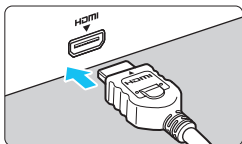
テレビで見る

撮影した静止画や動画を、テレビなどで見ることができます。

- 動画再生時の音量は、テレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。

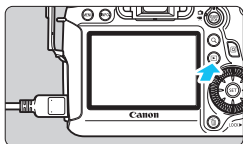
ハイビジョンテレビ（HDMI接続）で見る

別売のHDMIケーブル HTC-100が必要です。

1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈**▲HDMI MINI**〉がカメラの前面に向くようにして、〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

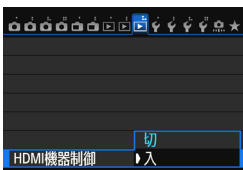
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、表示を切り換えることができます。
- 動画の再生方法は、253 ページを参照してください。

〈**HDMI OUT**〉端子と〈**A/V OUT**〉端子から、映像を同時に出力することはできません。

- カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、他の機器からの出力を入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、撮影した画像を再生できないことがあります。そのときは、付属のAVケーブルで接続してください。

HDMI CEC対応のテレビについて

HDMI機器制御機能（HDMI CEC*）対応のテレビとカメラをHDMIケーブルで接続すると、テレビのリモコンで再生操作ができます。

* HDMI規格で決められた相互機器制御機能のことです。

1 ［HDMI機器制御］を［入］にする

- ［▶3］タブの［HDMI 機器制御］を選び、〈SET〉を押します。
- ［入］を選び〈SET〉を押します。

2 テレビとカメラを接続する

- HDMIケーブルでテレビとカメラを接続します。

➡ 自動的にテレビの入力がカメラを接続したHDMI端子に切り換わります。

3 カメラの〈▶〉ボタンを押す

➡ テレビに画像が表示され、テレビのリモコンで画像が再生できるようになります。

4 画像を選ぶ

- リモコンをテレビに向けて ←/→ ボタンを押すと、画像を選ぶことができます。

静止画再生メニュー

⮌	▦	スライドショー	INFO.	画像回転

動画再生メニュー

⮌	動画再生	▦	スライドショー	INFO.

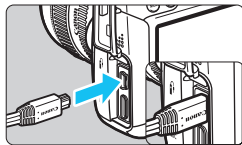
⮌ ：戻る
▦ ：9枚インデックス表示
動画再生アイコン ：動画再生
スライドショーアイコン ：スライドショー
INFO. ：撮影情報の切り換え
画像回転アイコン ：画像回転

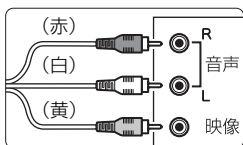
5 リモコンの決定ボタンを押す

➡ メニューが表示され、左図に示す再生を行うことができます。

- ←/→ ボタンで項目を選び、決定ボタンを押します。スライドショー選択時は、↑/↓ボタンを押して項目を選び、決定ボタンを押します。
- ［**戻る**］を選択し、決定ボタンを押すと、メニューが消え、←/→ボタンで画像が選べるようになります。

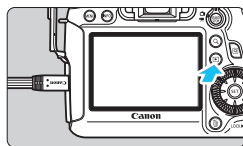
- テレビによっては、HDMI機器制御機能を有効にする必要があります。詳しくはテレビの使用説明書を参照してください。
- HDMI機器制御機能に対応したテレビでも、正しく操作できないことがあります。そのときは、［**▶3：HDMI機器制御**］を［**切**］にして、カメラ側で操作してください。

ハイビジョン非対応テレビ（AVケーブル接続）で見る

1 付属のAVケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈**Canon**〉ロゴが、カメラの背面に向くようにして、〈**A/V OUT**〉端子に差し込みます。

2 テレビにAVケーブルを接続する

- AV ケーブルを、テレビの映像入力端子と、音声入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5 〈▶〉ボタンを押す

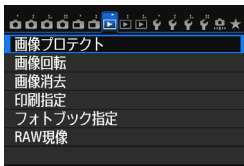
➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

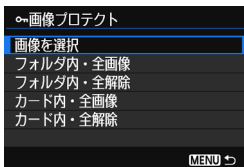
- 動画の再生方法は、253 ページを参照してください。

- 付属のAVケーブル以外は使用しないでください。画像が表示されないことがあります。
- テレビ方式と異なるビデオ出力方式が設定されていると、画像が正しく表示されません。そのときは、［**🔧3：ビデオ出力方式**］で方式を切り換えてください。

保護する（プロテクト）

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないように、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

MENU 画像を選択して1枚ずつプロテクト

1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像プロテクト**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［画像を選択］を選ぶ

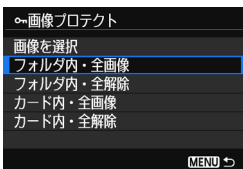
- ［**画像を選択**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

プロテクト表示

3 プロテクトをかける

- 〈◎〉を回してプロテクトをかける画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像がプロテクトされ、画面の上に〈⊶〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈⊶〉が消えます。
- 他にプロテクトをかけたい画像があるときは、手順3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。

［1：**画像プロテクト**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像にプロテクトがかかります。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

カードを初期化すると（p.53）**、プロテクトされた画像も消去されます。**

- 動画もプロテクトすることができます。
- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけてから全画像消去（p.268）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

🗑 消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.265）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。RAW+JPEGで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去

1 消去したい画像を再生する

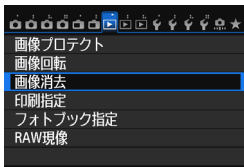
2 〈🗑〉ボタンを押す

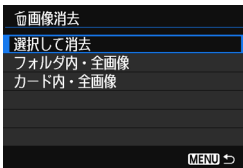
➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。

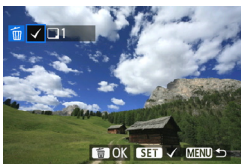
3 消去する

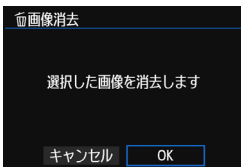
- ［**消去**］を選び〈SET〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

MENU チェック〈√〉を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

1 ［画像消去］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像消去**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［選択して消去］を選ぶ

- ［**選択して消去**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押して、〈ダイヤル〉を左に回していくと、3 画像表示になります。〈ダイヤル〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。

3 消去したい画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して消去したい画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画面の左上に〈✓〉が表示されます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

4 消去する

- 〈消去〉ボタンを押します。
- ［OK］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 選択した画像が消去されます。

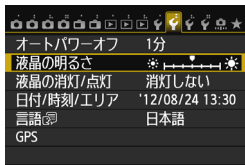
MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。［▶1：**画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

プロテクトがかけられた画像も含めてすべて消去するときは、カード初期化を行います（p.53）。

再生に関する機能の設定を変更する

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

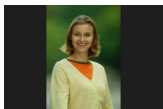
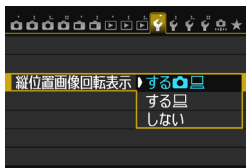
液晶モニターが見やすいように、明るさを調整することができます。

1 [液晶の明るさ] を選ぶ

- [¥2] タブの [**液晶の明るさ**] を選び、〈SET〉を押します。

2 明るさを調整する

- グレーチャートを参考にして、〈◄►〉を押して調整し、〈SET〉を押します。

撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.240）で確認することをおすすめします。

MENU 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定

縦位置で撮影した画像は、カメラで再生するときや、パソコンの画面で見るときに、被写体が横向きで表示されないように、自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。

1 ［縦位置画像回転表示］を選ぶ

- ［1］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈SET〉を押します。

2 回転表示を設定する

- 内容を選び、〈SET〉を押します。

- **する**

  カメラで再生するときとパソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき

- **する**

  パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき

- **しない**

  自動回転させたくないとき

［**しない**］で撮影した画像は、［**する**］に設定して再生しても、自動回転表示されません。

- 撮影直後に表示される画像は、自動回転表示されません。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
- パソコンの画面で自動回転しないときは、使用しているソフトウェアが回転表示に対応していません。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

10

撮影した画像を加工する

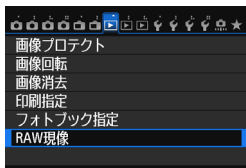
RAW画像をカメラで現像したり、JPEG画像をリサイズ（画素数を少なく）することができます。

- ページタイトル右の応用は、応用撮影ゾーン（**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**）限定の機能であることを示しています。

- 他のカメラで撮影した画像は、加工できないことがあります。
- 多重露出撮影を設定しているときや、カメラとパソコンを〈**DIGITAL**〉端子で接続しているときは、この章で説明している画像の加工はできません。

RAW→JPEG RAW画像をカメラで現像する 応用

RAW で撮影した画像をカメラで現像処理を行い、JPEG画像として保存することができます。RAW画像そのものは撮影時のまま、何も変わりませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

なお、M RAW、S RAW で撮影した画像はカメラで現像処理できません。付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.392）で現像処理を行ってください。

1 ［RAW現像］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**RAW現像**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ RAW で撮影された画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して現像処理を行う画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈◎〉を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。

3 現像処理を行う

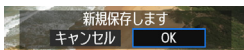
- 〈SET〉を押してしばらくすると、現像処理の項目が表示されます（p.274 ～ 276）。
- 〈▲▼〉〈◀▶〉を押して項目を選び、〈◎〉を回すと内容が切り換わります。
- ➡「明るさ補正」や「ホワイトバランス」などは、その内容が反映された画像が表示されます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、撮影時の設定に戻ります。

設定画面表示について

- 〈SET〉を押すと、設定画面が表示されます。〈◎〉を回して設定を変更します。〈SET〉を押すと設定され、手順3の画面に戻ります。

4 保存する

- ［保存アイコン］（保存）を選び、〈SET〉を押します。
- ［OK］を選び保存します。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- 他に現像処理を行いたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

拡大表示について

手順3で〈Q〉ボタンを押すと、画像を拡大することができます。拡大率は、［**RAW現像**］で設定している［**記録画質**］の画素数によって異なります。〈✣〉で拡大表示位置を変えることができます。

もう一度〈Q〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

アスペクト比を設定した画像について

ライブビュー撮影のアスペクト比で、［4：3］［16：9］［1：1］で撮影した画像は、設定したアスペクト比の画像が表示されます。また、JPEG画像も設定したアスペクト比で保存されます。

Wi-Fi機能の使用中は、RAW現像処理を行うことはできません。

現像処理の項目について

- **明るさ補正**
1/3段ステップで、±1段の明るさ補正を行うことができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

- **ホワイトバランス**（p.120）
ホワイトバランスを選ぶことができます。[K] を選んだときは、設定画面で〈〉を回して色温度数値を設定します。設定内容が反映された画像が表示されます。

- **ピクチャースタイル**（p.112）
ピクチャースタイルの種類を選ぶことができます。シャープネスなどの設定を行うときは、〈SET〉を押して設定画面を表示します。〈◀▶〉を押してスタイルを選びます。〈〉を回して調整する項目を選び、〈◀▶〉を押して内容を設定します。〈SET〉を押すと設定が保存され、手順3の画面に戻ります。設定内容が反映された画像が表示されます。

- **オートライティングオプティマイザ**（p.125）
オートライティングオプティマイザの内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

- **高感度撮影時のノイズ低減**（p.126）
ノイズ低減の内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、〈Q〉ボタンを押して拡大表示で確認します（もう一度〈Q〉ボタンを押すと元に戻ります）。

- **記録画質**（p.102）
JPEG画像に変換する際の、記録画質を設定します。表示される［***M *****x****］などの数値は、アスペクト比3：2のものです。アスペクト比ごとの画素数は、278ページの表を参照してください。

- **sRGB 色空間**（p.140）

　sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラの液晶モニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

- **周辺光量補正**（p.131）

　［**する**］を選ぶと、補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、〈Q〉ボタンを押して拡大表示で画面の四隅を確認します（もう一度〈Q〉ボタンを押すと元に戻ります）。なお、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行う周辺光量補正よりも、控えめに補正されるため、補正効果が確認できないことがあります。そのときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。

- **歪曲補正**

　［**する**］を選ぶと、レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。［**する**］を選ぶと、補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。
　解像感が少し低下することがありますので、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。

［**歪曲補正**］を［**する**］に設定して現像を行ったときは、AFフレーム表示用の情報（p.240）、およびダストデリートデータ（p.281）は画像に付加されません。

色収差補正

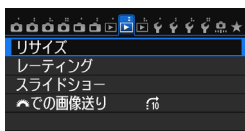
［**する**］を選ぶと、レンズの特性によって起こる色収差（被写体の輪郭部分に現れる色ズレ）を補正することができます。［**する**］を選ぶと、補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、〈Q〉ボタンを押して拡大表示で確認します（もう一度〈Q〉ボタンを押すと元に戻ります）。

周辺光量補正と歪曲補正、色収差補正について

周辺光量補正、歪曲補正、色収差補正を行うには、撮影時に使用したレンズのデータがカメラに登録されている必要があります。登録されていないときは、付属ソフトウェアのEOS Utility（p.392）を使用して、レンズデータの登録を行ってください。

カメラで行うRAW現像の結果と、Digital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。

リサイズ

撮影した画像の画素数を少なくするリサイズ処理を行い、別画像として保存することができます。なお、リサイズ処理は、JPEGの**L**／**M**／**S1**／**S2**で撮影した画像で行うことができます。**JPEGのS3とRAWで撮影した画像は、リサイズ処理を行うことはできません。**

1 ［リサイズ］を選ぶ

- ［▶2］タブの［**リサイズ**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してリサイズ処理を行う画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈ダイヤル〉を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。

リサイズするサイズ

3 画像サイズを選ぶ

- 〈SET〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- 〈◀▶〉を押してリサイズする画像サイズを選び、〈SET〉を押します。

4 保存する

- ［OK］を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- 他にリサイズ処理を行いたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

撮影時の記録画質と、リサイズできるサイズ

撮影時の記録画質	リサイズできるサイズ			
	M	S1	S2	S3
L	○	○	○	○
M		○	○	○
S1			○	○
S2				○

画像サイズについて

前ページの手順３で表示される［**M ****x****］などの数値は、アスペクト比３：２のものです。アスペクト比ごとの画像サイズは表のとおりとなります。

なお、「*」印の付いた記録画質とアスペクト比は、正確な比率になりません。また、画像がわずかにトリミングされます。

記録画質	アスペクト比と画素数（約）			
	３：２	４：３	16：９	１：１
M	3648×2432（890万）	3248×2432*（790万）	3648×2048*（750万）	2432×2432（590万）
S1	2736×1824（500万）	2432×1824（440万）	2736×1536*（420万）	1824×1824（330万）
S2	1920×1280（250万）	1696×1280*（220万）	1920×1080（210万）	1280×1280（160万）
S3	720×480（35万）	640×480（31万）	720×408*（29万）	480×480（23万）

Wi-Fi機能の使用中は、リサイズ処理を行うことはできません。

11

撮像素子の清掃

　このカメラは、撮像素子の前面（ローパスフィルター）に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットを搭載しています。
　また、ダストデリートデータ（ゴミ消し情報）を画像に付加する機能により、除去しきれなかったゴミを、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.392）で、自動的に消去することができます。

撮像素子の前面に付着する汚れについて

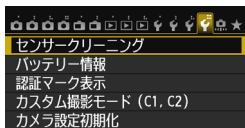
　撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミの他に、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。撮像素子の自動清掃後に汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

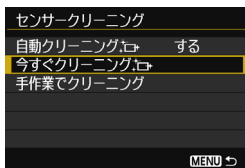
セルフ クリーニング センサー ユニットの作動中でも、シャッターボタンを半押しすると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。

撮像素子の自動清掃

　このカメラは、電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットが作動するようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

任意に作動させて清掃する

1

[センサークリーニング] を選ぶ

- [🔧4] タブの [**センサークリーニング**] を選び、〈SET〉を押します。

2

[今すぐクリーニング] を選ぶ

- [**今すぐクリーニング**] を選び、〈SET〉を押します。
- メッセージ画面で [OK] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを置いて（底面が机に付いた状態で）清掃してください。
- 繰り返し清掃を行っても、効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、[**今すぐクリーニング**] が一時的に選べなくなります。

自動清掃を行わないようにする

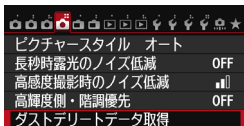
- 手順2で [**自動クリーニング**] を選び、[**しない**] を選びます。
- ➡ 電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

MENU ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

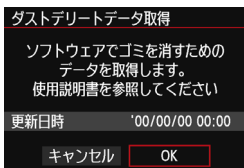
通常は、セルフ クリーニング センサー ユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができます。しかし、除去できなかったゴミがある場合に備え、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.392）で、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

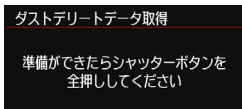
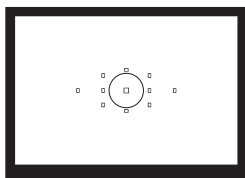
事前準備

- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回します。

ダストデリートデータを取得する

1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

- ［4］タブの［ダストデリートデータ取得］を選び、〈SET〉を押します。

ダストデリートデータ取得
ソフトウェアでゴミを消すための
データを取得します。
使用説明書を参照してください
更新日時　'00/00/00 00:00
キャンセル　OK

2 ［OK］を選ぶ

- ［OK］を選び〈SET〉を押すと、撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。

- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
  [OK] を選ぶと、メニューに戻ります。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、[OK] を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

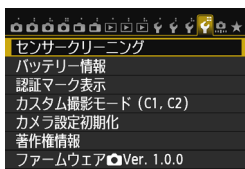
なお、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.392）による自動ゴミ消し処理については、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM／p.395）を参照してください。

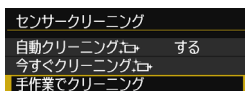
画像に付加されるダストデリートデータの容量は、ごく小さいため、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

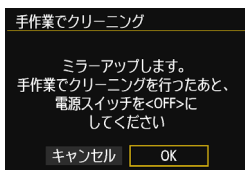
未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、付属ソフトウェア使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

MENU 手作業で撮像素子を清掃する 応用

撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。清掃を始める前にレンズを取り外してください。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理受付窓口にお申し付けください。

1 [センサークリーニング] を選ぶ

- [4] タブの [**センサークリーニング**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [手作業でクリーニング] を選ぶ

- [**手作業でクリーニング**] を選び〈SET〉を押します。

3 [OK] を選ぶ

- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。
- 表示パネルに「**CLn**」が点滅します。

4 撮像素子を清掃する

5 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。なお、バッテリーグリップを装着して、電源に単3形電池を使用しているときは、手作業で撮像素子の清掃はできません。

電源には、ACアダプターキット ACK-E6（別売）の使用をおすすめします。

- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する恐れがあります。**
  ・電源スイッチを〈OFF〉にする
  ・電池を取り出す／入れる
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中に電池の残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

12

画像の印刷

● 印刷（p.288）

カメラとプリンターを直接つないで、カードに記録されている画像を印刷することができます。このカメラは、ダイレクトプリント標準規格の「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応しています。

また、無線LAN で使えるPictBridge（DPS over IP）に対応したプリンターに画像を送って印刷することもできます。詳しくは、Wi-Fi機能 使用説明書を参照してください。

● 画像を印刷指定する／DPOF（p.295）

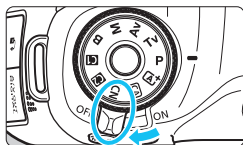
カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital（デジタル） Print（プリント） Order（オーダー） Format（フォーマット））に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

● フォトブックにする画像を指定する（p.299）

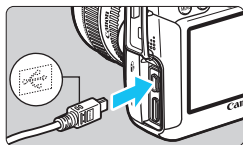
カードに記録されている画像の中から、フォトブックにする画像を指定することができます。

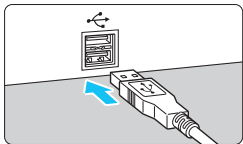
印刷の準備をする

ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います**。

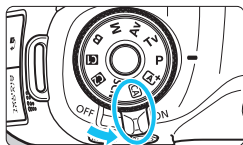
カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

- 詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

3 カメラとプリンターを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈⭠〉が、カメラの前面に向くようにして、〈**DIGITAL**〉端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる

5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

PictBridge

6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。

➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すマーク〈〉が表示されます。

- 動画は印刷できません。
- 「CPダイレクト」または「Bubble Jetダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
- 付属のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。表示されるエラーメッセージに対応した処置を行ってください（p.294）。
- 撮影モードが〈SCN〉モードの〈〉または〈〉に設定されているときや、マルチショットノイズ低減機能、HDRモードが設定されているときは、印刷できません。
- ［3］タブの［Wi-Fi］が［使う］に設定されているときは、ダイレクトプリントできません。［Wi-Fi］を［使わない］に設定してからインターフェースケーブルを接続してください。

- このカメラで撮影したRAW画像も印刷できます。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。フル充電した電池で約5時間30分印刷できます。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキットACK-E6（別売）の使用をおすすめします。

〈ﾌﾟﾘﾝﾀｰｱｲｺﾝ〉印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

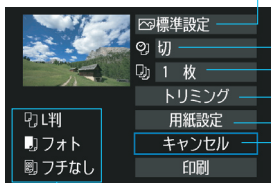
プリンター接続表示

1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈ﾌﾟﾘﾝﾀｰｱｲｺﾝ〉が表示されていることを確認します。
- 〈ﾀﾞｲﾔﾙ〉を回して印刷する画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ 印刷設定画面が表示されます。

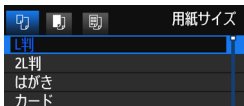
印刷設定画面

- 標準設定：印刷効果を設定します（p.290）
- 切：日付や画像番号を入れて印刷するかどうかを設定します
- 1 枚：何枚印刷するかを設定します
- トリミング：印刷範囲を設定します（p.293）
- 用紙設定：用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します
- キャンセル：手順1の画面に戻ります
- 印刷：印刷を開始します
- 設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

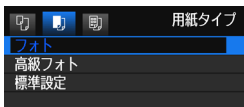
* **プリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

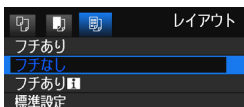
3 ［用紙設定］を選ぶ

- ［**用紙設定**］を選び〈SET〉を押します。

➡ 用紙設定画面が表示されます。

用紙サイズの設定

- プリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 用紙タイプの設定画面が表示されます。

用紙タイプの設定

- プリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ レイアウトの設定画面が表示されます。

レイアウトの設定

- 印刷レイアウトを選び〈SET〉を押します。
- ➡ 印刷設定画面に戻ります。

フチあり	用紙の周りに余白を付けて印刷します。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報*1を印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置 **35面配置**	20画像または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します*2。 ・［**20面配置**］では、撮影情報*1を印刷します。
標準設定	プリンターの機種や設定により、印刷レイアウトが異なります。

*1：Exif情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度、ホワイトバランスなどを印刷します。

*2：『画像を印刷指定する／DPOF』（p.295）で印刷指定を行ったあと、『印刷指定画像のダイレクトプリント』（p.298）で印刷することをおすすめします。

用紙の縦横比と、画像のアスペクト比が異なる条件でフチなし印刷を行うと、大きくトリミングされることがあります。また、トリミングされる分、印刷に使用する画素数が少なくなるため、解像度が低い写真になることがあります。

4 印刷効果を設定する

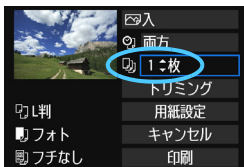
- 必要に応じて設定します。設定しないときは、手順5に進みます。
- **表示される内容は、プリンターの機種により異なります。**
- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 印刷効果を選び〈SET〉を押します。
- 〈INFO.〉横の〈目〉が明るく表示されているときは、印刷効果の調整を行うこともできます（p.292）。

項目	印刷内容
入	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正が行われます。
切	自動補正は行われません。
VIVID	海や空の青、植物の緑などが、いっそう色鮮やかに印刷されます。
NR	画像のノイズ低減処理が行われ印刷されます。
B/W 白黒	純黒調の白黒で印刷されます。
B/W 冷黒調	クールな印象の青っぽい（冷黒調）白黒で印刷されます。
B/W 温黒調	温かい印象の黄色っぽい（温黒調）白黒で印刷されます。
ナチュラル	画像本来の色やコントラストを活かした印刷が行われます。自動色調整は行われません。
ナチュラルM	印刷特性は「ナチュラル」と同じです。「ナチュラル」よりも細かい印刷調整を行うことができます。
標準設定	プリンターの機種により、印刷内容が異なります。プリンターの使用説明書を参照してください。

* **印刷効果の設定を変更すると、画面左上に表示されている画像に設定内容が反映されます。ただし、実際の印刷結果とは多少異なることがあるため、目安としてとらえてください。292ページの［明るさ補正］と［レベル補正］も同様です。**

ISO感度H1、H2で撮影した画像の撮影情報を印刷すると、ISO感度が適切な値で印刷されないことがあります。

5 日付／画像番号印刷を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷内容を選び〈SET〉を押します。

6 印刷枚数を設定する

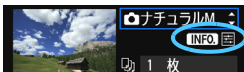
- 必要に応じて設定します。
- 〈〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷枚数を選び〈SET〉を押します。

7 印刷する

- ［**印刷**］を選び〈SET〉を押します。

- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容は、プリンターの使用説明書を参照してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 画像の傾き補正（p.293）を行うと、印刷に時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押して［OK］を選びます。
- ［**4：カメラ設定初期化**］（p.56）を行うと、設定した内容がすべて初期状態に戻ります。

印刷効果の調整について

印刷効果	ナチュラルM
明るさ補正	
レベル補正	切
明るく補正	切
赤目補正	切

290ページの手順4で項目を選び、〈INFO.〉の横に〈〉が明るく表示されているときに、〈INFO.〉ボタンを押すと、印刷効果の調整を行うことができます。調整できる（表示される）内容は、手順4の選択内容により異なります。

明るさ補正

画像の明るさを調整することができます。

レベル補正

［**手動**］を選ぶと、ヒストグラムの分布を変更して、画像の明るさとコントラストを調整することができます。

レベル補正画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、〈〉の位置が切り換わります。〈◀▶〉を押すと、シャドウレベル（0～127）、ハイライトレベル（128～255）を任意に調整することができます。

明るく補正

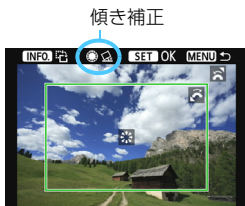
逆光などで被写体の顔が暗くなった画像で効果的です。［**入**］に設定すると、顔が明るく印刷されます。

赤目補正

ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった（赤目現象が発生した）画像で効果的です。［**入**］に設定すると、目の赤みが緩和されて印刷されます。

- ［**明るく補正**］と［**赤目補正**］の効果は、画面で確認できません。
- ［**詳細設定**］を選ぶと、［**コントラスト**］［**色の濃さ**］［**色あい**］［**カラーバランス**］を調整することができます。なお、［**カラーバランス**］の調整は、〈〉で行います。Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- ［**初期化**］を選ぶと、設定した印刷効果の内容がすべて初期状態に戻ります。

トリミング（印刷範囲）の設定

傾き補正

画像を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じで印刷することができます。

トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、［**用紙設定**］の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈〉を回すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

〈〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

〈**INFO.**〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。

画像の傾きを補正する

〈〉を回すと、0.5度単位±10度の範囲で画像を回転することができます。回転を行うと、画面上の〈〉が青色に変わります。

3 〈SET〉を押してトリミングを終了する

➡ 印刷設定画面に戻ります。

- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認することができます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。
- トリミングは、カメラの液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングを行うと、枠が正しく表示されないことがあります。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SET〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

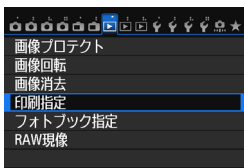
用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

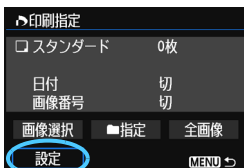
ファイルエラー

選択した画像はPictBridgeで印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

画像を印刷指定する／DPOF

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する

1 ［印刷指定］を選ぶ

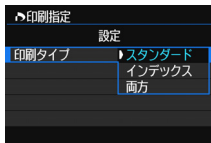
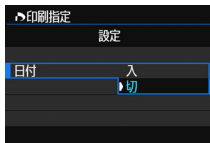
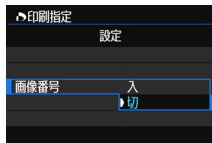
- ［▶1］タブの［**印刷指定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［設定］を選ぶ

- ［**設定**］を選び〈SET〉を押します。

3 項目の内容を設定する

- ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。
- 項目を選び〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

［印刷タイプ］

［日付］

［画像番号］

項目	設定		内容
印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入 / 切		[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。
画像番号	入 / 切		[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。

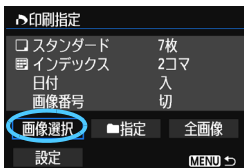
4 設定を終了する

- 〈**MENU**〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の [**画像選択**] [**■指定**] [**全画像**] で、印刷する画像を指定します。

- [**日付**] [**画像番号**] を [**入**] にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- [**インデックス**] に設定したときは、[**日付**] と [**画像番号**] を同時に [**入**] にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF に対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

RAW画像と動画は印刷指定できません。RAW画像は、PictBridge （p.286）で印刷することができます。

印刷する画像を指定する

画像選択

画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈Q〉ボタンを押して〈⚙〉を左に回していくと、3画像表示になります。〈⚙〉を右に回すと、元の表示に戻ります。

〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

指定枚数

総指定枚数

[スタンダード] [両方]

〈▲▼〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。

チェックマーク

インデックスマーク

[インデックス]

〈SET〉を押して〈✓〉を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

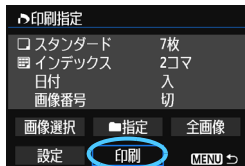
指定

［**フォルダ内の全画像を指定**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、［**フォルダ内の全画像指定を解除**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

全画像

［**カード内の全画像を指定**］を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、［**カード内の全画像指定を解除**］を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- 指定、全画像指定を行っても、RAW画像と動画は印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

印刷指定画像のダイレクトプリント

印刷指定した画像を、PictBridge対応のプリンターで簡単に印刷することができます。

1 印刷の準備をする

- 286ページを参照してください。
  『カメラとプリンターを接続する』の手順5まで行います。

2 [▶1] タブの [印刷指定] を選ぶ

3 [印刷] を選ぶ

- [**印刷**] は、カメラとプリンターが接続され、印刷できる状態になっていないと表示されません。

4 [用紙設定] の内容を設定する（p.288）

- 印刷効果（p.290）は必要に応じて設定します。

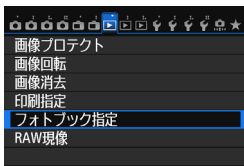
5 [OK] を選ぶ

- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- [**フチあり**] にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。

- [**レベル補正**] の [**手動**] は選択できません。
- 印刷を中止したあと、残りの画像を印刷するときは、[**再開**] を選びます。ただし次のときは、印刷の再開はできません。
  - ・再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
  - ・インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
  - ・印刷を中断したときに、カードの空き容量が少なかったとき
- 印刷中に問題が発生したときは、294ページを参照してください。

フォトブックにする画像を指定する

フォトブックにする画像を指定（最大998枚）し、付属ソフトウェアのEOS Utilityを使ってパソコンに取り込むと、指定した画像が専用のフォルダにコピーされ、インターネットでのフォトブック注文や、お使いのプリンターで印刷をするときに便利です。

画像を選択して1枚ずつ指定する

1 ［フォトブック指定］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**フォトブック指定**］を選び、〈SET〉を押します。

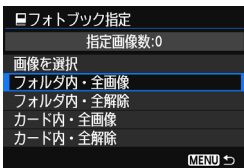
2 ［画像を選択］を選ぶ

- ［**画像を選択**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈ダイヤル〉を左に回していくと、3画像表示になります。〈ダイヤル〉を右に回すと、元の表示に戻ります。

3 指定する画像を選ぶ

- 〈ダイヤル〉を回して指定する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 画像を複数選ぶときは、この操作を繰り返します。画面の左上に、指定した枚数が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、指定が解除されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

フォルダ内／カード内全画像を指定する

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて指定することもできます。

［1：**フォトブック指定**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が指定されます。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。

RAW画像と動画は指定できません。

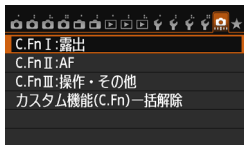
13

カメラをカスタマイズする

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。

また、現在使用しているカメラの設定内容を、モードダイヤルの〈C1〉〈C2〉に登録することができます。

なお、この章で説明する機能は、応用撮影ゾーンで設定、機能します。

MENU カスタム機能の設定方法 応用

1 [.]を選ぶ

2 グループを選ぶ

- C.Fn I～III のいずれかを選び、〈SET〉を押します。

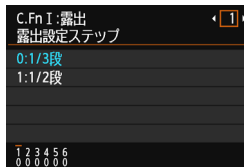
カスタム機能番号

3 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈◄►〉を押して設定する機能番号を選び、〈SET〉を押します。

4 設定を変更する

- 設定内容（番号）を選び〈SET〉を押します。
- 手順2～4を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。

- 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。

5 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。

➡ 手順2の画面に戻ります。

カスタム機能の設定をすべて解除するときは

手順2で［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

カスタム機能の一括解除を行っても、［**.C.Fn III -2：フォーカシングスクリーン**］、［**.C.Fn III -5：操作ボタンカスタマイズ**］の設定内容は解除されません。

MENU カスタム機能一覧 応用

C.Fn I：露出

			LV撮影	動画撮影
1	露出設定ステップ	p.304	○	○
2	ISO感度設定ステップ		○	M時
3	ブラケティング自動解除		○	（静止画：WB-BKT時）
4	ブラケティング順序	p.305	○	
5	ブラケティング時の撮影枚数		○	
6	セイフティシフト	p.306	○	

C.Fn II：AF

			LV撮影	動画撮影
1	被写体追従特性	p.307		
2	速度変化に対する追従性	p.308		
3	AIサーボAF1コマ目レリーズ			
4	サーボAF連続撮影中のレリーズ	p.309		
5	AF補助光の投光		AF Quick 時*	
6	AF測距不能時のレンズ動作	p.310	AF Quick 時*	AF Quick 時*
7	縦位置/横位置のAFフレーム設定		AF Quick 時*	AF Quick 時*
8	スーパーインポーズの表示			
9	AFマイクロアジャストメント	p.311	AF Quick 時*	AF Quick 時*

* LEDライト付きのEXスピードライト（別売）使用時は、AFロ、AF☺でもAF補助用のライトが点灯します。

C.Fn III：操作・その他

			LV撮影	動画撮影
1	Tv/Av値設定時のダイヤル回転	p.311	○	○
2	フォーカシングスクリーン	p.312		
3	マルチ電子ロック	p.313	○	○
4	ファインダー内！警告の項目			
5	操作ボタンカスタマイズ		設定により異なる	

▭ が付いたカスタム機能は、ライブビュー（LV）撮影時、または動画撮影時は機能しません（設定が無効になります）。

MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

C.Fn I：露出

C.Fn I -1　露出設定ステップ

0：1/3段

1：1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。1/3段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

1 設定時は、ファインダー内と表示パネルの露出レベル表示は図のようになります。

C.Fn I -2　ISO感度設定ステップ

0：1/3段

1：1段

C.Fn I -3　ブラケティング自動解除

0：する

電源スイッチを〈OFF〉にすると、AEB、WBブラケティングの設定が解除されます。また、ストロボ充電完了、動画撮影への切り換えでAEBの設定が解除されます。

1：しない

電源スイッチを〈OFF〉にしても、AEB、WBブラケティングの設定が解除されないようになります。（ストロボ充電完了、動画撮影への切り換えでAEBは一旦解除されますが、設定したAEBレベルは記憶されています。）

C.Fn I -4　ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、WBブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

0：0→－→＋

1：－→0→＋

2：＋→0→－

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0 ：基準ホワイトバランス
－ ：マイナス補正	－ ：ブルー寄りに補正	－ ：マゼンタ寄りに補正
＋ ：プラス補正	＋ ：アンバー寄りに補正	＋ ：グリーン寄りに補正

C.Fn I -5　ブラケティング時の撮影枚数

AEB、およびWBブラケティング時の撮影枚数を通常の3枚から、2枚/5枚/7枚に変更することができます。

［**ブラケティング順序：0**］設定時は、下表のように撮影されます。

0： 3枚

1： 2枚

2： 5枚

3： 7枚

（1段ステップ設定時）

	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	7枚目
0：3枚	標準（0）	－1	＋1				
1：2枚	標準（0）	±1					
2：5枚	標準（0）	－2	－1	＋1	＋2		
3：7枚	標準（0）	－3	－2	－1	＋1	＋2	＋3

1 設定時は、AEB レベルを設定するときに補正方向（＋または－）を選ぶことができます。

C.Fn I -6　セイフティシフト

0：しない

1：Tv値/Av値

シャッター優先AE（**Tv**）、絞り優先AE（**Av**）モードで機能します。被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えると、手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。

2：ISO感度

プログラムAE（**P**）、シャッター優先AE（**Tv**）、絞り優先AE（**Av**）モードで機能します。被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えると、手動設定したISO感度をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。

- ［**3：ISO感度に関する設定**］で、［**ISO感度設定範囲**］［**ISOオート低速限界**］が初期状態から変更されていても、標準露出が得られないときは、セイフティシフトが優先されます。
- ISO感度でセイフティシフトが行われたときの下限/上限感度は、［**ISOオートの範囲**］の設定によります（p.110）。ただし、手動設定されているISO感度が［**ISOオートの範囲**］を超えているときは、手動設定した感度までの範囲でセイフティシフトが行われます。
- ［**Tv値/Av値**］［**ISO感度**］設定時は、ストロボ撮影時も状況に応じてセイフティシフトします。

C.Fn II：AF

C.Fn II -1　被写体追従特性

AIサーボAF時の測距中に、障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときの、被写体に対する追従性の設定です。

[0]

標準的な設定です。動いている一般的な被写体に適しています。

[粘る：－2／粘る：－1]

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとします。－1よりも－2のほうが、狙っている被写体を長く捉え続けようとします。

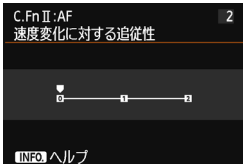
その反面、意図しない被写体にピントが合ってしまったときは、狙っている被写体に対するピント合わせに、やや時間がかかることがあります。

[俊敏：+2／俊敏：+1]

AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。+1よりも+2のほうが、異なる被写体にスピーディーに反応します。

その反面、意図しない被写体にピントが合いやすくなります。

［**被写体追従特性**］は、EOS-1D Mark III/IV、EOS-1Ds Mark III、EOS 7D で［**AI サーボ時の被写体追従敏感度**］と呼んでいた機能です。

C.Fn II -2　速度変化に対する追従性

被写体が急に動き出したときや、急に止まったときなど、速さが瞬時に大きく変化したときの、被写体に対する追従性の設定です。

[0]

移動速度がほぼ一定の被写体に適しています。

[+2／+1]

急な動き出し、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。被写体の速さが瞬時に大きく変化しても、狙っている被写体にピントを合わせ続けます。例として、向かってくる被写体の急な動き出しに対しては「後ピン」、急な停止に対しては「前ピン」になりにくくなります。+1よりも+2のほうが、大きい速度変化に追従することができます。

その反面、被写体のわずかな動きに影響されやすくなり、ピントが一時的に不安定になることがあります。

C.Fn II -3　AIサーボAF1コマ目レリーズ

AIサーボAF＋連続撮影で1コマ目を撮影するときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

[バランス重視]

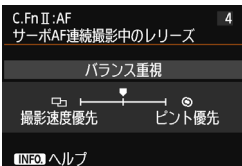
ピントとレリーズタイミングのバランスをとった設定です。

[レリーズ優先]（□）

シャッターボタンを押すと、ピントが合っていなくてもすぐに撮影されます。ピントよりも一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。

[ピント優先]（◎）

シャッターボタンを押しても、ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

C.Fn II -4　サーボAF連続撮影中のレリーズ

AIサーボAF＋連続撮影で1コマ目を撮影したあと、連続撮影を続けているときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

[バランス重視]

ピントと連続撮影速度のバランスをとった設定です。暗いときや低コントラストのときは、連続撮影速度が遅くなることがあります。

[撮影速度優先]（ ）

ピントよりも連続撮影速度を優先します。連続撮影速度は低下しません。撮影間隔を一定に保って撮影したいときに有効です。

[ピント優先]（ ）

連続撮影速度よりもピントを優先します。ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

C.Fn II -5　AF補助光の投光

EOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

必要に応じて、外部ストロボからAF補助光が投光されます。

1：しない

外部ストロボからAF補助光は投光されません。AF補助光が他の人の迷惑になるときなどに設定します。

2：赤外光方式の補助光のみ投光

外部ストロボのAF補助光の中で、赤外光方式のAF補助光だけを投光します。ストロボ間欠発光方式のAF補助光を投光したくないときに設定します。

なお、LEDライト付きEXスピードライト使用時も、AF補助光としてのライトは自動点灯しません。

外部ストロボのカスタム機能で、［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、この設定に関わらずAF補助光は投光されません。

C.Fn II -6　AF測距不能時のレンズ動作

AFでピントが合わせられなかったときに、続けてAF動作を行うかどうかを設定することができます。

0：サーチ駆動する

1：サーチ駆動しない

AFを開始するときにピントが大きくボケているときや、AFでピントが合わせられないときは、レンズの駆動を停止します。サーチ駆動により、ピントが大きくボケることを防止します。

超望遠レンズ使用時にサーチ駆動を行うと、ピントが大きくボケて、次のピント合わせに時間がかかることがあるため、［**サーチ駆動しない**］に設定することをおすすめします。

C.Fn II -7　縦位置/横位置のAFフレーム設定

縦位置撮影と横位置撮影で、任意選択AFフレームを、別々に設定することができます。

0：同じ

縦位置撮影、横位置撮影とも、同じ任意選択AFフレームになります。

1：別々に設定

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFフレームを設定することができます。カメラがどの姿勢のときでも右寄りのAFフレームを使いたいときなどに有効です。

①②③のそれぞれの姿勢で、AF フレームを任意選択すると設定されます。カメラの姿勢に応じて、設定した任意選択したAFフレームに切り換わります。

C.Fn II -8　スーパーインポーズの表示

0：する

1：しない

ピントが合ったときに、ファインダー内のAFフレームが赤く点灯しません。点灯がわずらわしいときに設定します。

ただし、AFフレーム選択時は点灯します。

C.Fn II -9　AFマイクロアジャストメント

ファインダー撮影、またはライブビュー撮影のクイックAFで、AFを行ったときの、ピントの合う位置を微調整することができます。詳しくは、314ページを参照してください。

C.Fn III：操作・その他

C.Fn III -1　Tv/Av値設定時のダイヤル回転

0：通常

1：設定方向を反転

シャッター速度、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転することができます。

撮影モードが〈**M**〉のときは〈メイン電子ダイヤル〉〈サブ電子ダイヤル〉、それ以外の撮影モードでは〈メイン電子ダイヤル〉の設定方向が反転します。〈**M**〉モード時と露出補正時の〈サブ電子ダイヤル〉の設定方向が同じになります。

C.Fn III -2　フォーカシングスクリーン

フォーカシングスクリーンを交換したときは、適切な露出で撮影するため、使用するスクリーンのタイプに応じて、設定変更を行ってください。

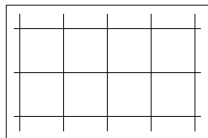
0：Eg-A II

1：Eg-D

2：Eg-S

フォーカシングスクリーンの特性について

Eg-A II：標準プレシジョンマット
購入時のカメラに組み込まれている標準フォーカシングスクリーンです。ファインダーの明るさと、手動ピント合わせのしやすさをバランスよく両立しています。

Eg-D　：方眼プレシジョンマット
方眼線が引かれたフォーカシングスクリーンです。構図の垂直・水平決めを楽に行うことができます。

Eg-S　：スーパープレシジョンマット
Eg-A IIよりもピントの山をつかみやすくしたフォーカシングスクリーンです。手動ピント合わせを主にされているかたに有効です。

- Eg-Aをこのカメラに取り付けることはできますが、適切な露出が得られません。

スーパープレシジョンマットEg-Sとレンズの開放絞り数値について

- F2.8以上の明るいレンズに最適化されています。
- F2.8より暗いレンズを使用すると、標準スクリーンEg-A II 装着時よりもファインダーが暗くなります。

- ［**.: カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選んでも、設定内容は解除されません。
- このカメラの標準フォーカシングスクリーンはEg-A　II　ですので、購入時はC.Fn III -2-0に設定されています。
- フォーカシングスクリーンの交換方法については、フォーカシングスクリーンの使用説明書を参照してください。なお、フォーカシングスクリーンがホルダーと一緒に降りてこないときは、カメラを手前に起こしてください。

C.Fn III -3　マルチ電子ロック

〈LOCK▶〉スイッチを右側にすると、〈〉〈〉〈〉による不用意な設定の変更を防止することができます。

ロックしたときに操作を禁止する部材を選び、〈SET〉を押して〈✓〉を付けて、[OK] を選びます。

メイン電子ダイヤル

サブ電子ダイヤル

マルチコントローラー

- ロックした状態で禁止した部材を操作すると、ファインダー内と表示パネルに〈**L**〉、撮影機能の設定状態（p.48）の画面に〈**LOCK**〉が表示されます。
- 初期状態でロックしたときは、〈〉がロックされます。

C.Fn III -4　ファインダー内！警告の項目

以下の機能が設定されているときに、ファインダー内の左下に〈**!**〉を表示することができます（p.23）。

警告表示を行う対象を選び、〈SET〉を押して〈✓〉を付けて、[OK] を選びます。この設定をしておくと、撮影機能の設定状態（p.48）にも〈!〉が表示されます。

モノクロ設定時

ピクチャースタイルが［**モノクロ**］（p.113）に設定されているときに、警告表示を行います。

ホワイトバランス補正時

ホワイトバランス補正（p.123）が設定されているときに、警告表示を行います。

拡張ISO感度時

ISO感度が、L（50）、H1（51200）、H2（102400）に手動設定されているときに（p.107）、警告表示を行います。

スポット測光設定時

測光モードが［**スポット測光**］（p.150）に設定されているときに、警告表示を行います。

C.Fn III -5　操作ボタンカスタマイズ

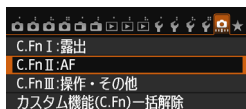
よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。詳しくは、320ページを参照してください。

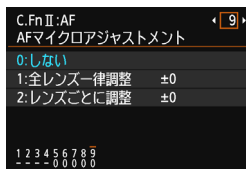
: AFマイクロアジャストメント

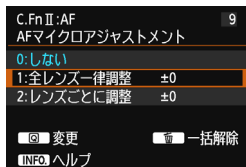
ファインダー撮影、またはライブビュー撮影のクイックAFで、AFを行ったときの、ピントの合う位置を微調整することができます。この機能を「AFマイクロアジャストメント」といいます。調整を行う前に、319ページの『AFマイクロアジャストメント共通事項』をあわせてお読みください。

通常はこの機能でピント合焦位置を調整する必要はありません。必要な場合のみ、調整を行ってください。なお、調整により適切なピントで撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

1：全レンズ一律調整

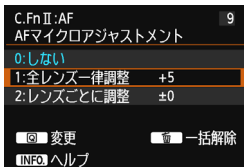
「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。AF撮影のときは、使用するレンズに関わらず、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。

1 [C.Fn II：AF] を選ぶ

- [ ] タブの [C.Fn II：AF] を選び、〈SET〉を押します。

2 [9]：[AFマイクロアジャストメント] を選ぶ

- [9]：[AFマイクロアジャストメント] を選び、〈SET〉を押します。

3 [1：全レンズ一律調整] を選ぶ

- [1：全レンズ一律調整] を選びます。

4 〈Q〉ボタンを押す

➡ [1：全レンズ一律調整] 画面が表示されます。

5 調整する

- 〈◀▶〉を押して調整値を設定します。調整範囲は±20ステップです。
- 「－：」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「＋：」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- 調整が終わったら、〈SET〉を押します。
- ［**1：全レンズ一律調整**］を選び〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押して設定を終了します。

6 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して（p.236）、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「＋：」側、奥側にピントが合っているときは「－：」側に調整します。
- 必要に応じて、調整を繰り返します。

［**1：全レンズ一律調整**］のときは、ズームレンズの広角側と望遠側で、別々にAF調整を行うことはできません。

2：レンズごとに調整

レンズごとに調整を行い、調整結果をカメラに登録することができます。登録できるレンズ本数は最大40本です。登録したレンズを使用してAF撮影を行うと、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。使用レンズがズームレンズのときは、広角側（W）、望遠側（T）の調整値を設定します。

1

[2：レンズごとに調整] を選ぶ

- [2：レンズごとに調整] を選びます。

2 〈Q〉ボタンを押す

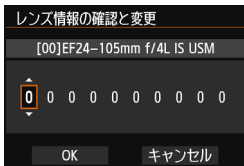
➡ [2：レンズごとに調整] 画面が表示されます。

3 レンズ情報を確認／変更する

レンズ情報の確認

- 〈INFO.〉ボタンを押します。

➡ 画面にレンズ名と10桁のシリアル番号が表示されます。シリアル番号が表示されているときは、[OK] を選び手順4に進みます。

- レンズのシリアル番号が認識できないときは、「0000000000」と表示されます。次の操作で番号を入力します。なお、番号の先頭に表示される「*」については次ページを参照してください。

シリアル番号の入力

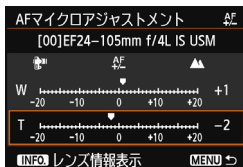
- 〈◀▶〉を押して入力する桁を選び、〈SET〉を押して〈⬍〉の状態にします。
- 〈▲▼〉を押して数値を入力し、〈SET〉を押します。
- すべての桁の入力が終わったら、[OK]を選び〈SET〉を押します。

レンズのシリアル番号について

- **手順3で10桁の番号の先頭に「*」が表示されたレンズは、同じ種類のレンズを複数登録することはできません。なお、番号を入力しても「*」の表示は消えません。**
- **レンズに記載されているシリアル番号と、手順3で表示されるシリアル番号が異なることがありますが、故障ではありません。**
- レンズのシリアル番号にアルファベットが含まれているときは、アルファベットを除く数字を、手順3で入力してください。
- シリアル番号が記載されている位置は、レンズによって異なります。
- レンズによっては、シリアル番号がレンズに記載されていないことがあります。番号の記載がないレンズを登録するときは、手順3で任意の番号を入力してください。

- [**2：レンズごとに調整**]を選んだときに、エクステンダーを使用しているときは、「レンズ＋エクステンダー」の組み合わせで登録されます。
- すでに40本登録されているときは、メッセージが表示されます。上書き消去するレンズを選ぶと、登録することができます。

単焦点レンズ

ズームレンズ

4 調整する

- ズームレンズのときは、〈▲▼〉を押して、広角側（W）または望遠側（T）を選びます。〈SET〉を押すと枠が消え、調整ができるようになります。
- 〈◀▶〉を押して調整値を設定し、〈SET〉を押します。調整範囲は±20ステップです。
- 「－：」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「＋：▲」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- ズームレンズのときは、手順4を繰り返して、広角側（W）、望遠側（T）の調整値をそれぞれ設定します。
- 調整が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して手順1の画面に戻ります。
- ［**2：レンズごとに調整**］を選び〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押して設定を終了します。

5 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して（p.236）、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「＋：▲」側、奥側にピントが合っているときは「－：」側に調整します。
- 必要に応じて、調整を繰り返します。

ズームの中間（焦点距離）位置で撮影を行ったときは、広角側と望遠側の調整結果に基づいて自動的に補正されます。なお、片側だけ調整を行ったときも、中間位置に対して自動補正されます。

AFマイクロアジャストメントの一括解除

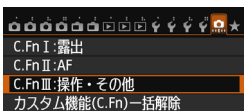
画面の下に［ **一括解除**］が表示されているときに、〈 〉ボタンを押すと、［**1：全レンズ一律調整**］［**2：レンズごとに調整**］で調整した内容をすべて解除することができます。

AFマイクロアジャストメント共通事項

- AFによる合焦位置は、被写体条件や明るさ、ズーム位置などの撮影条件により、わずかに変動します。そのため、この機能で調整を行っても、適切な位置でピントが合わないことがあります。
- カスタム機能の一括解除を行っても（p.302）、調整した内容は保持されますが、設定は［**0：しない**］になります。

- 実際に撮影する環境下で調整を行うことをおすすめします。より適確なピント調整を行うことができます。
- 調整を行うときは、三脚の使用をおすすめします。
- 調整結果を確認するときは、記録画質 **L** で撮影することをおすすめします。
- 1ステップあたりの調整幅は、使用するレンズの開放絞り数値によって異なります。「調整→撮影→確認」を繰り返してピント調整を行ってください。
- ライブ1点AF、 ライブAF（コントラストAF）のAF調整はできません。

.:操作ボタンカスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。

1 [C.Fn III：操作・その他] を選ぶ

- [.] タブの [C.Fn III：操作・その他] を選び、〈SET〉を押します。

2 [5]：[操作ボタンカスタマイズ] を選ぶ

- [5]：[操作ボタンカスタマイズ] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 操作部材の選択画面が表示されます。

3 操作部材を選ぶ

- 操作部材を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 操作部材の名称と、割り当てできる機能が表示されます。

4 機能を割り当てる

- 機能を選び〈SET〉を押します。

5 設定を終了する

- 〈SET〉を押して設定が終了すると、手順3の画面に戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押して設定を終了します。

手順3の画面で〈 〉ボタンを押すと、設定した内容を解除することができます。なお、［.C.Fn III -5：**操作ボタンカスタマイズ**］の設定は、［.：**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選んでも解除されません。

操作部材に対して割り当てできる機能の一覧

機能			参照頁		AF-ON	
AF	AF	測光・AF開始	324	○	○	○
	AF-OFF	AF停止			○	○
	ONE SHOT AI SERVO	ワンショット⇄AIサーボ				
		AFフレームダイレクト選択				
露出		測光開始	324	○		
	AEL FEL	AEロック/FEロック			○	○
		AEロック	325		○	○
		AEロック（押している間）		○		
	H	AEロック（ホールド）			○	○
	FEL	FEロック			○	○
	ISO	ISO感度設定（押しながら ）				
	Tv	Mモード時、シャッター速度変更				
	Av	Mモード時、絞り数値変更				
外部ストロボ		ストロボ調光補正	326			
画像		記録画質選択	326			
		ピクチャースタイル選択				
操作		絞り込み	326			
		手ブレ補正機能作動				
		ファインダー内水準器表示				
	MENU	メニュー表示				
	OFF	無効			○	○

	LENS*	SET			
	○				
○	○				
○	○				
					○
○	○				
○	○				
○	○				
○	○				
		○			
			○	○	
			○	○	
		○			
		○			
		○			
○					
○	○				
○					
		○			
○		○			○

* AF ストップボタン（LENS）は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されています。

AF：測光・AF開始

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光とAFを行います。

AF-OFF：AF停止

この機能を割り当てたボタンを押している間、AFを停止します。AIサーボAF中にピントを固定したいときなどに有効です。

ONE SHOT⇔AI SERVO：ワンショット⇄AIサーボ

AF動作を切り換えることができます。ワンショットAF時に、この機能を割り当てたボタンを押すと、押している間だけAIサーボAFになり、AIサーボAF時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。移動／停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

：AFフレームダイレクト選択

測光タイマーが作動中であれば、〈〉ボタンを押さずに、〈〉で直接AFフレームを選択することができます。

：測光開始

シャッターボタンを半押しすると、測光のみ行います。

AEL FEL：AEロック/FEロック

AEロック：この機能を割り当てたボタンを押すと、測光タイマーが作動している間、露出が固定されます（AEロック）。ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに有効です。

FEロック：ストロボ撮影時にこの機能を割り当てたボタンを押すと、ストロボがプリ発光して撮影に必要な発光量を記憶（FEロック）します。

✱：AEロック

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光タイマーが作動している間、露出が固定されます（AEロック）。ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに有効です。

✱：AEロック（押している間）

シャッターボタンを押している間、露出が固定されます（AEロック）。

✱H：AEロック（ホールド）

この機能を割り当てたボタンを押すと、露出が固定されます（AEロック）。もう一度、この機能を割り当てたボタンを押すまで、AEロックが継続します。ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに有効です。

FEL：FEロック

ストロボ撮影時にこの機能を割り当てたボタンを押すと、ストロボがプリ発光して撮影に必要な発光量を記憶（FEロック）します。

ISO：ISO感度設定（押しながら）

〈SET〉を押しながら〈〉を回すと、ISO感度を設定することができます。

ISOオートのときに操作すると、ISO感度手動設定になります。ISOオートには設定できません。なお、〈**M**〉モードのときにこの機能を使用すると、設定したシャッター速度、絞り数値を保持したまま、ISO感度による露出調整を行うことができます。

Tv：Mモード時、シャッター速度変更

〈**M**〉マニュアル露出時に、〈〉または〈〉でシャッター速度を設定することができます。

Av：Mモード時、絞り数値変更

〈**M**〉マニュアル露出時に、〈〉または〈〉で絞り数値を設定することができます。

：ストロボ調光補正

〈SET〉を押すと、液晶モニターにストロボ調光補正設定画面（p.170）が表示されます。

：記録画質選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターに記録画質設定画面（p.102）が表示されます。

：ピクチャースタイル選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターにピクチャースタイル選択画面（p.112）が表示されます。

：絞り込み

絞り込みボタンを押すと、絞り込みが行われ、被写界深度を確認することができます（p.147）。

：手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正機能スイッチが〈ON〉のときに、この機能を割り当てたボタンを押すと、手ブレ補正機能が作動します。

：ファインダー内水準器表示

この機能を割り当てたボタンを押すと、ファインダー内と表示パネルに、露出レベル表示を利用した水準器が表示されます（p.61）。

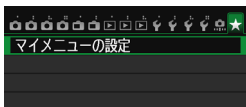
MENU：メニュー表示

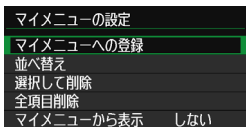
〈SET〉を押すと、液晶モニターにメニューが表示されます。

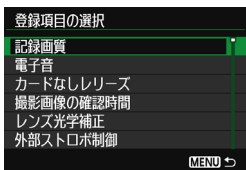
OFF：無効

ボタンに機能を割り当てないときに設定します。

MENU マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに6項目まで登録することができます。

1 [マイメニューの設定] を選ぶ

- [★] タブの [**マイメニューの設定**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [マイメニューへの登録] を選ぶ

- [**マイメニューへの登録**] を選び〈SET〉を押します。

3 登録する

- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選び、〈SET〉を押すと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈**MENU**〉ボタンを押すと手順2の画面に戻ります。

マイメニューの設定について

- **並べ替え**

　登録した項目の並び順を変えることができます。[**並べ替え**] を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。[◆] が表示された状態で〈▲▼〉を押して並び順を変え、〈SET〉を押します。

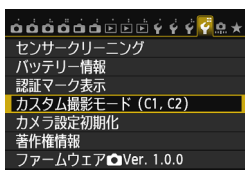
- **選択して削除／全項目削除**

　登録した項目を削除することができます。[**選択して削除**] を選ぶと1項目ずつ削除、[**全項目削除**] を選ぶと登録内容がすべて削除されます。

- **マイメニューから表示**

　[**する**] に設定すると、メニュー画面を表示したときに [★] タブから表示されます。

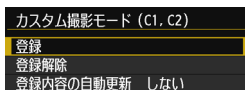
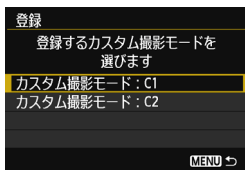
C1 カスタム撮影モードの登録 応用

撮影モードやメニュー、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、モードダイヤルの〈C1〉〈C2〉にカスタム撮影モードとして登録することができます。

1 [カスタム撮影モード（C1, C2）]を選ぶ

- [4] タブの [**カスタム撮影モード(C1, C2)**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [登録] を選ぶ

- [**登録**] を選び〈SET〉を押します。

登録
登録するカスタム撮影モードを
選びます
カスタム撮影モード：C1
カスタム撮影モード：C2
MENU

3 登録する

- 登録するカスタム撮影モードを選び、〈SET〉を押します。
- 確認画面で［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カメラの設定内容（p.329、330）がモードダイヤルのC＊に登録されます。

登録内容の自動更新

〈C1〉〈C2〉モードで撮影しているときに、設定変更した内容を反映して登録内容を自動更新することができます。自動更新するときは、手順2で［**登録内容の自動更新**］を［**する**］に設定します。なお、自動更新される設定内容は、329、330ページを参照してください。

カスタム撮影モードの登録解除

手順2で［**登録解除**］を選ぶと、登録前の初期設定に戻すことができます。操作方法は手順3と同じです。

登録される設定内容

● 撮影機能

撮影モード＋設定値、ISO感度、露出補正量、ストロボ調光補正量、AF動作、AFフレーム、ドライブモード、測光モード

● メニュー機能

[撮影1] 記録画質、電子音、カードなしレリーズ、撮影画像の確認時間
[撮影2] レンズ光学補正（周辺光量補正、色収差補正）、外部ストロボ制御、ミラーアップ撮影
[撮影3] 露出補正/AEB設定、ISO感度に関する設定、オートライティングオプティマイザ、ホワイトバランス、MWB画像選択、WB補正/BKT設定、色空間
[撮影4] ピクチャースタイル、長秒時露光のノイズ低減、高感度撮影時のノイズ低減、高輝度側・階調優先、多重露出（設定値）、HDRモード（設定値）
[ライブビュー1] ライブビュー撮影、AF方式、グリッド、アスペクト比、露出Simulation
[ライブビュー2] LV静音撮影、測光タイマー
[動画1] AF方式、LV静音撮影、測光タイマー
[動画2] グリッド、動画記録サイズ、録音、動画記録カウント、動画再生カウント、ビデオスナップ
[再生2]〈メイン電子ダイヤル〉での画像送り
[再生3] ハイライト警告表示、AFフレーム表示、再生時のグリッド、ヒストグラム、動画再生カウント、拡大倍率設定（約）
[設定1] 画像番号、縦位置画像回転表示
[設定2] オートパワーオフ、液晶の明るさ

[C.Fn I：露出]

露出設定ステップ、ISO感度設定ステップ、ブラケティング自動解除、ブラケティング順序、ブラケティング時の撮影枚数、セイフティシフト

[C.Fn II：AF]

被写体追従特性、速度変化に対する追従性、AIサーボAF1コマ目レリーズ、サーボAF連続撮影中のレリーズ、AF補助光の投光、AF測距不能時のレンズ動作、縦位置/横位置のAFフレーム設定、スーパーインポーズの表示、AFマイクロアジャストメント

[C.Fn III：操作・その他]

Tv/Av値設定時のダイヤル回転、フォーカシングスクリーン、マルチ電子ロック、操作ボタンカスタマイズ

- マイメニューの設定内容は、登録されません。
- モードダイヤルが〈C1〉〈C2〉のときは、[**4：カメラ設定初期化**] と [**：カスタム機能（C.Fn）一括解除**] は選択できません。

- モードダイヤルが〈C1〉〈C2〉のときも、撮影機能やメニューなどの設定を変更することができます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、〈C1〉〈C2〉に登録されている撮影モードを確認することができます（p.332、333）。

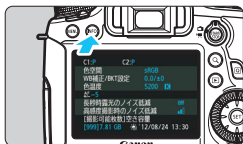
14

資料

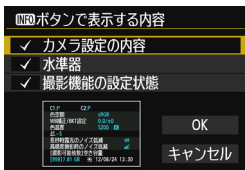
この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。

認証マークについて

［ 4］タブの［**認証マーク表示**］を選び、〈SET〉を押すと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

INFO.ボタンの機能

撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、「カメラ設定の内容」と「水準器」(p.60)、「撮影機能の設定状態」(p.333)を表示することができます。

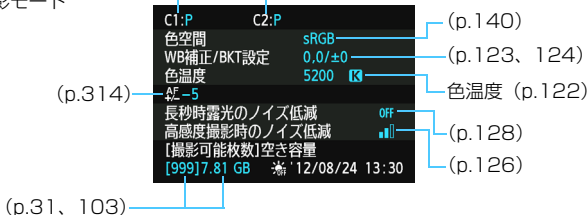
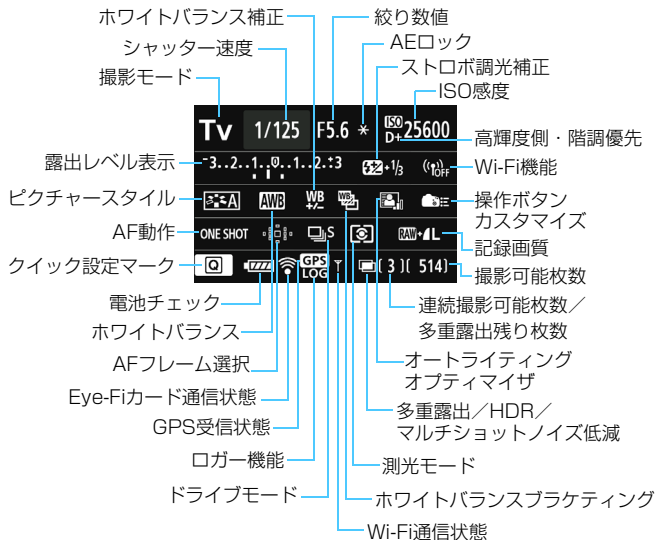
[¥3] タブの [INFO. ボタンで表示する内容] で、〈INFO.〉ボタンを押して表示する項目を選ぶことができます。

- 使用する項目を選び、〈SET〉を押して〈✓〉を付けます。
- 選択が終わったら [OK] を選び、〈SET〉を押します。

- 3項目すべての〈✓〉を外すことはできません。
- [**カメラ設定の内容**] のサンプル画面は、どの言語でも英語で表示されます。
- [**水準器**] を表示しない設定にしても、ライブビュー撮影時、動画撮影時は、〈INFO.〉ボタンを押すと、水準器が表示されます。

カメラ設定の内容

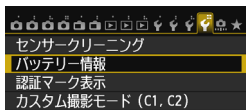
撮影機能の設定状態

ホワイトバランス補正
シャッター速度
撮影モード
絞り数値
AEロック
ストロボ調光補正
ISO感度
高輝度側・階調優先
露出レベル表示
Wi-Fi機能
ピクチャースタイル
操作ボタンカスタマイズ
AF動作
記録画質
クイック設定マーク
撮影可能枚数
電池チェック
連続撮影可能枚数／多重露出残り枚数
ホワイトバランス
AFフレーム選択
オートライティングオプティマイザ
Eye-Fiカード通信状態
多重露出／HDR／マルチショットノイズ低減
GPS受信状態
ロガー機能
測光モード
ドライブモード
ホワイトバランスブラケティング
Wi-Fi通信状態

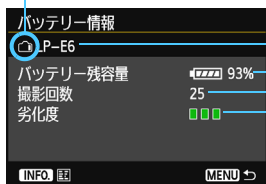
Tv 1/125 F5.6 ✱ ISO D+ 25600
-3..2..1..0..1..2.:3 ±1/3 OFF
A AWB WB +/-
ONE SHOT S RAW+L
Q GPS LOG [3][514]

- 〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定を行うことができます（p.49）。
- 〈AF〉〈DRIVE〉〈ISO〉〈測光〉〈ピクチャースタイル〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈メイン電子ダイヤル〉や〈サブ電子ダイヤル〉、〈マルチコントローラー〉で設定を行うことができます。

「撮影機能の設定状態」の画面が表示された状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに同じ画面が表示されます。解除するときは、〈INFO.〉ボタンを押して画面が表示されていない状態で電源を切ります。

MENU 電池情報を確認する

使用している電池の状態を画面で確認することができます。また、バッテリーパック LP-E6には固有の番号（シリアル番号）が記録されているため、複数の電池をカメラに登録することができます。この機能を利用すると、手元にある登録済みの電池の残容量や、使用履歴を確認することができます。

［バッテリー情報］を選ぶ

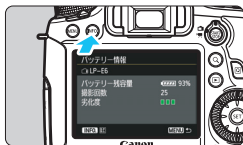
- ［¥4］タブの［**バッテリー情報**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 電池情報の画面が表示されます。

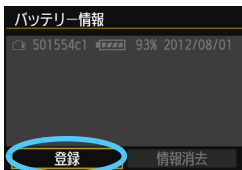
電池位置

- 使用している電池、または家庭用電源の型式が表示されます。
- 電池チェック表示（p.35）とともに、残量が1%単位で表示されます。
- 使用している電池で撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます。
- 電池の劣化状態が3段階で表示されます。
  - ■■■（緑）：劣化していません
  - ■■□（緑）：少し劣化しています
  - ■□□（赤）：電池の買い換えをおすすめします

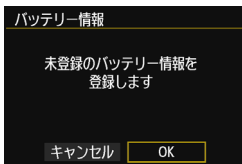
キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6のご使用をおすすめします。純正品以外の電池を使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

- 撮影回数は、静止画撮影を行った回数が表示されます（動画撮影は回数に含まれません）。
- バッテリーグリップ BG-E13に、バッテリーパック LP-E6を入れたときも、電池情報が表示されます。単3形電池を使用したときは、電池チェック表示の情報のみ表示されます。
- 何らかの原因で電池と通信できない、または通常の通信と異なるときは、［**このバッテリーを使用しますか?**］と表示されますが、［**OK**］を選ぶとそのまま撮影できます。ただし、電池によってはバッテリー情報の画面が表示されなかったり、画面が表示されても、バッテリーの情報が正しく表示されないことがあります。

電池をカメラに登録する

バッテリーパック LP-E6を最大6個までカメラに登録することができます。複数の電池を登録するときは、電池ごとに以下の操作を行ってください。

1 〈INFO.〉ボタンを押す

- バッテリー情報の画面が表示された状態で、〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ 使用履歴画面が表示されます。
- ➡ 登録されていない電池は灰色で表示されます。

2 [登録] を選ぶ

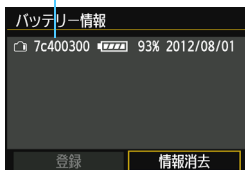
- [登録] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 確認画面が表示されます。

3 [OK] を選ぶ

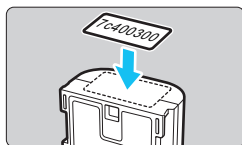
- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 電池が登録され、使用履歴画面に戻ります。
- ➡ 表示が灰色から白色に変わります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、バッテリー情報の画面に戻ります。

- バッテリーグリップ BG-E13に単3形電池を装填しているときや、電源にACアダプターキット ACK-E6を使用しているときは登録できません。
- すでに電池が6個登録されているときは、[登録] は選べません。337ページを参照して、不要な電池情報を削除してください。

電池のシリアル番号が一目でわかるようにする

登録したバッテリーパック LP-E6のシリアル番号を、市販のシールなどに書き留めて、すべての電池に貼り付けておくと便利です。

シリアル番号

1 シリアル番号をシールに書き留める

- 使用履歴画面に表示された番号を、横25mm×縦15mm程度のシールに書き留めます。

2 電池を取り出しシールを貼り付ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- 電池室ふたを開けて、電池を取り出します。
- 図の位置（接点がない面）にシールを貼り付けます。

- この手順を繰り返して、すべての電池のシリアル番号が一目でわかるようにします。

- 手順2の図以外の位置にシールを貼り付けないでください。電池が入れにくくなったり、電源が入らなくなることがあります。
- BG-E13 使用時は、バッテリーマガジンへの取り付け / 取り外しを繰り返すと、シールがはがれることがあります。はがれたときは、新しいシールを貼りなおしてください。

登録済みで使用していない電池の残容量の確認方法

手元にある（現在使用していない）電池の残容量や前回使用した日を、画面で確認することができます。

シリアル番号を照合する

- 使用履歴画面の内容と、電池に貼り付けたシールのシリアル番号を照合します。
- ➡ 手元にある電池のおおよその残容量や、前回使用した日を確認することができます。

登録した電池情報を消去する

1 ［情報消去］を選ぶ

- 335ページの手順2で［**情報消去**］を選び、〈SET〉を押します。

2 消去する電池を選ぶ

- 消去する電池を選び〈SET〉を押します。
- ➡〈✓〉が表示されます。
- 他に消去したい電池があるときは、繰り返します。

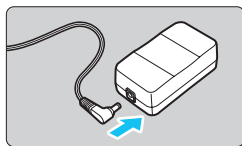
3 〈🗑〉ボタンを押す

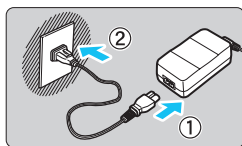
- ➡ 確認画面が表示されます。

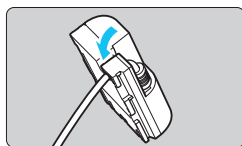
4 ［OK］を選ぶ

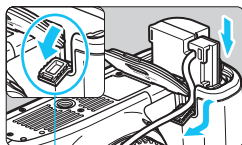
- ［OK］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 電池情報が消去され、手順1の画面に戻ります。

家庭用電源を使用する

ACアダプターキット ACK-E6（別売）を使うと、家庭用電源を使用して電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 DCカプラーのプラグを接続する

- DCカプラーのプラグを、ACアダプターのソケットに接続します。

2 電源コードを接続する

- 電源コードを図のように接続します。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

3 コードを溝にはめ込む

- DC カプラーのコードを傷つけないように、ていねいにはめ込みます。

DCカプラーコード通し部

4 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DC カプラーコード通し部のカバーを開きます。
- DC カプラーをロック位置までしっかりと入れ、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。

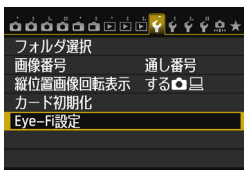
電源スイッチを〈ON〉にしたまま、電源コードやDCカプラーのプラグの抜き差しを行わないでください。

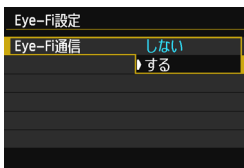
Eye-Fiカードを使う

セットアップした市販のEye-Fiカードを使うと、撮影しながら画像を無線LAN経由でパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードすることができます。

画像の転送は、Eye-Fiカードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するかカードメーカーにお問い合わせください。

本製品は、Eye-Fiカードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。また、Eye-Fiカードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

1 Eye-Fiカードを入れる（p.31）

2 ［Eye-Fi設定］を選ぶ

- ［1］タブの［**Eye-Fi設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- このメニューは、Eye-Fiカードを入れたときだけ表示されます。

3 通信機能を有効にする

- 〈SET〉を押し、［**Eye-Fi通信**］の［**する**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**しない**］を選ぶと、Eye-Fiカードが入っていても、自動転送されません（通信状態マーク）。

4 通信情報一覧を表示する

- [**通信情報一覧**] を選び〈SET〉を押します。

5 [接続先のSSID:] を確認する

- [**接続先のSSID:**] に転送先が表示されているか確認します。
- Eye-FiカードのMACアドレスとファームウェアのバージョンも確認できます。
- 〈**MENU**〉ボタンを押してメニューを終了します。

6 撮影する

➡ 画像が転送され、〈〉が灰色（未接続）状態から、下記のように切り換わっていきます。

- 転送した画像は、撮影情報表示（p.238）の画面にが表示されます。

通信状態マーク

- （灰色）**未接続**　：転送先に接続していません。
- （点滅）**接続中**　：転送先に接続しています。
- （点灯）**転送待機**：転送先に接続しました。
- （↑）**転送中**　：画像を転送しています。

Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- ［3：Wi-Fi］が［使う］に設定されているときは、Eye-Fiカードでの画像転送はできません。
- 「」が表示されたときは、カード情報の取得エラーです。カメラの電源を入れなおしてください。
- ［Eye-Fi通信］を［しない］に設定しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前にEye-Fi カードを取り出しておいてください。
- 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳細はカードの使用説明書を参照してください。
- 無線LAN の接続状態により、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断することがあります。
- Eye-Fi カードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
- 電池の消耗が早くなります。
- 画像の転送中、オートパワーオフは機能しません。
- Eye-Fiカード以外の無線LANカードを入れたときは、メニューの［Eye-Fi設定］は表示されません。また、液晶モニターに通信状態マーク〈〉も表示されません。

各撮影モードで設定できる機能一覧

静止画撮影時

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

機能		かんたん撮影ゾーン									応用撮影ゾーン				
		A+	CA	SCN											
				[ポートレート]	[風景]	[クローズアップ]	[スポーツ]	[夜景ポートレート]	[手持ち夜景]	[HDR逆光補正]	P	Tv	Av	M	B
全記録画質の選択		○	○	○	○	○	○	○	○*1	○*1	○	○	○	○	○
ISO感度	自動設定/ISOオート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	手動設定										○	○	○	○	○
ピクチャースタイル	自動設定/オート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	任意設定										○	○	○	○	○
ホワイトバランス	オート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	プリセット										○	○	○	○	○
	マニュアル										○	○	○	○	○
	色温度指定										○	○	○	○	○
	補正/ブラケティング										○	○	○	○	○
オートライティングオプティマイザ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
レンズ光学補正	周辺光量補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	色収差補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長秒時露光のノイズ低減											○	○	○	○	○
高感度撮影時のノイズ低減		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
高輝度側・階調優先											○	○	○	○	○
多重露出撮影											○	○	○	○	○
HDR撮影											○	○	○	○	
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	Adobe RGB										○	○	○	○	○
AF	ワンショットAF			●	●	●		●	●	●	○	○	○	○	○
	AIサーボAF						●				○	○	○	○	○
	AIフォーカスAF	●	●								○	○	○	○	○
	AFフレーム選択	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	手動ピント合わせ（MF）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	AFマイクロアジャストメント										○	○	○	○	○

*1 ：RAW＋JPEG、RAWは選択できません。

機能		かんたん撮影ゾーン									応用撮影ゾーン				
		A+	CA	SCN											
											P	Tv	Av	M	B
測光方式	評価測光	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	測光モード選択										○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト										○				
	AEロック										○	○	○	*2	
	露出補正										○	○	○		
	AEB										○	○	○	○	
	被写界深度確認										○	○	○	○	○
ドライブ	1枚撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	連続撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	静音1枚撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	静音連続撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	セルフ：10秒/リモコン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	セルフ：2秒/リモコン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外部ストロボ	ストロボ発光	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	FEロック										○	○	○	○	○
	ストロボ調光補正										○	○	○	○	○
	AF補助光	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
ライブビュー撮影		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アスペクト比*3											○	○	○	○	○
クイック設定		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*2 ：ISOオート時は、ISO感度を固定することができます。
*3 ：ライブビュー撮影時のみ設定できます。

動画撮影時

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

機能		動画								静止画		
		A+	CA	SCN	P	Tv	Av	B	M	[カメラ]*1		
		[動画]A+			[動画]				[動画]M	[動画]A+	[動画]	[動画]M
全記録画質の選択（動画）		○	○	○	○	○	○	○	○			
全記録画質の選択（静止画）										○	○	○
ビデオスナップ		○	○	○	○	○	○	○	○			
ISO感度	自動設定/ISOオート	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	○
	手動設定								○			○
ピクチャースタイル	自動設定/オート	●	●	●	○	○	○	○	○	●	○	○
	任意設定				○	○	○	○	○		○	○
ホワイトバランス	オート	●	●	●	○	○	○	○	○	●	○	○
	プリセット				○	○	○	○	○		○	○
	マニュアル				○	○	○	○	○		○	○
	色温度指定				○	○	○	○	○		○	○
	補正				○	○	○	○	○		○	○
	ブラケティング										○	○
オートライティングオプティマイザ		●	●	●	○	○	○	○	○	●	○	○
レンズ光学補正	周辺光量補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	色収差補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長秒時露光のノイズ低減											●	
高感度撮影時のノイズ低減*2		●	●	●	○	○	○	○	○	●	○	○
高輝度側・階調優先					○	○	○	○	○		○	○
多重露出撮影												
HDR撮影												
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
	Adobe RGB										○	○

*1 ：[カメラ]は、動画撮影時の静止画撮影を示しています。
*2 ：マルチショットノイズ低減（[NR]）は設定できません。

機能		動画								静止画		
		A+	CA	SCN	P	Tv	Av	B	M	📷*1		
		🎥A+			🎥				🎥M	🎥A+	🎥	🎥M
AF	ライブ1点AF AF□	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	顔ライブAF AF☺	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	クイックAF*3 AFQuick	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	手動ピント合わせ（MF）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
測光方式		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
露出	プログラムシフト											
	AEロック				○	○	○	○	*4		○	
	露出補正				○	○	○	○			○	
	AEB											
	被写界深度確認											
ドライブ	1枚撮影									○	○	○
	連続撮影									○	○	○
	静音1枚撮影									○	○	○
	静音連続撮影									○	○	○
	セルフ：10秒/リモコン*5									○	○	○
	セルフ：2秒/リモコン*5									○	○	○
外部ストロボ	FEロック											
	ストロボ調光補正											
	AF補助光									●*6	●*6	●*6
アスペクト比												
録音		○	○	○	○	○	○	○	○			
タイムコード		○	○	○	○	○	○	○	○			
クイック設定		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*3 ：動画撮影中は［**ライブ1点AF**］に切り換わります。
*4 ：ISOオート時は、ISO感度を固定することができます。
*5 ：動画撮影開始前のみ機能します。
*6 ：AF方式が［**クイックAF**］のとき、動画撮影開始前の静止画撮影時は、必要に応じて外部ストロボからAF補助光が投光されます。

メニュー機能一覧

ファインダー撮影／ライブビュー撮影時

：撮影1（赤）

		参照頁
記録画質	RAW*／M RAW*／S RAW*	102
	L／L／M／M／S1／S1／S2／S3	
電子音	入／切	－
カードなしレリーズ	する／しない	32
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	55

*〈〉〈〉モードでは、選択できません。

：撮影2（赤）

レンズ光学補正	周辺光量補正：する／しない 色収差補正：する／しない	131
外部ストロボ制御	ストロボの発光／E-TTL II 調光方式／Avモード時のストロボ同調速度／ストロボ機能設定／ストロボカスタム機能設定／設定初期化	172
ミラーアップ撮影	しない／する	165

の項目は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。

：撮影3（赤） 参照頁

項目	内容	参照頁
露出補正／AEB設定	1/3段ステップ、±5段（AEB±3段）	151 152
ISO感度に関する設定	ISO感度設定／ISO感度設定範囲／ISOオートの範囲／ISOオート低速限界	106 〜 111
オートライティングオプティマイザ	しない／弱め／標準／強め M, Bulb時はOFF	125
ホワイトバランス	AWB／☀／／／／／／／ K（約2500～10000）	120
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	121
WB補正/BKT設定	WB補正：B/A/M/G寄り各色9段 WB-BKT：B/A、M/G方向1段ステップ±3段	123 124
色空間	sRGB／Adobe RGB	140

* 動画撮影時、［**露出補正／AEB設定**］は［**露出補正**］になります。

：撮影4（赤）

項目	内容	参照頁
ピクチャースタイル	Aオート／Sスタンダード／Pポートレート／L風景／Nニュートラル／F忠実設定／Mモノクロ／1ユーザー設定1～3	112 〜 119
長秒時露光のノイズ低減	しない／自動／する	128
高感度撮影時のノイズ低減	しない／弱め／標準／強め／マルチショットノイズ低減機能	126
高輝度側・階調優先	しない／する	130
ダストデリートデータ取得	付属ソフトウェアでゴミ消し処理を行うためのデータを取得	281
多重露出	多重露出撮影／多重露出制御／重ねる枚数／多重露出撮影の継続	158
HDRモード	Dレンジ調整／HDR撮影の継続／画像位置自動調整	155

* 動画撮影時、［**多重露出**］［**HDRモード**］は表示されません。

1：ライブビュー撮影１（赤）

		参照頁
ライブビュー撮影	する／しない	187
AF方式	ライブ1点AF／ライブAF／クイックAF	192
グリッド	表示しない／9分割／24分割／9分割+対角	187
アスペクト比	3：2／4：3／16：9／1：1	188
露出Simulation	する／絞り込み中／しない	189

2：ライブビュー撮影2（赤）

LV静音撮影	モード1／モード2／しない	190
測光タイマー	4秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	191

：再生1（青）

画像プロテクト	画像の保護	265
画像回転	画像の縦横回転	246
画像消去	画像の消去	267
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	295
フォトブック指定	フォトブックにする画像を指定	299
RAW現像	RAWで撮影した画像を現像	272

▶：再生2（青）

		参照頁
リサイズ	画素数を少なく処理	277
レーティング	[OFF]／[★]／[★★]／[★★★]／[★★★★]／[★★★★★]	247
スライドショー	再生内容／再生間隔／リピート／切り換え効果／BGM選択	257
での画像送り	1枚／10枚／100枚／撮影日／フォルダ／動画／静止画／レーティング	243

▶：再生3（青）

ハイライト警告表示	しない／する	240
AFフレーム表示	しない／する	240
再生時のグリッド	表示しない／9分割╪／24分割▦／9分割+対角⋇	237
ヒストグラム	輝度／RGB	240
動画再生カウント*	記録時間／タイムコード	221
拡大倍率設定（約）	1倍（拡大なし）／2倍（中央から）／4倍（中央から）／8倍（中央から）／10倍（中央から）／等倍（任意選択合焦点から）／前回と同じ倍率（中央から）	245
HDMI機器制御	切／入	262

*［2］タブの［**タイムコード**］の［**動画再生カウント**］と設定が連動します。

：機能設定1（黄）

		参照頁
フォルダ選択	フォルダの選択と作成	134
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	136
縦位置画像回転表示	する ／する ／しない	270
カード初期化	記録内容を初期化して消去	53
Eye-Fi設定	Eye-Fiカード（市販品）装填時に表示	339

：機能設定2（黄）

オートパワーオフ	1分／2分／4分／8分／15分／30分／しない	55
液晶の明るさ	7段階の明るさ調整	269
液晶の消灯/点灯*1	消灯しない／半押し連動	56
日付/時刻/エリア	日付（年/月/日）／時刻（時/分/秒）／サマータイム／エリア	36
言語	表示言語を選択	38
GPS	GPS機器の選択／設定	*2

*1 動画撮影時、[**液晶の消灯/点灯**]は表示されません。

*2 詳しくは、GPS機能 使用説明書を参照してください。

GPS機能を使用するときは、使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。

：機能設定3（黄）

		参照頁
ビデオ出力方式	NTSC／PAL	216 264
機能ガイド	表示する／表示しない	63
INFO.ボタンで表示する内容	カメラ設定の内容／水準器／撮影機能の設定状態	332
Wi-Fi	使わない／使う	*
Wi-Fi機能	カメラ間で画像を送受信／スマートフォンと通信／EOS Utilityでリモート操作／Wi-Fi対応プリンターで印刷／Webサービスへ画像を送信／メディアプレーヤーで画像閲覧	

* 詳しくは、Wi-Fi機能 使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

：機能設定4（黄）

センサークリーニング	自動クリーニング：する／しない	280
	今すぐクリーニング	
	手作業でクリーニング	283
バッテリー情報	電源／残容量／撮影回数／劣化度／電池の登録／使用履歴確認	334 ～ 337
認証マーク表示	このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。	331
カスタム撮影モード（C1, C2）	モードダイヤルのC1、C2に現在のカメラ設定を登録	328
カメラ設定初期化	カメラの設定を初期状態にする	56
著作権情報	著作権情報の表示／作成者名入力／著作権者名入力／著作権情報の消去	138
ファームウェア	ファームウェア変更時に選択	－

- Wi-Fi機能を使用するときは、使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。
- カメラにパソコン、またはプリンターを接続しているときは、Wi-Fi機能は設定できません。

：カスタム機能（橙）

		参照頁
C.Fn I：露出	カメラの機能を細かく設定	304
C.Fn II：AF		307
C.Fn III：操作・その他		311
カスタム機能（C.Fn）一括解除	カスタム機能をすべて解除	302

★：マイメニュー（緑）

マイメニューの設定	よく使うメニュー機能やカスタム機能を登録	327

動画撮影時

1：動画1（赤）

		参照頁
AF方式	ライブ1点AF／ライブAF／クイックAF	223
LV静音撮影	モード1／モード2／しない	223
測光タイマー	4秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	223

2：動画2（赤）

グリッド	表示しない／9分割／24分割／9分割+対角	224
動画記録サイズ	1920×1080（30／25／24）（ALL-I／IPB） 1280×720（60／50）（ALL-I／IPB） 640×480（30／25）（IPB）	216
録音[*1]	録音：オート／マニュアル／しない 録音レベル ウィンドカット：切／入 アッテネーター：切／入	218
タイムコード	カウントアップ／スタート時間設定／動画記録カウント／動画再生カウント[*2]／ドロップフレーム	220
ビデオスナップ	ビデオスナップ：撮影しない／撮影する アルバムの設定：アルバムを新規に作成／既存のアルバムに追記	225

*1：かんたん撮影ゾーンのときは、［**録音**］：［**する／しない**］になります。
*2：［3］タブの［**動画再生カウント**］と設定が連動します。

システム図

ST-E2
ST-E3-RT
270EX II
320EX
430EX II
600EX-RT
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
90EX
主な付属品
フォーカシング
スクリーン Eg-A II
アイピースエクステンダー
EP-EX15
ラバーフレームEb
視度補正レンズE
アイカップEb
ワイドストラップ
EW-EOS6D
アングルファインダーC
フォーカシング
スクリーン
Eg-D Eg-S
ACアダプター
AC-E6
DCカプラー
DR-E6
ACアダプターキット
ACK-E6
バッテリーパック
LP-E6
バッテリーチャージャー
LC-E6
バッテリーグリップ
BG-E13
カーバッテリー
ケーブル CB-570
カーバッテリー
チャージャー
CBC-E6
ハンドストラップ
E2
LP-E6用
バッテリーマガジン
BGM-E13L
(BG-E13に付属)
単3形電池用
バッテリーマガジン
BGM-E13A
(BG-E13に付属)

*ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E7は使用できません。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

電池が充電できない

- バッテリー残容量（p.334）が94%以上のときは、充電は行われません。
- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6を使用してください。

充電器のランプが高速点滅する

- (1) 充電器または電池に異常が発生した場合や、(2) 電池と通信できない場合（純正以外の電池使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが等間隔で高速点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し／取り付けを行ってから、2〜3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は故障ですので、修理受付窓口にご相談ください。

充電器のランプが点滅しない

- 充電器に取り付けた電池の内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません（消灯）。また、充電中何らかの原因により、電池が高温になった場合は、自動的に充電を停止します（点滅継続）。なお、電池の温度が下がると自動的に充電が始まります。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.30）。
- 電池室ふたが閉まっているか確認してください（p.30）。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください（p.31）。
- 電池を充電してください（p.28）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使用してください（p.28）。
- 電池の性能が劣化している可能性があります。［**4：バッテリー情報**］で電池の劣化状態を確認してください（p.334）。劣化している場合は、新しい電池をお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - ・シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
  - ・AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使う
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する
  - ・ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行う
  - ・Eye-Fiカードの通信機能を有効にしているとき
  - ・GPS機能を有効にしているとき

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、［**2：オートパワーオフ**］を［**しない**］にしてください（p.55）。
- ［**2：オートパワーオフ**］を［**しない**］に設定していても、カメラを30分放置すると、節電のため液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

撮影関連

レンズが装着できない

- EF-S、EF-Mレンズは使用できません（p.39）。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.31）。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください（p.31）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.31、267）。
- ワンショット AF でピントを合わせたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.44、97）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、33ページ、370ページを参照してください。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.39）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.43、44）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にして撮影してください（p.42）。
- 暗い場所では、シャッター速度が遅くなることがあります。シャッター速度を速くする（p.144）、ISO感度を上げる（p.106）、ストロボを使用する（p.170）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください。AIサーボAF、およびAIフォーカスAFでサーボ状態のときは、フォーカスロック撮影はできません（p.69）。

連続撮影速度が遅い

- シャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさなどにより、連続撮影速度が低下することがあります。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、103ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

ISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

- ［z4：**高輝度側・階調優先**］が［**する**］に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～25600（動画撮影時は12800）になります。［**ISO感度設定範囲**］で設定範囲を拡張しても、拡張ISO感度（L,H,H1,H2）は選択できません。［z4：**高輝度側・階調優先**］を［**しない**］に設定すると、ISO100/125/160が設定できるようになります（p.130）。

オートライティングオプティマイザが設定できない

- ［z4：**高輝度側・階調優先**］が［**する**］に設定されているときは、オートライティングオプティマイザは設定できません。［z4：**高輝度側・階調優先**］を［**しない**］に設定すると、オートライティングオプティマイザが設定できるようになります（p.130）。

露出を暗めに補正したのに、明るく撮影される

- ［z3：**オートライティングオプティマイザ**］を［**しない**］に設定してください。［**標準/弱め/強め**］に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります（p.151）。

多重露出画像が1で撮影される

- 記録画質の設定が**M** 1、**S** 1のときは、多重露出画像は1で記録されます（p.164）。

〈Av〉モードでストロボ撮影すると、シャッター速度が遅くなる

- 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出となるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、［z2：**外部ストロボ制御**］の［**Avモード時のストロボ同調速度**］を、［**1/180-1/60秒自動**］または［**1/180秒固定**］に設定してください（p.173）。

ストロボが発光しない

- 汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、［**2：LV静音撮影**］を［**しない**］に設定してください（p.190）。

ストロボがいつもフル発光する

- EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します（p.171）。
- ストロボカスタム機能の［**調光方式**］が［**TTL（自動調光）**］に設定されていると、常時フル発光します（p.177）。

ストロボ調光補正ができない

- ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

- ［**2：外部ストロボ制御**］の［**Avモード時のストロボ同調速度**］を［**自動**］に設定してください（p.173）。

ライブビュー撮影でシャッター音が2回する

- ストロボ撮影時は、1回の撮影でシャッター音が2回します（p.181）。

ライブビュー撮影と動画撮影時に、白いと赤いが表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈〉が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈〉が表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影、または動画撮影が自動的に終了することを示しています（p.201、233）。

動画撮影ができない

- ［**ᛘ3**］タブの［**Wi-Fi**］が［**使う**］に設定されているときは、動画の撮影はできません。撮影を行う前に、［**Wi-Fi**］を［**使わない**］に設定してください。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。圧縮方式が「IPB」のときは、実際の書き込み/読み取り速度が6MB/秒以上、「ALL-I（I-only）」のときは実際の書き込み/読み取り速度が20MB/秒以上のカードを使用してください（p.3）。なお、速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してから29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが〈**M**〉以外のときは、ISO 感度が自動設定されます。〈**M**〉モードのときは、ISO感度を任意に設定することができます（p.209）。

動画撮影時にISO16000/20000/25600が設定できない

- ［**📷3：ISO感度に関する設定**］の［**ISO感度設定範囲**］の［**上限値**］を［**25600/H**］に設定すると、手動設定範囲の上限が拡張され、ISO16000/20000/25600が設定できるようになります。ただし、動画撮影時のISO16000/20000/25600は、ノイズが多いことがあるため拡張ISO感度になります（「**H**」表示）。

動画撮影にすると、手動設定したISO感度が変わる

- ［**ISO 感度設定範囲**］の［**上限値：25600**］設定時に、ISO16000/20000/25600に設定した状態で動画撮影にすると、ISO12800に切り換わります（動画マニュアル露出撮影時）。静止画撮影にしても、元の感度には戻りません。
- ①L（50）、②H1（51200），H2（102400）設定時に動画撮影にすると、ISO感度が①ISO100、②H（25600）に切り換わります（動画マニュアル露出撮影時）。静止画撮影にしても、元の感度には戻りません。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 開放絞り数値が変化するレンズ、変化しないレンズに関わらず、動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化が記録されることがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを素早く左右に動かしたり（高速パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED電球などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。なお、〈**M**〉モードのときは、シャッター速度を遅くすると、この現象が緩和されることがあります。

動画撮影中に静止画を撮影すると、動画撮影が終了する

- 静止画の記録画質を低くしたり、連続撮影する枚数を少なくすると、改善することがあります。

タイムコードがずれる

- 動画撮影中に静止画を撮影すると、実時間とタイムコードに差が生じます。タイムコードを利用して動画編集を行うときは、動画撮影中に静止画撮影を行わないことをおすすめします。

Wi-Fi 関連

Wi-Fiの設定ができない

- カメラとプリンターやパソコン、GPSレシーバーなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、Wi-Fiの設定ができません（[ψ3] タブの［Wi-Fi］が灰色で表示）。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください。

操作関連

〈 〉〈 〉〈 〉で設定を変更できない

- 〈LOCK▶〉スイッチを左側（ロック解除）にしてください（p.47）。
- ［C.Fn III -3：マルチ電子ロック］の設定内容を確認してください（p.313）。

操作部材の機能が入れ換わっている

- ［C.Fn III -5：操作ボタンカスタマイズ］の設定内容を確認してください（p.320）。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- かんたん撮影ゾーンでは、一部のタブや項目は表示されません。撮影モードを応用撮影ゾーンにしてください（p.51）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- 色空間をsRGBに設定してください。Adobe RGBに設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（p.140）。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（p.136）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.36）。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください（p.36、37）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付 / 時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます（p.291、295）。

[###] が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると［###］と表示されます（p.248）。

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- 液晶モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

[Eye-Fi設定] が表示されない

- ［**Eye-Fi設定**］は、Eye-Fiカードを入れているときにだけ表示されます。カードの書き込み禁止スイッチがあるEye-Fiカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると、通信状態を確認したり、Eye-Fi通信をしない設定にする機能が使えません（p.339）。

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

- ［**▶3：ハイライト警告表示**］が［**する**］に設定されています（p.240）。

画像に赤い枠が表示される

- ［**▶3：AFフレーム表示**］が［**する**］に設定されています（p.240）。

画像を消去できない

- プロテクトがかかっている画像は消去できません（p.265）。

動画が再生できない

- 付属ソフトウェアのImageBrowser EXなどを使用して（p.392）、パソコンで編集した動画は、カメラで再生できません。ただし、EOS Video Snapshot Task（p.232）で編集したビデオスナップアルバムは、カメラで再生することが可能です。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。市販の外部マイクの使用をおすすめします（p.219）。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、〈**M**〉モードで撮影してください（p.208）。

テレビに画像が表示されない

- 付属のステレオAVケーブルを使用してください（p.264）。
- ステレオAVケーブル、またはHDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.261、264）。
- ビデオ出力方式（NTSC/PAL）をテレビと同じ方式に設定してください（p.264）。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えるときは、動画ファイルが複数作成されます（p.217）。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSの種類により、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。その場合は、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、付属ソフトウェアのEOS Utilityを使って、画像を取り込んでください（p.392）。

RAW画像が現像できない

- **M RAW**、**S RAW** 画像はカメラで現像処理を行うことはできません。付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行ってください（p.392）。

画像をリサイズできない

- JPEGのS3とRAW/M RAW/S RAW画像は、カメラでリサイズ処理を行うことはできません（p.277）。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- ［**今すぐクリーニング**］を選んだときは、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません（p.280）。

撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈〉が表示されないことがあります（p.34）。

印刷関連

印刷効果の項目が説明書より少ない

- 表示される内容は、プリンターの機種により異なります。本書ではすべての項目を記載しています（p.290）。

ダイレクトプリントができない

- ［**3**］タブの［**Wi-Fi**］が［**使う**］に設定されているときは、ダイレクトプリントできません。［**Wi-Fi**］を［**使わない**］に設定してから、カメラとプリンターをインターフェースケーブルで接続してください。

画像転送関連

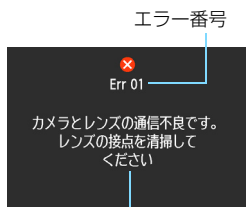
パソコンに画像が転送できない

- 付属のソフトウェア（EOS DIGITAL Solution Disk／CD-ROM）をパソコンにインストールしてください（p.392）。
- EOS Utilityの先頭画面が表示されていることを確認してください。
- ［5̸3］タブの［**Wi-Fi**］が［**使う**］に設定されているときは、パソコンとの接続ができません。［**Wi-Fi**］を［**使わない**］に設定してから、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続してください。

エラー表示

エラー番号

Err 01

カメラとレンズの通信不良です。
レンズの接点を清掃して
ください

原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

番号	メッセージ／対処方法
01	**カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください**
	➔ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用する（p.17、20）
02	**カードにアクセスできません。カードを入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください**
	➔ カード抜き差し、カード交換、カード初期化（p.31、53）
04	**カードがいっぱいになったため、記録できませんでした。カードを交換してください**
	➔ カード交換、不要画像の消去、カード初期化（p.31、53、267）
06	**センサークリーニングができませんでした。電源スイッチを入れなおしてください**
	➔ 電源スイッチ操作（p.34）
10, 20 30, 40 50, 60 70, 80 99	**エラーが発生したため撮影できません。電源スイッチを入れなおすか、電池を入れなおしてください**
	➔ 電源スイッチ操作、電池出し入れ、純正レンズを使用する（p.30、34）

＊上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。

主な仕様

■型式

型式……デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体……SDメモリーカード、SDHCメモリーカード*、SDXCメモリーカード*
* UHS-Iカード対応
撮像画面サイズ……約35.8×23.9mm
使用レンズ……キヤノンEFレンズ群（EF-S、EF-Mレンズを除く）
（有効撮影画角は、表記焦点距離の等倍に相当）
レンズマウント……キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式……CMOSセンサー
カメラ部有効画素……約2020万画素
アスペクト比……3：2
ダスト除去機能……自動/手動/ダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット……DCF2.0
画像タイプ……JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
RAW+JPEG同時記録可能
記録画素数……L（ラージ）：約2000万（5472×3648）画素
M（ミドル）：約890万（3648×2432）画素
S1（スモール1）：約500万（2736×1824）画素
S2（スモール2）：約250万（1920×1280）画素
S3（スモール3）：約35万（720×480）画素
RAW（ロウ）：約2000万（5472×3648）画素
M-RAW：約1100万（4104×2736）画素
S-RAW：約500万（2736×1824）画素
画像番号……通し番号、オートリセット、強制リセット

■撮影時の画像処理

ピクチャースタイル……オート、スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
ホワイトバランス……オート、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル、色温度指定（約2500～10000K）、ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
* ストロボ色温度情報通信対応

ノイズ低減......................... 長秒時露光、高感度撮影に対応
画像の明るさ自動補正...... オートライティングオプティマイザにより対応
高輝度側・階調優先.......... 可能
レンズ光学補正 .... 周辺光量補正、色収差補正

■ファインダー

方式..................................... ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率................................. 上下/左右とも約97%（アイポイント約21mm時）
倍率..................................... 約0.71倍（50mmレンズ・∞・－1m^{-1}）
アイポイント .... 約21mm（－1m^{-1}時/接眼レンズ中心から）
視度調整範囲 .... 約－3.0～+1.0m^{-1}（dpt）
フォーカシングスクリーン... Eg-A II 標準装備、交換可能
水準器表示......................... 水平方向：1°ステップ ±9°（横位置撮影時のみ）
ミラー................................. クイックリターン式
被写界深度確認 .... 可能

■オートフォーカス

方式..................................... TTL二次結像位相差検出方式
測距点................................. 11点
・中央：F5.6 光束対応のクロス測距
・中央：F2.8 光束対応の縦線検出測距
測距輝度範囲 .... EV －3～18（中央（F2.8、F5.6対応）測距点・常温・ISO100）
フォーカス動作 .... ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
AIサーボAF特性............... 被写体追従特性、速度変化に対する追従性
AF微調整........................... AFマイクロアジャストメントにより対応（全レンズ一律調整、レンズごとに調整）
AF補助光........................... EOS用外部ストロボのAF補助光による

■露出制御

測光方式............................. 63分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約8.0%）
・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約3.5%）
・中央部重点平均測光
測光範囲............................. EV 1～20（常温・EF50mm F1.8 II使用・ISO100）

露出制御方式 .... プログラムAE（シーンインテリジェントオート、クリエイティブオート、スペシャルシーン（ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、手持ち夜景、HDR 逆光補正）、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、バルブ

ISO感度（推奨露光指数）.............................. かんたん撮影ゾーン*：ISO 100～12800自動設定
* 風景：ISO 100～1600自動設定、手持ち夜景：ISO 100～25600自動設定
P, Tv, Av, M, B：ISOオート、ISO 100～25600任意設定（1/3、1段ステップ）、およびL（50相当）、H1（51200相当）、H2（102400相当）の感度拡張が可能

ISO感度関連設定.............. ISO感度設定範囲、ISOオート範囲、ISOオート低速限界設定可能

露出補正 .... 手動：1/3、1/2段ステップ±5段
AEB：1/3、1/2段ステップ±3段（手動露出補正との併用可能）

AEロック .... 自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタンによる

■HDR撮影

ダイナミックレンジ調整 .. 自動、±1、±2、±3

画像位置自動調整.............. 可能

■多重露出撮影

多重枚数 .... 2～9枚

多重露出制御 .... 加算、加算平均

■シャッター

形式.................................... 電子制御式、フォーカルプレーンシャッター

シャッター速度.................. 1/4000～30秒、バルブ、ストロボ同調最高シャッター速度1/180 秒

■ドライブ関係

ドライブモード……………… 1枚撮影、連続撮影、静音1枚撮影、静音連続撮影、セルフタイマー：10秒/リモコン、セルフタイマー：2秒/リモコン

連続撮影速度…………………… 連続撮影：最高約4.5コマ/秒
静音連続撮影：最高約3.0コマ/秒

連続撮影可能枚数…………… JPEGラージ/ファイン：約73枚（約1250枚）
RAW：約14枚（約17枚）
RAW+JPEGラージ/ファイン：約7枚（約8枚）
* （　）内の数値は、当社試験基準UHS-I対応、8GBカード使用時の枚数
* 当社試験基準8GBカードを使用し、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定

■外部ストロボ

対応ストロボ…………………… EXシリーズスピードライト

調光方式………………………… E-TTL II自動調光

ストロボ調光補正…………… 1/3、1/2段ステップ±3段

FEロック……………………… 可能

シンクロ端子…………………… なし

外部ストロボ制御…………… 可能
* 電波通信ワイヤレスストロボ撮影対応

■ライブビュー撮影機能

アスペクト比切り換え…… 3：2、4：3、16：9、1：1

フォーカス方式……………… ライブ1点AF、顔優先ライブAF（コントラスト検出方式）、クイックAF（位相差検出方式）、手動ピント合わせ（約5倍/10倍拡大可能）

測距輝度範囲………………… EV 1～18（コントラスト検出方式時／常温・ISO100）

測光方式………………………… 評価測光（315分割）、部分測光（ライブビュー画面の約11%）、スポット測光（ライブビュー画面の約3%）、中央部重点平均測光

測光範囲………………………… EV 0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）

静音撮影………………………… 可能（モード1、2）

グリッド表示………………… 3種類

■動画撮影機能

記録形式............................MOV
　映像................................MPEG-4 AVC/H.264
　　可変（平均）ビットレート方式
　音声................................リニアPCM
記録サイズと
フレームレート.................1920×1080（Full HD）：30p/25p/24p
1280×720（HD）　　：60p/50p
640×480（SD）　　　：30p/25p
* 30p：29.97fps、25p：25.00fps、24p：23.976fps、60p：59.94fps、50p：50.00fps
圧縮形式............................IPB、ALL-I（I-only）
ファイルサイズ.................1920×1080（30p/25p/24p）/ IPB：約235MB/分
1920×1080（30p/25p/24p）/ ALL-I：約685MB/分
1280×720（60p/50p）/ IPB　　：約205MB/分
1280×720（60p/50p）/ ALL-I　　：約610MB/分
640×480（30p/25p）/ IPB　　　：約78MB/分
* 動画撮影に必要なカードの書き込み/ 読み取り速度：IPB：6MB/秒以上、ALL-I：20MB/秒以上
フォーカス方式..................ライブビュー撮影機能のフォーカスに準ずる
測光方式............................撮像素子による中央部重点平均測光、および評価測光
* フォーカス方式により自動設定
測光範囲............................EV 0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御............................動画撮影用プログラムAE、マニュアル露出
露出補正............................1/3段ステップ±3段（静止画±5段）
ISO感度.............................自動露出撮影時：ISOオート（ISO100～12800自動設定）、
（推奨露光指数）　応用撮影ゾーン時は上限値・下限値の変更が可能
マニュアル露出撮影時：ISOオート（ISO100～12800自動設定）、ISO100～12800手動設定（1/3、1段ステップ）、H（16000/20000/25600相当）の感度拡張が可能
タイムコード.....................対応
ドロップフレーム..............60p/30p対応
ビデオスナップ.................2秒間/4秒間/8秒間から設定可能
録音..................................内蔵モノラルマイク、外部ステレオマイク端子装備
録音レベル調整可能、ウィンドカット機能搭載、アッテネーター機能搭載
グリッド表示.....................3種類
静止画................................撮影可能

■液晶モニター

形式..................................... TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数....... ワイド3.0型（3：2）／約104万ドット
明るさ調整......................... 手動（7段階）
水準器表示......................... 可能
メニュー表示言語 .... 日本語、英語、簡体字中国語
機能ガイド/ヘルプ........... 表示可能

■再生機能

画像表示形式..................... 1枚表示、1枚+情報表示（簡易情報、撮影情報、ヒストグラム）、4枚インデックス、9枚インデックス
ハイライト警告................. ハイライト部分点滅表示
AFフレーム表示............... 可能
グリッド表示..................... 3種類
拡大ズーム倍率................. 約1.5～10倍、拡大開始倍率/開始位置設定可能
画像送り............................ 1枚/10枚/100枚/撮影日/フォルダ/動画/静止画/レーティング
画像回転............................. 可能
レーティング..................... 可能
動画再生............................. 可能（液晶モニター、映像/音声出力、HDMI出力）スピーカー内蔵
スライドショー................. 全画像/日付/フォルダ/動画/静止画/レーティング
BGM選択.......................... スライドショー、動画再生時に選択可能
画像プロテクト................. 可能

■撮影後の画像処理

カメラ内RAW現像........... 明るさ補正、ホワイトバランス、ピクチャースタイル、オートライティングオプティマイザ、高感度撮影時のノイズ低減、JPEG記録画質、色空間、周辺光量補正、歪曲補正、色収差補正
リサイズ............................ 可能

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター................. PictBridge対応プリンター
印刷対応画像..................... JPEG画像、RAW画像
印刷指定............................ DPOF バージョン1.1準拠

■カスタマイズ機能

カスタム機能 20種
マイメニュー登録..............可能
カスタム撮影モード..........モードダイヤルのC1/C2に登録
著作権情報 ....設定/付加可能

■インターフェース

映像/音声出力・
デジタル端子 ....アナログ映像（NTSC、PAL対応）/ステレオ音声出力
パソコン通信、ダイレクトプリント（Hi-Speed USB相当）、GPSレシーバー GP-E2接続
HDMIミニ出力端子 ....タイプC（解像度自動切り換え）、CEC対応
外部マイク入力端子..........Φ3.5mmステレオミニジャック
リモコン端子 N3タイプのリモコンに対応
ワイヤレスリモコン..........リモートコントローラー RC-6に対応
Eye-Fiカード.....................対応

■電源

使用電池.............................バッテリーパックLP-E6、1個
* ACアダプターキットACK-E6使用により、AC駆動可能
* バッテリーグリップBG-E13装着時、単3形電池使用可能
電池情報.............................残容量、撮影回数、劣化度確認、電池登録可能
撮影可能枚数の目安..........ファインダー撮影：
（CIPA試験基準による） 常温（23℃）約1090枚/低温（0℃）約980枚
ライブビュー撮影：
常温（23℃）約220枚/低温（0℃）約190枚
動画撮影可能時間..............常温（23℃）約1時間35分
低温（0℃）約1時間25分
（フル充電のバッテリーパックLP-E6使用時）

■大きさ・質量

大きさ................................約144.5（幅）×110.5（高さ）×71.2（奥行）mm
質量....................................約755 g（CIPAガイドラインによる）/約680 g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度………………0℃～＋40℃
使用可能湿度………………85%以下

■バッテリーパック LP-E6

形式………………………………充電式リチウムイオン電池
公称電圧…………………………DC7.2V
容量………………………………1800mAh
大きさ……………………………約38.4（幅）×21.0（高さ）×56.8（奥行）mm
質量………………………………約80g

■バッテリーチャージャー LC-E6

充電可能電池………………バッテリーパック LP-E6
充電時間…………………………約2時間30分
定格入力…………………………AC100～240V（50/60Hz）
定格出力…………………………DC8.4V/1.2A
使用可能温度………………+5℃～＋40℃
使用可能湿度………………85%以下
大きさ……………………………約69.0（幅）×33.0（高さ）×93.0（奥行）mm
質量………………………………約130g

■EF24-105mm F4L IS USM

画角………………………対角線：84°～23° 20′
水平：74°～19° 20′
垂直：53°～13°
構成枚数…………………13群18枚
最小絞り…………………F22
最短撮影距離……………0.45m（撮像面から）
最大撮影倍率……………0.23倍（105mm時）
画界………………………535×345mm～158×106mm（0.45m時）
手ブレ補正機能…………レンズシフト式
フィルター径……………77mm
レンズキャップ…………E-77U/E-77 II
最大径×長さ……………83.5×107mm
質量………………………約670g
対応フード………………EW-83H
対応ケース………………LP1219

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 大きさ、最大径、長さ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量を除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標、または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国および他の国で登録された、米国アップル社の商標、または登録商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の商標または登録商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

バッテリーパック LP-E6は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、アフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

15

使用説明書（CD-ROM）の見かた／パソコンに画像を取り込む

この章では、付属のカメラ使用説明書（CD-ROM）、およびパソコンに画像を取り込む方法、EOS DIGITAL Solution Disk（CD-ROM）に収録されている各ソフトウェアの概要、パソコンへのインストール方法、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）に収録されているPDFファイルの見かたを説明しています。

カメラ使用説明書

EOS DIGITAL Solution Disk（ソフトウェア）

ソフトウェア使用説明書

カメラ使用説明書CD-ROMの見かた

カメラ使用説明書CD-ROM には、下記の電子マニュアル（PDF形式）が収録されています。

- **カメラ使用説明書**
  本書と同じ内容です。
- **Wi-Fi機能 使用説明書**
  「基本編」の内容を含む、Wi-Fiのすべての機能と操作方法を記載した説明書です。

カメラ使用説明書CD-ROMの見かた

各使用説明書（PDF ファイル）を見るためには、パソコンにAdobe Reader（バージョン6.0以上）がインストールされている必要があります。Adobe Readerはインターネット上から無料でダウンロードすることができます。パソコンにAdobe Readerをインストールしてから、以下の操作を行ってください。

1 パソコンに「カメラ使用説明書」のCD-ROMを入れる

Canon (D:)

2 CD-ROMのアイコンをダブルクリックする

- Windowsでは、［**(マイ) コンピューター**］内に表示されるアイコン
- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されるアイコン
- 表示されるアイコンはパソコンの環境によって異なります。

3 「START」のファイルをダブルクリックする

➡ 手順4に示す画面が表示されます。

- 表示されるアイコンはパソコンの環境によって異なります。

4 見たい使用説明書名をクリックする

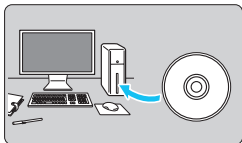
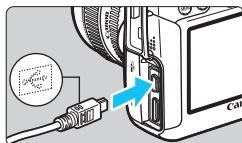
- 各言語の下に表示されている説明書名をクリックします。

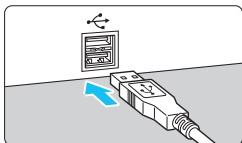
➡ 希望する言語の使用説明書が表示されます。

- PDFファイルはパソコンに保存することができます。
- 各使用説明書（PDFファイル）は、見たいページがすぐに見られるように、ページリンク機能が組み込まれています。目次や索引などでページ番号をクリックすると、そのページへジャンプします。
- Adobe Readerの使い方については、Adobe Readerのヘルプなどを参照してください。

パソコンに画像を取り込む

付属のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、2通りあります。

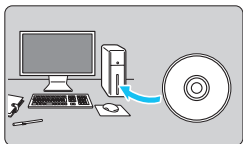
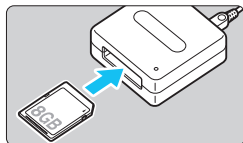
カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

1 ソフトウェアをインストールする
（p.394）

2 カメラとパソコンを、付属のインターフェースケーブルで接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈⭠〉が、カメラの前面に向くようにして、〈**DIGITAL**〉端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

3 EOS Utility を使って、画像を取り込む

- ソフトウェア使用説明書（CD-ROM ／ p.395）を参照してください。

［Ɏ3］タブの［Wi-Fi］が［**使う**］に設定されているときは、カメラとパソコンを接続することができません。［Wi-Fi］を［**使わない**］に設定してからインターフェースケーブルを接続してください。

カードリーダーで画像を取り込む

市販のカードリーダーをお持ちの方は、カードリーダーを使って、画像をパソコンに取り込むことができます。

1 ソフトウェアをインストールする
（p.394）

2 カードリーダーに、カードを差し込む

3 ソフトウェアを使って、画像を取り込む

➡ Digital Photo Professional を使う
➡ ImageBrowser EX を使う
● ソフトウェア使用説明書（CD-ROM ／ p.395）を参照してください。

キヤノン製ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

ソフトウェアの概要

イオス デジタル ソリューション ディスク
EOS DIGITAL Solution Disk

EOS DIGITAL用の各種ソフトウェアが収録されています。

イオス ユーティリティー
EOS Utility

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うことができるソフトウェアです。また、EOS Sample Music*などのBGMを、カードにコピーすることができます。

* キヤノン・オリジナルのBGMです（全5曲）。EOS Utilityを使って、カードにコピーをすることで、カメラ本体でビデオスナップアルバム、動画、スライドショーを再生するときのBGMとして楽しむことができます。

デジタル フォト プロフェッショナル
Digital Photo Professional

主にRAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像の高速閲覧／編集／現像／印刷などができます。JPEG画像もオリジナル画像を残したままで編集することができます。

イメージブラウザー イーエックス
ImageBrowser EX

主にJPEG画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。簡単な操作で、静止画／MOV動画、ビデオスナップアルバムの閲覧・再生、およびJPEG画像の印刷ができます。また、EOS Video Snapshot Task（p.232）などインターネットに接続して取得できる追加機能もあります。

従来製品に付属していたソフトウェアZoomBrowser EX/ImageBrowser は、このカメラで撮影した静止画ファイル、MOV動画ファイルをサポートしていません（動作対象外）。このカメラに付属のImageBrowser EXを使用してください。

Picture Style Editor
（ピクチャー スタイル エディター）

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成／保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

Map Utility
（マップ ユーティリティー）

GPS機能で記録した位置情報を使用して、パソコンの地図に、画像の撮影場所を表示できます。**Map Utilityをインストールするためには、インターネットに接続する必要があります。**インターネットに接続し、パソコンにEOS DIGITAL Solution Diskを入れ、［**おまかせインストール**］（Macintoshでは［**インストール**］）をクリックすると、自動的にインストールされます。

ソフトウェアのインストール

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。インストールが正しく行われません。
- お使いのパソコンにすでにImageBrowser EXがインストールされている場合でも、本機に付属のCDからImageBrowser EXをインストールしてください。このカメラの機能に対応した最適なバージョンに更新できます。また、オートアップデート機能により新しい機能を追加できることがあります。
- ImageBrowser EX以外のソフトウェアについても、旧バージョンがインストールされている場合は、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 EOS DIGITAL Solution Disk （CD-ROM）を入れる

- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されたCD-ROMアイコンをダブルクリックして開き、［Canon EOS Digital Installer］をダブルクリックしてください。

2 ［おまかせインストール］をクリックし、画面の指示に従って操作する

- Macintoshでは、［インストール］をクリックしてください。
- インストール途中に、“Microsoft Silverlight”のインストール画面が表示されたときは、“Microsoft Silverlight”のインストールを行ってください。

3 ［再起動］をクリックし、再起動したらCD-ROMを取り出す

- パソコンが再起動したら、インストール完了です。

ソフトウェアの使用説明書

ソフトウェアの使用説明書が収録されています。

使用説明書PDFファイルのコピー方法と見かた

1 パソコンに「ソフトウェア使用説明書」のCD-ROMを入れる

2 CD-ROMのアイコンをダブルクリックする

- Windowsでは、［(マイ) コンピューター］内に表示されるアイコン
- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されるアイコン

3 ［Japanese］フォルダをパソコンにコピーする

- 以下の名前の使用説明書PDFファイルがコピーされます。

	Windows	Macintosh
EOS Utility	EUx.xW_J_xx	EUx.xM_J_xx
Digital Photo Professional	DPPx.xW_J_xx	DPPx.xM_J_xx
ImageBrowser EX	IBXx.x_J_xx	
Picture Style Editor	PSEx.xW_J_xx	PSEx.xM_J_xx
Map Utility	MUx.x_J_xx	

4 コピーしたPDFファイルをダブルクリックする

- パソコンにAdobe Reader（最新版推奨）がインストールされている必要があります。
- Adobe Readerはインターネット上から無料でダウンロードできます。

索 引

英数字

あ

か

さ

ま

や

ら

わ

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00～20：00
土・日・祝日 10：00～17：00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。
※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。
※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos-d

この使用説明書に記載しているレンズ、アクセサリーは、2012年9月時点のものです。それ以降に発売されたレンズ、アクセサリーとの組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CPH-J056-000